

いた ばし
板橋 1 遺跡

第2次発掘調査報告書

いた ばし
板橋 2 遺跡

第2~4次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第125集

平成16年

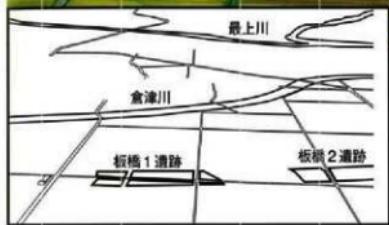
財団法人 山形県埋蔵文化財センター



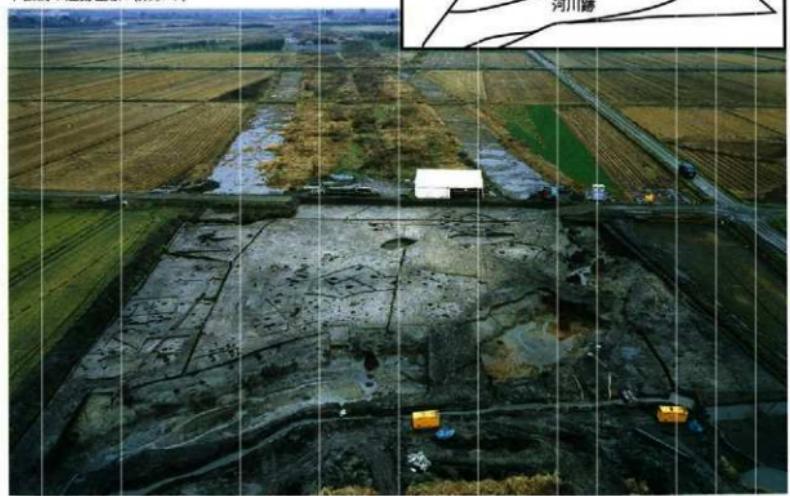
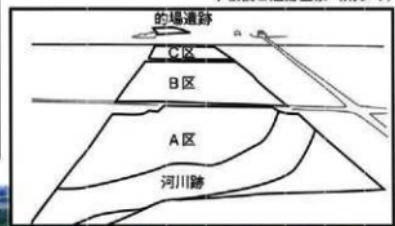


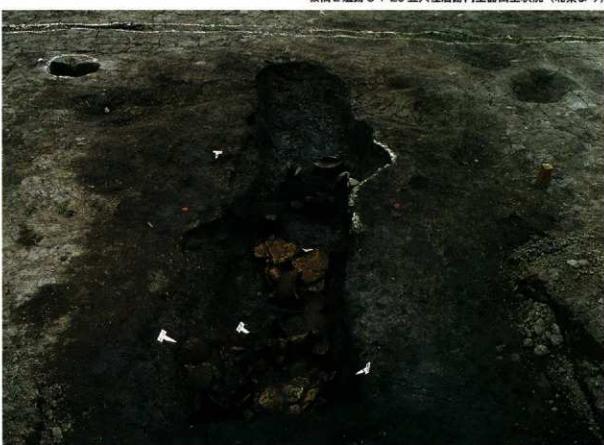
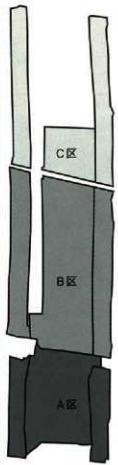
最上川

↓板橋2遺跡全景(南より)



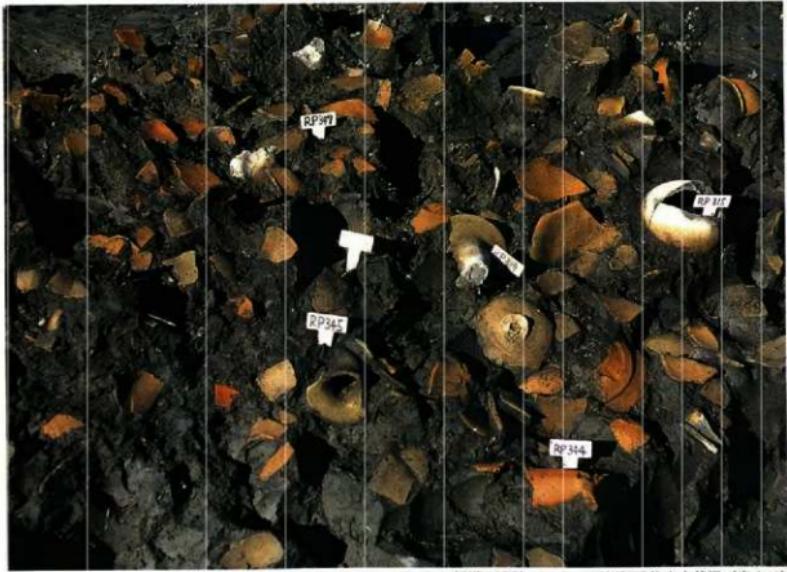
↑板橋1遺跡全景(東より)







板橋2遺跡 SG 325 河川跡全景（東より）



板橋2遺跡 SG 325 河川跡遺物出土状況（南より）

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、板橋1遺跡、板橋2遺跡の調査成果をまとめたものです。

板橋1遺跡、板橋2遺跡は、山形県の中央部東寄りに位置する天童市にあります。当地は、太平洋側から奥羽山脈を越えて山形盆地に入り、山形県の母なる川最上川に向かう最短ルート上にあります。早くから、人々の動きの盛んな地域であったことが窺われます。

この度、東北中央自動車道相馬・尾花沢線（上山～東根間）の建設工事に伴い、工事に先だって板橋1遺跡、板橋2遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、縄文時代から平安時代までの各時代に、人々が当地とどのように関わっていたのかを確認することができました。特に古墳時代には、幅6mを超える河川が東から西に蛇行しながら流れ、その北岸に30棟を超える住居が建てられ、集落が形成されました。また、その河川からは、多量の土器や木製品が出土しました。それらからは、遠く山陰地方や機内、北陸、東海など他地域からの影響がうかがわれ、当時の人々が様々な地域と交流を保ちながら豊かな生活を送っていたことがしのばれます。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成16年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 木村 宰

本書は日本道路公団東北中央自動車道相馬～尾花沢線（上山～東根間）建設工事に係る「板橋1遺跡」
第2次調査「板橋2遺跡」第2～4次調査の発掘調査報告書である。
既刊の年報、調査説明資料などの内容に優先し、本書を持って本報告とする。
調査は日本道路公団東北支社の委託を受けて、財團法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
出土遺物、調査記録類については、報告書作成終了後すみやかに山形県教育委員会に移管する。

調査要項

遺跡名	板橋1遺跡
遺跡番号	平成9年度登録
所在地	山形県天童市大字藏増字板橋
調査委託者	日本道路公団東北支社山形工事事務所
調査受託者	財團法人山形県埋蔵文化財センター
受託期間	平成10年4月1日～平成16年3月31日
現地調査	平成10年4月14日～9月30日（第2次調査）
調査担当者	調査第一課長 佐藤 庄一 主任調査研究員 佐藤 正俊 調査研究員 斎藤 健（調査主任） 調査研究員 大飼 透 嘱託調査員 大泉壽太郎 整理担当者 調査第一課長 佐藤 庄一（平成10年度） 調査第三課長 佐藤 正俊（平成11～13年度） 阿部 明彦（平成14～15年度） 主任調査研究員 佐藤 正俊（平成10年度） 主任調査研究員 氏家 信行（平成11～15年度） 調査研究員 斎藤 健（調査主任） 調査研究員 大飼 透（平成10年度・平成15年度） 嘱託調査員 大泉壽太郎（平成10～11年度） 嘱託調査員 宮地 文七（平成11年度） 嘱託調査員 渋谷 純子（平成12年度） 嘱託調査員 斎藤 健洋（平成14年度） 嘱託調査員 黒坂 広美（平成15年度）

遺跡名	板橋2遺跡
遺跡番号	平成9年度登録
所在地	山形県天童市大字藏増字板橋
調査委託者	日本道路公団東北支社山形工事事務所
調査受託者	財團法人山形県埋蔵文化財センター
受託期間	平成10年4月1日～平成16年3月31日
現地調査	平成10年4月12日～6月30日（第2次調査）
調査担当者	調査第一課長 佐藤 庄一 主任調査研究員 佐藤 正俊 調査研究員 氏家 信行（調査主任） 調査研究員 渡部 利之 嘱託調査員 衣笠 忠雄 現地調査 平成10年8月3日～11月26日（第3次調査） 調査担当者 調査第一課長 佐藤 庄一 主任調査研究員 佐藤 正俊 調査研究員 斎藤 健（調査主任） 調査研究員 大飼 透 嘱託調査員 大泉壽太郎 現地調査 平成11年4月20日～7月16日（第4次調査） 調査担当者 調査第三課長 佐藤 正俊 主任調査研究員 氏家 信行 調査研究員 斎藤 健（調査主任） 嘱託調査員 大泉壽太郎 嘱託調査員 宮地 文七 整理担当者 調査第一課長 佐藤 庄一（平成10年度） 調査第三課長 佐藤 正俊（平成11～13年度） 阿部 明彦（平成14～15年度） 主任調査研究員 佐藤 正俊（平成10年度） 主任調査研究員 氏家 信行（平成11～15年度） 調査研究員 斎藤 健（調査主任） 調査研究員 大飼 透（平成10年度・平成15年度） 嘱託調査員 大泉壽太郎（平成10～11年度） 嘱託調査員 宮地 文七（平成11年度） 嘱託調査員 渋谷 純子（平成12年度） 嘱託調査員 斎藤 健洋（平成14年度） 嘱託調査員 黒坂 広美（平成15年度）

調査指導 山形県教育府文化財保護課（現山形県教育府社会教育課埋蔵文化財保護室）
調査協力 山形県土木部高速道路整備推進室
山形県山形建設事務所高速道路用地対策課
東南村山教育事務所
天童市建設部建設課
天童市教育委員会
天童土地改良区

凡 例

- 1 本書の作成は斎藤健・犬飼透・黒板広美が、執筆は斎藤健が担当した。
- 2 遺跡位置の緯度・経度は世界測地系による。遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系（日本測地系）により、高さは東京湾平均海面を基準とする海拔高を表す。
- 3 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

S T…堅穴住居	S B…掘立柱建物	S K…土坑
S D…溝	S G…河川	S P…ピット
S X…性格不明遺構	R P…登録土器	R Q…登録石器・石製品
R W…登録木製品	E U…埋設土器	P…土器片
S…礎	W…木製品・木	

- 4 本文中の遺物番号は、実測図・観察表と共に通するが、写真図版は別番号とした。対応は観察表に示した。
- 5 遺構・遺物実測図中のアミはそれぞれ、下記のとおりである。
 - …遺構断面図地山
 - …遺構内炭化物
 - …遺構内焼土
 - …柱痕
 - …土器内面・外面の赤色処理
- 6 断面の赤実測した出土土器で赤彩が施されているものについては、内面赤彩は内面の赤彩部分を塗りつぶし、外表面赤彩は断面図の左側に赤丸を配置して表現した。
- 7 基本層序および遺構覆土の色譜記載については、1997年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色帳」に掲載した。
- 8 発掘調査および本書を作成するにあたり、下記の関係機関および方々からご協力、ご助言をいただいた。（五十音順、敬称略）

赤坂次郎（愛知県埋蔵文化財センター）、石井克己（子持村教育委員会）、岩崎卓也（松戸市立博物館）、黒田篤史（宮守村教育委員会）、田嶋明人（石川県教育委員会）、辻秀人（東北学院大学）、若狭徹（群馬町教育委員会）

- 9 委託業務は下記のとおりである。

基準点測量業務	株式会社太陽測量設計社（板橋1遺跡）
遺構写真実測業務	株式会社菅野測量設計事務所（板橋2遺跡）
自然化学分析業務	株式会社シンジテクノコンサル（板橋1遺跡、板橋2遺跡）
木製品保存処理業務	バリノサーケイ株式会社（板橋1遺跡、板橋2遺跡）
財团法人元興寺文化財研究所、株式会社吉田生物研究所（板橋1遺跡）	財团法人元興寺文化財研究所、株式会社吉田生物研究所（板橋2遺跡）
石器実測使用痕分析業務	株式会社アルカ（板橋2遺跡）

目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経過	1
2 調査の経過と概要	1
II 遺跡の立地と環境	
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	3
III 遺跡の概要	
1 遺跡の層序	7
2 板橋1遺跡の遺構と遺物の分布	7
3 板橋2遺跡の遺構と遺物の分布	7
IV 板橋1遺跡	
1 検出された遺構	8
2 堪穴住居跡	8
3 河川跡	8
4 墓設土器	14
5 その他の遺構と出土遺物	14
6 まとめ	20
V 板橋2遺跡	
1 検出された遺構	23
2 堪穴住居跡	23
3 挿立柱建物跡	67
4 土坑	67
5 その他の遺構	74
6 河川跡	84
7 その他の遺構、グリッドからの出土遺物	131
8 まとめ	144
付編	
報告書抄録	卷末
表	
表1 遺跡位置図遺跡一覧表	5
表2 板橋1遺跡出土土器観察表	21
表3 板橋1遺跡出土木製品観察表	22
表4 板橋1遺跡出土石器観察表	22
表5 板橋2遺跡出土土器観察表(1)	146
表6 板橋2遺跡出土土器観察表(2)	147
表7 板橋2遺跡出土土器観察表(3)	148
表8 板橋2遺跡出土土器観察表(4)	149

表9 板橋2遺跡出土土器観察表(5)	150
表10 板橋2遺跡出土土器観察表(6)	151
表11 板橋2遺跡出土土器観察表(7)	152
表12 板橋2遺跡出土土器観察表(8)	153
表13 板橋2遺跡出土土器観察表(9)	154
表14 板橋2遺跡出土土器観察表(10)	155
表15 板橋2遺跡出土土器観察表(11)	156
表16 板橋2遺跡出土土器観察表(12)	157
表17 板橋2遺跡出土土器観察表(13)	158
表18 板橋2遺跡出土土器観察表(14)	159
表19 板橋2遺跡出土土器観察表(15)	160
表20 板橋2遺跡出土土器観察表(16)	161
表21 板橋2遺跡出土土器観察表(17)	162
表22 板橋2遺跡出土土器観察表(18)	163
表23 板橋2遺跡出土土器観察表(19)	164
表24 板橋2遺跡出土土器観察表(20)	165
表25 板橋2遺跡出土木製品観察表(1)	165
表26 板橋2遺跡出土木製品観察表(2)	166
表27 板橋2遺跡出土石器観察表	167

図 版

第1図 調査区域図	2
第2図 遺跡位置図	4
第3図 地形分類図	6
第4図 S T 304 堪穴住居跡	9
第5図 S G 1 河川跡平面図	10
第6図 S G 1 河川跡断面図	11
第7図 遺物実測図 S G 1 河川跡(1)	12
第8図 遺物実測図 S G 1 河川跡(2)	13
第9図 遺物実測図(1)	15
第10図 遺物実測図(2)	16
第11図 遺物実測図(3)	17
第12図 遺物実測図(4)	18
第13図 遺物実測図(5)	19
第14図 遺物実測図(6)	20
第15図 S T 5、216、679 堪穴住居跡	24
第16図 S T 7 堪穴住居跡	25
第17図 S T 11 堪穴住居跡(1)	26
第18図 S T 11 堪穴住居跡(2)	27
第19図 S T 14 堪穴住居跡	28
第20図 S T 20 堪穴住居跡(1)	29
第21図 S T 20 堪穴住居跡(2)	30
第22図 S T 20 堪穴住居跡(3)	31
第23図 S T 21 堪穴住居跡(1)	32
第24図 S T 21 堪穴住居跡(2)	33
第25図 S T 51 堪穴住居跡	34
第26図 S T 52 堪穴住居跡	35
第27図 S T 220、221 堪穴住居跡	36
第28図 S T 220 堪穴住居跡出土遺物(1)	37
第29図 S T 220 堺穴住居跡出土遺物(2)	38
第30図 S T 220 堺穴住居跡出土遺物(3)	39
第31図 S T 220 堺穴住居跡出土遺物(4)	40
第32図 S T 222、223 堪穴住居跡(1)	42
第33図 S T 222、223 堪穴住居跡(2)	43
第34図 S T 224、225、481 堪穴住居跡	44
第35図 S T 225 堪穴住居跡	45
第36図 S T 227 堪穴住居跡(1)	46
第37図 S T 227 堪穴住居跡(2)	47
第38図 S T 228、229、230、231 堪穴住居跡(1)	48
第39図 S T 228、229、230、231 堪穴住居跡(2)	49
第40図 S T 232 堪穴住居跡	50
第41図 S T 339 堪穴住居跡(1)	52
第42図 S T 339 堺穴住居跡(2)	53
第43図 S T 446 堪穴住居跡	54
第44図 S T 666 堪穴住居跡	55
第45図 S T 750 堪穴住居跡(1)	56
第46図 S T 750 堪穴住居跡(2)	57
第47図 S T 750 堪穴住居跡(3)	58
第48図 S T 751 堪穴住居跡(1)	60
第49図 S T 751 堪穴住居跡(2)	61
第50図 S T 752 堪穴住居跡	62
第51図 S T 753、754 堪穴住居跡	63
第52図 S T 755 堪穴住居跡(1)	64
第53図 S T 755 堪穴住居跡(2)	65
第54図 S B 633 握立柱建物跡	66

写真図版

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|-------------------|
| 卷頭寫真1 | 遺跡全景 | 寫真圖版25 | 板橋2 遺跡構文、鑄生土器 |
| 卷頭寫真2 | 遺跡全景 | 寫真圖版26 | 板橋2 遺跡構文、鑄生土器石器 |
| 卷頭寫真3 | 板橋2 遺跡 S T20暨穴住居跡內
土器出土狀況 | 寫真圖版27 | 板橋2 遺跡暨穴住居土器師（1） |
| 卷頭寫真4 | 板橋2 遺跡 S G325河川畔全景地圖 | 寫真圖版28 | 板橋2 遺跡暨穴住居土器師（2） |
| 寫真圖版1 | 板橋1 遺跡河川畔 | 寫真圖版29 | 板橋2 遺跡暨穴住居土器師（3） |
| 寫真圖版2 | 板橋1 遺跡道橋 | 寫真圖版30 | 板橋2 遺跡暨穴住居土器師（4） |
| 寫真圖版3 | 板橋2 遺跡暨穴住居跡 | 寫真圖版31 | 板橋2 遺跡暨穴住居土器師（5） |
| 寫真圖版4 | 板橋2 遺跡暨穴住居跡 | 寫真圖版32 | 板橋2 遺跡暨穴住居土器師（6） |
| 寫真圖版5 | 板橋2 遺跡暨穴住居 | 寫真圖版33 | 板橋2 遺跡暨穴住居土器師（7） |
| 寫真圖版6 | 板橋2 遺跡暨穴住居 | 寫真圖版34 | 板橋2 遺跡暨穴住居土器師（8） |
| 寫真圖版7 | 板橋2 遺跡暨穴住居 | 寫真圖版35 | 板橋2 遺跡暨穴住居土器師（9） |
| 寫真圖版8 | 板橋2 遺跡暨穴住居 | 寫真圖版36 | 板橋2 遺跡暨穴住居土器師（10） |
| 寫真圖版9 | 板橋2 遺跡暨穴住居 | 寫真圖版37 | 板橋2 遺跡土坑土師（1） |
| 寫真圖版10 | 板橋2 遺跡擴掘往住跡、水田 | 寫真圖版38 | 板橋2 遺跡土坑土師（2） |
| 寫真圖版11 | 板橋2 遺跡土坑、河川 | 寫真圖版39 | 板橋2 遺跡溝土師（1） |
| 寫真圖版12 | 板橋2 遺跡河川 | 寫真圖版40 | 板橋2 遺跡溝土師（2） |
| 寫真圖版13 | 板橋1 遺跡範文土器 | 寫真圖版41 | 板橋2 遺跡河川土師（1） |
| 寫真圖版14 | 板橋1 遺跡範文石製品 | 寫真圖版42 | 板橋2 遺跡河川土師（2） |
| 寫真圖版15 | 板橋1 遺跡古墳時代、中晉遺物 | 寫真圖版43 | 板橋2 遺跡河川土師（3） |
| 寫真圖版16 | 板橋2 遺跡なすび形織 | 寫真圖版44 | 板橋2 遺跡河川土師（4） |
| 寫真圖版17 | 板橋2 遺跡三叉、圓柄 | 寫真圖版45 | 板橋2 遺跡河川土師（5） |
| 寫真圖版18 | 板橋2 遺跡農耕具 | 寫真圖版46 | 板橋2 遺跡河川土師（6） |
| 寫真圖版19 | 板橋2 遺跡稻田狀、大足 | 寫真圖版47 | 板橋2 遺跡河川土師（7） |
| 寫真圖版20 | 板橋2 遺跡容器 | 寫真圖版48 | 板橋2 遺跡河川土師（8） |
| 寫真圖版21 | 板橋2 遺跡木製品（1） | 寫真圖版49 | 板橋2 遺跡河川土師（9） |
| 寫真圖版22 | 板橋2 遺跡木製品（2） | 寫真圖版50 | 板橋2 遺跡河川土師（10） |
| 寫真圖版23 | 板橋2 遺跡範文土器（1） | 寫真圖版51 | 板橋2 遺跡河川土師（11） |
| 寫真圖版24 | 板橋2 遺跡範文土器（2） | 寫真圖版52 | 板橋2 遺跡古墳、平安 |

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

板橋1遺跡、板橋2遺跡は、天童市蔵増地区西側の倉津川右岸に所在し、乱川扇状地前線部の微高地および自然堤防上に立地し標高約90mを割り、地目が水田となっている。倉津川をはさんで本遺跡の南西約2kmの地点に古墳時代の低湿地遺跡で、多数の打込柱建築跡とともに大量の建築部材や木製品が検出された国指定史遺跡西沼田遺跡がある。南約15kmには古墳時代、奈良平安時代の集落跡が検出された蔵増押切遺跡が、北約500mには古墳時代、平安時代の的場遺跡などが分布する。

今回の発掘調査は、日本道路公団の東北中央自動車道相馬・尾花沢線（上山～東根間）の事業案とともに実行された。東北中央自動車道の上山～東根間の事業計画は平成2年度に都市計画整備事業として計画、平成5年度に高速道路整備路線として施工命令が発令され、平成8年度から建設工事が開始された。建設工事にともなう埋蔵文化財の取扱いについては、山形県教育委員会と山形県土木部や日本道路公団との協議の結果、山形県教育委員会が分布調査を行い、その後緊急発掘調査を計画的に進めるうことになり、財團法人山形県埋蔵文化財センターが日本道路公団の委託を受けて実施する運びになったものである。

2 調査の経過と概要

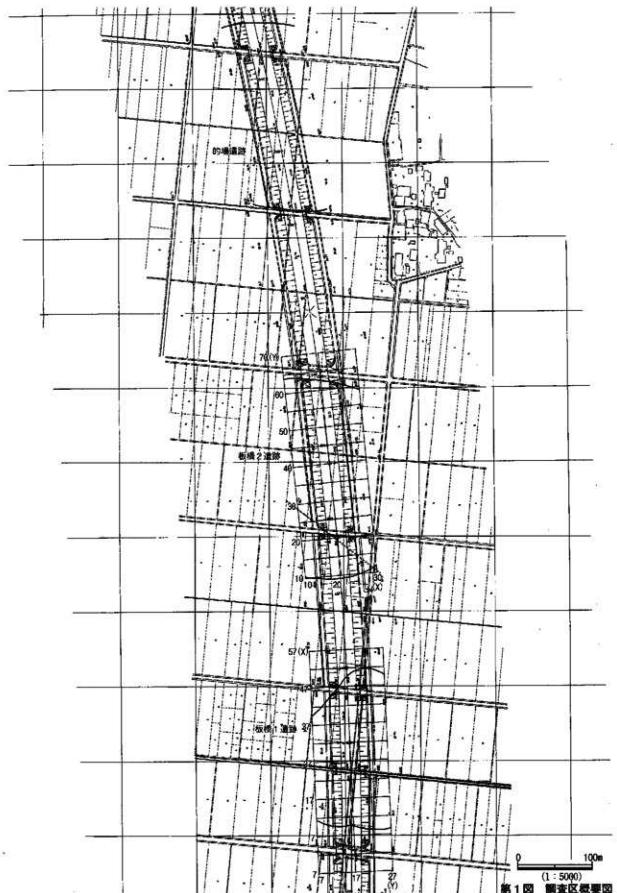
現地調査は、事業実施区域内面積板橋1遺跡12,300m²、板橋2遺跡17,540m²を調査対象範囲として実施した。

平成9年度に事業区域内の遺跡範囲や内容・性格などを知る予備調査（第1次調査）を9月16日から12月1日まで実施した。調査結果については本所刊行「第60集東北中央自動車道相馬・尾花沢線関係予備調査報告書（1）」として刊行されている。

板橋1遺跡では平成10年は事業実施区域内遺跡範囲全体を4月14日から9月30日までの期間に2次調査として実施した。板橋2遺跡では平成10年4月12日から6月30までの期間にA・B・C区側道部分7,000m²を対称に2次調査、同年8月3日から11月27までの期間にA区3,700m²を対称に3次調査、翌平成11年は4月20日から7月16日までに将来施工部分を除くB・C区6,000m²を4次調査として実施した。

グリッドは10m四方を1単位に設定した。グリットの南北軸は、板橋1遺跡では磁北から東に9°10'傾き、東西軸（X軸）は西から東に、南北軸（Y軸）は南から北に番号を割り当てた。板橋2遺跡のグリッド南北軸は磁北から5°45'東に傾き、東西軸（X軸）は西から東に、南北軸（Y軸）は南から北に番号を割り当てた。

東北中央自動車道相馬・尾花沢線（上山～東根間）



II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

山形盆地は山形県内のほぼ中心部を占め、県内を縱貫する最上川は、盆地の西寄りを北流している。天童市はこの盆地の中央に位置し、西で最上川と接し、南で山形と接する立谷川扇状地と、北で東根市まで続く乱川扇状地によって囲まれている。

立谷川扇状地は、南を流れる高瀬川が形成した扇状地との合成扇状地である。扇頂部は山形市山寺の地蔵堂付近で、扇端部は山形市猪山から天童市池済、八幡山にかけての地域である。

乱川扇状地は、白川川、村山野川、乱川、押切川などの河川による複合扇状地である。扇頂部は関山付近、扇端部は長瀬から成生にかけての地域で、半径約 11km に及ぶ大規模な扇状地であり、天童市域の北半部を占める。扇端部の高木、成生、大清水などには著名な湧泉があり、その豊富な水資源を利用して、古くから人の生活と密接にかかわっていたと考えられる。

また、最上川に接し立谷川・乱川の両扇状地に囲まれた平野の三角形状の地域は、天童低地と呼ばれる後背湿地である。最上川の氾濫原は、幅 0.5 ~ 1km ほどで、その右岸に立地する寺坂から蘆内新田、蘆地に至る帯状の地域は、付近より若干高い自然堤防となっている。

板橋1遺跡、板橋2遺跡は乱川扇状地扇端部に位置している。かつて周囲は亂川、押切川や 墓状地先端部
倉津川の本流や支流が蛇行していたと思われ、両遺跡の調査区からも蛇行した小河川が検出さ 蛇行した小河川
れた。

この地域の土壤は、細粒～中粗粒グライ土壤が主体で、水田耕作の土地利用が図られている。遺跡の表層は、シルトあるいは粘土の土質によって形成され、住居跡などの遺構が復元される確認面となっているが、大半がグリーン化し、その基盤は機械および砂層から成り立っている。

2 歴史的環境

天童市内の縄文時代の遺跡は、山麓部と扇状地要部には縄文時代早期より見られるが、扇央部、扇端部には数箇所点在する程度である。

弥生時代の遺跡は地蔵池B遺跡、塙野目A遺跡など扇状地扇端部の湧水地に散見される。

古墳時代になると遺跡数は増大し、扇端部の微高地に集中して見られるようになり、低湿地を耕作として開拓したと推測される。板橋1遺跡の他、的場遺跡や蘆坂押切遺跡、原正坂遺跡、国指定史跡西沼田遺跡などが見られる。また、火矢塙古墳や遠矢塙古墳といった古墳が立谷川扇状地には分布しているが、乱川扇状地には見られないのは興味深い。

平安時代に入ると集落は広く分布し、的場遺跡から寺院を勢揃させる遺構・遺物が出土するなど、成生地区の発展も目立つ。後期に入ると市域はほぼ全域が成生庄として立荘される。

乱川扇状地

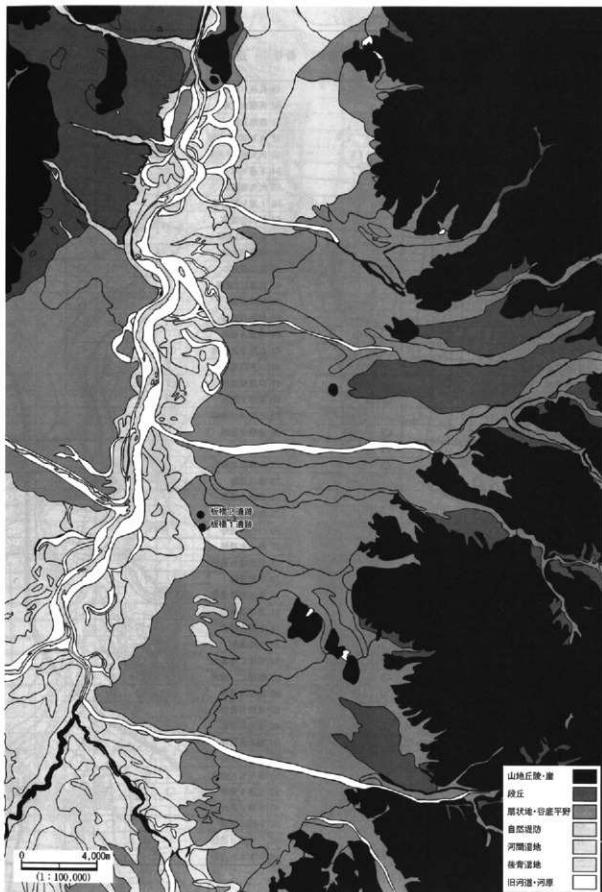
国指定史跡
西沼田遺跡



表1 遺跡位置図遺跡一覧表

番号	遺跡名	網文	弥生	古墳	奈良 平安	中世	近世	番号	遺跡名	網文	弥生	古墳	奈良 平安	中世	近世
1	板樋1遺跡	○		○				49	札井戸遺跡	○					
2	板樋2遺跡	○	○	○	○			50	高瀬東遺跡				○		
3	板樋3遺跡			○	○			51	清池遺跡				○		
4	不動木道跡				○			52	火矢堀2号古墳				○		
5	唐風船跡					○		53	火矢堀1号古墳				○		
6	田代船跡					○		54	下達矢堀古墳				○		
7	本郷城跡					○		55	火矢堀東跡	○	○	○	○		
8	藏垣北ノ遺跡				○	○		56	上達矢堀古墳				○		
9	藏垣北ノ遺跡					○		57	喜沢北遺跡				○		
10	後澤城跡					○		58	喜善江1遺跡				○		
11	後藤原遺跡	○						59	高瀬南遺跡				○		
12	二落堂古墳群跡			○	○			60	後江遺跡				○	○	○
13	一塚峠							61	喜善江2遺跡				○	○	○
14	風小屋遺跡		○					62	桙段遺跡				○	○	
15	鶴野1遺跡		○					63	中里B遺跡				○		
16	金谷道跡		○					64	中里A遺跡				○		
17	成生相跡					○		65	永源寺跡	○			○	○	○
18	成生古墳				○			66	千段遺跡	○			○		
19	鬼藏池1遺跡		○					67	伊達城跡				○		
20	鬼藏池2遺跡					○		68	喜谷下遺跡				○		
21	高木原1遺跡			○				69	三条・日置遺跡				○		
22	高木石道跡	○				○		70	道筋寺遺跡				○		
23	北畠道跡					○		71	洪江遺跡				○		
24	押切道跡					○		72	河原寺遺跡				○		
25	柏木道跡	○						73	港山道路				○		
26	櫛理道跡	○						74	崎崎古墳群				○		
27	鶴野B遺跡		○	○				75	南守宿古墳群				○		
28	奥川押切道跡				○	○		76	一の坪古墳群				○		
29	西沼田遺跡				○	○		77	南・木遺跡				○		
30	中正塗跡			○	○			78	馬先塗1遺跡				○		
31	中野日出跡					○		79	中野道路				○		
32	横ノ町遺跡	○						80	新治屋町遺跡				○		
33	口1遺跡							81	郡部遺跡				○		
34	田代塗跡							82	浦古古墳群				○		
35	鶴野1A遺跡		○	○	○			83	見崎道路				○		
36	鶴野1B遺跡				○			84	筑田C遺跡	○	○	○	○		
37	中草遺跡					○		85	筑田C'遺跡	○	○	○	○		
38	津城跡							86	筑田D遺跡	○	○	○	○		
39	三軒屋物見台遺跡					○		87	筑田B遺跡				○		
40	中安遺跡							88	筑田E遺跡				○		
41	妙子田遺跡	○						89	筑田A遺跡				○		
42	高瀬西遺跡							90	大明神遺跡				○		
43	鶴城跡							91	山長名遺跡				○		
44	舟船遺跡	○						92	北柳1遺跡	○	○	○	○		
45	高瀬南遺跡	○						93	下柳C遺跡				○		
46	高瀬東遺跡							94	下柳A遺跡				○		
47	札井戸里遺跡							95	木木3遺跡				○		
48	平段遺跡		○	○	○	○		96	一本木1遺跡				○		

※ 29 西沼田遺跡は国指定史跡。



III 遺跡の概要

1 遺跡の層序

板橋1遺跡、板橋2遺跡は扇状地の扇端部に立地し、両遺跡調査区内にも東西方向に河川跡が走っていたことが調査で判明した。遺跡の調査区の土層の堆積は安定していた。

両遺跡とも、昭和40年代にこの地域で実施された圃場整備により、大きく層位の変更を受けている。板橋2遺跡では農業用導水路が調査区を横切り、遺構を大きく破壊していた。

板橋1遺跡、板橋2遺跡の基本層序（第44図）は共通しており、I層が耕作土で、II層は圃場整備で動かされた層、III、IV層はII層と地山層が混じった層である。

2 板橋1遺跡の遺構と遺物の分布

今回の板橋1遺跡の発掘調査は12,300m²を対象とした。遺構・遺物とも分布には非常に偏りが見られた。調査区は農道により6つに分割されていることから、北東から南西に順次、A、B、C、D、E、F区と呼称した。

遺跡全体は圃場整備により激しく削平を受け、遺構検出作業は難航を極めた。E区南半、F区は扇状地扇端部から河間低地への落ち込みとなっていた。

また、C、A、B、D区を小河川が蛇行した跡が検出された。河川跡の堆積土中からは古墳時代の遺物が比較的良好な状況で出土した。また、堆積土の下層からは縄文時代中期の磨耗した土器がケルミやチヂの実と共に出土し、河川上流に縄文時代の遺跡があると推測される。

D区では縄文時代後期の遺構・遺物が検出された。E区から縄文時代中期の遺物が出土したが、土層が激しくグリ化していたために遺構は検出することができなかった。

3 板橋2遺跡の遺構と遺物の分布

今回の板橋2遺跡の発掘調査は事業範囲内17,540m²のうち将来施工部分を除外した部分を対象とした。全体的に、圃場整備による削平を受け、A区を斜めに横断するように農業用導水路工事により搅乱を受けていた。

調査区は農道と農業用水路で3つに分割されていたことからA、B、C区と呼称した。

A区からは河川跡が検出され、堆積土下層からは古墳時代の遺物が大量に出土した。また、上層からは平安時代の遺物も出土したことから、河川跡は平安時代まで湿地として存続したと思われる。河川の北側には河川に沿うように古墳時代の集落跡が広がっていた。また、B区北からC区は遺構・遺物とも分布は希薄だった。特に、第2次調査時にC区北側からの遺構・遺物の検出・出土が著しく少なかったため、第4次調査ではC区北側を調査除外地区とした。

IV 板橋 1 遺跡

1 検出された遺構

今回の調査では縦穴住居跡、古墳時代に形成された河川跡などが検出された。詳しい遺構配置は別添図1に掲載した。

2 縦穴住居跡

今回の調査では縦穴住居跡は1棟のみ検出された。以下にその概略を述べる。

S T 304 縦穴住居跡（第4図）

調査区D区北側、39-17 Gに位置する。平面形はやや歪んだ円形である。覆土はグライ化し、中央には石をはば円形かつトグロ状に一部重複した配石の石圓い炉が検出された。住居跡内外からは柱穴や他の施設は検出できなかった。出土遺物を見ると、土器は小型の壺1点、石器は石錐と石鏡の2点のみであった。いずれも壘断の床面から出土している。また、炉内からは大年代測定量の炭化物が出土し、その年代測定を業務委託した。結果については付編に掲載した。遺物の後期後業特徴から、この縦穴住居跡は、縦穴住居跡の時期と想定される。

3 河川跡

今回の調査では河川跡が1本検出された。以下にその河川跡と出土した遺物の概略を述べる。

S G 1 河川跡（第5、6、7、8図）

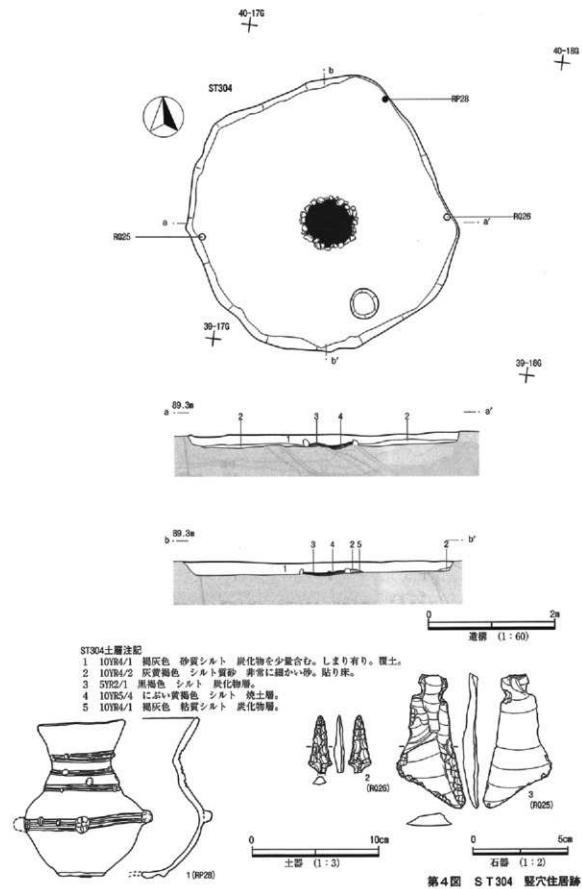
調査区C、A、B、D区に位置する。河川跡は東から西に、大きく蛇行している。D区に入ると河川は幅が大きく広がる。土層断面の堆積状況を観察すると数段階の堆積が想定できる。

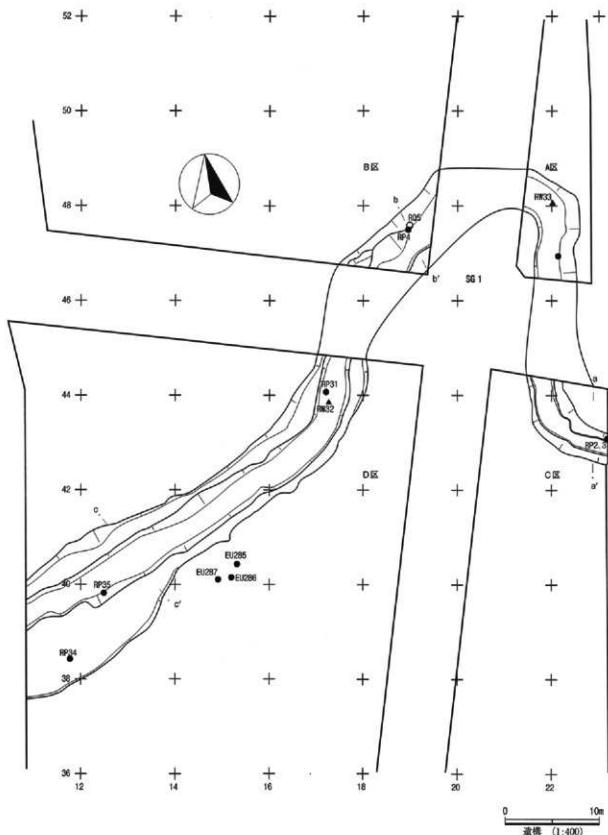
大木9と大削A 下層の磨擦面からは磨耗した縄文土器が多数出土した。土器形式の沿ぞりは大木9と大削Aである。接合する固体にはば無地で、磨耗している土器がほとんどであり、これらは上流からの流れ込みと思われる。出土した晩期の土器は天竜市にある砂子田遺跡から出土している晩期の土器群とほぼ同時期とみられる。また、これら縄文土器とともにクルミやトチの実も多量に出土した。クルミのほとんどにはげた表面が砸んで中身を食べたとみられる痕跡を観察できた。

古墳時代中期 中層は腐植土層で、古墳時代中期の土器と木製品が出土した。依存状態が良好であることや傍に古墳時代前中期を中心とした板橋2遺跡が存在することから、遺物は直接当所で投棄された可能性が高いと考えられる。土器は、大型の壺1点と、小型の壺2点、鉢形の坏部を持つ高杯1点である。第7図10壺は外縁と内縁に縁部が赤彩してある。また底部は壠状の用具槽と田下駄である。木製品では柄が特筆すべき存在である。また、田下駄は鼻緒を通す穴が3箇所開いているほか、踵部分に5cm×3cmほどの方形の穴が開いている。

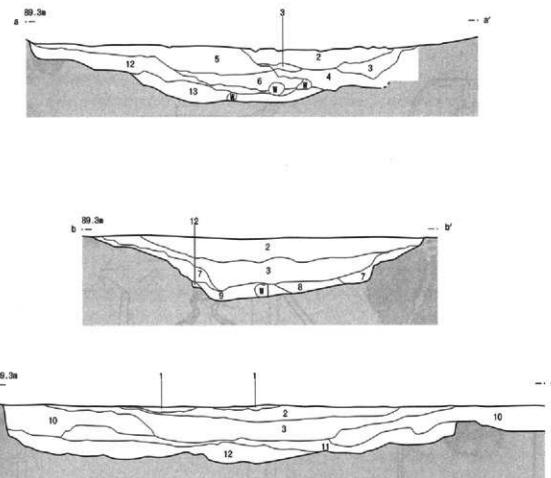
上駄も腐植土層であった。平安時代9世紀ごろの須恵器坏が2点出土した。

以上のことから、この河川は古墳時代中期頃から堆積が進み、平安時代には小河川または溝に変わったと思われる。





第5図 SG1 河川跡平面図

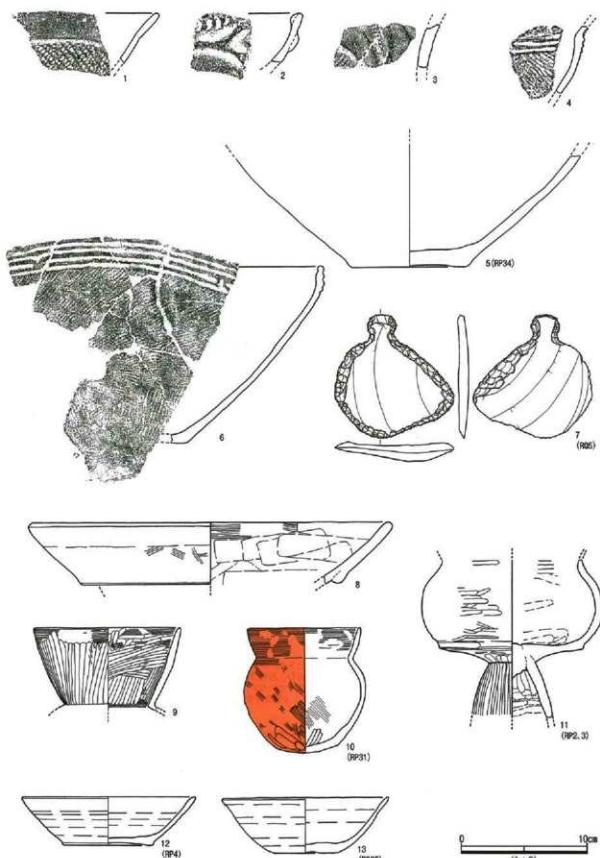


SD1土層断面

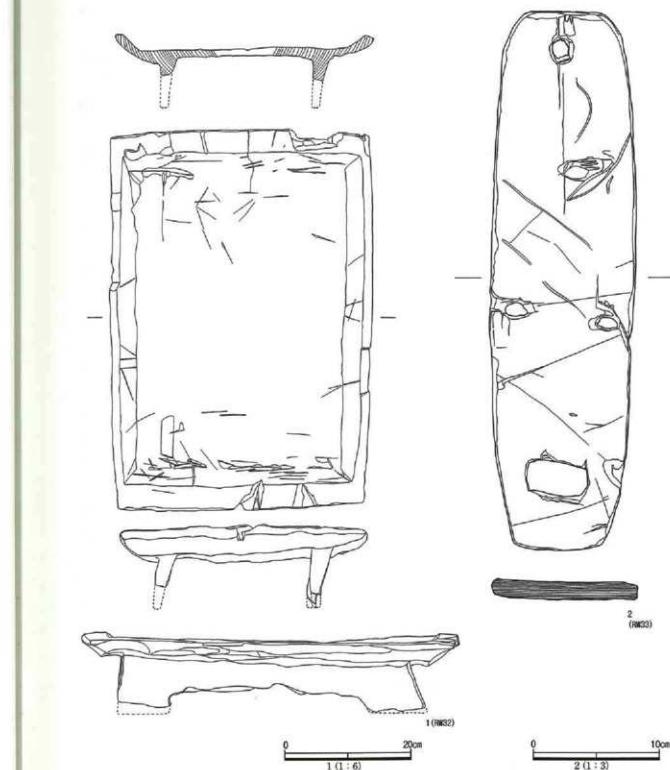
- 1 10Y82/1 黒色粘質シルト。10Y84/2灰褐色シルト質砂をブロック状に含む。後世の擾乱。しまり有り。
- 2 10Y82/1 黒褐色粘土。植物を含む。泥炭。須賀郡環(80)出土。しまり無し。ややシルト化。
- 3 7.5M83/1 黑褐色粘土。しまり無し。泥炭。2層より营养が混んでいない。しまり無し。水分多い。
- 4 5.5M83/1 黑褐色粘土。しまり無し。泥炭。2層より营养が混んでない。しまり無し。
- 5 2.5M4/1 黄褐色シルト質砂。やや粘性有り。植物と炭化物を含む。
- 6 10Y83/2 黄褐色粘土。植物の遺食が混み、ほほシルト化。植物とトチ、クルミを含む。粘性強。
- 7 10Y85/2 黄褐色粘土。上位層の土が浸入。炭化物と植物を含む。石器(KS5)出土。
- 8 10Y82/2 黑褐色粘土。泥炭。植物を含む。2層より营养が混んでいない。しまり無し。
- 9 7.5M82/1 黑褐色粘質砂。炭化物と大粒の植食有り。1、2、3層より营养が混んでいない。粒が非常に粗い。しまり無し。
- 10 7.5M82/2 黑褐色粘土。上層の土が浸入。ややしまり有り。
- 11 2.5M4/1 黄褐色粘土。植物多く、径1~3cmの小碎合。
- 12 10Y84/1 黄褐色粘質砂。植物と炭化物多くを含む。グラナ化。よくしまっている。地山より粒が細い。
- 13 10Y83/2 黑褐色粘土。粘性有り。植物を含む。ほほシルト化。



第6図 SG1 河川跡断面図



第7図 遺物実測図 SG 1 河川跡(1)



第8図 遺物実測図 SG 1 河川跡(2)

4 埋設土器 (第9図)

調査区D区に位置する。ST 304 竪穴住居跡の近くで、EU 285、286、287の3箇所確認できた。

EU 285(第9図1)は器高448mmになる大型の深鉢である。体部は無紋で、口縁部に沈線紋と瘤状突起を持つ。また、割れを補修するために2箇所の穿孔が認められる。

EU 286(第9図2)は部分的な破片しか出土しなかったが、深鉢である。外面に柳歯状工具による条線紋が施されている。また、外面に蝶状の付着物が見られる。

EU 287(第9図3、4)も部分的破片しか出土しなかったが、深鉢が2点である。第9図3は無紋であるが、第9図4には条線紋がわずかに確認でき、別個体である。

後期後業 いずれも绳文時代後期後業の時期と見られ、ST 304 竪穴住居跡とは同時期と想定できる。

5 その他の遺構と出土遺物 (第10~14図)

後期後業 D区からは遺構外からも、ST 304 竪穴住居跡と同時期である绳文時代後期後業と見られる土器が出土している。

第11図1は後期後業の小型壺で、沈線の上に押圧がある瘤状突起が見られる。ST 304 竪穴住居出土の小型壺よりわずかに法量が小さいが、きわめて類似した特徴を備えている。

第11図2は晩期と見られる広口の小型壺で横方向の平行沈線が施され、口縁部は绳文が消され、刻目が施されている。

第11図3は後期後業の深鉢で、入り組み文様と区画内に条線文が施されており、特徴的な瘤状突起も確認できる。

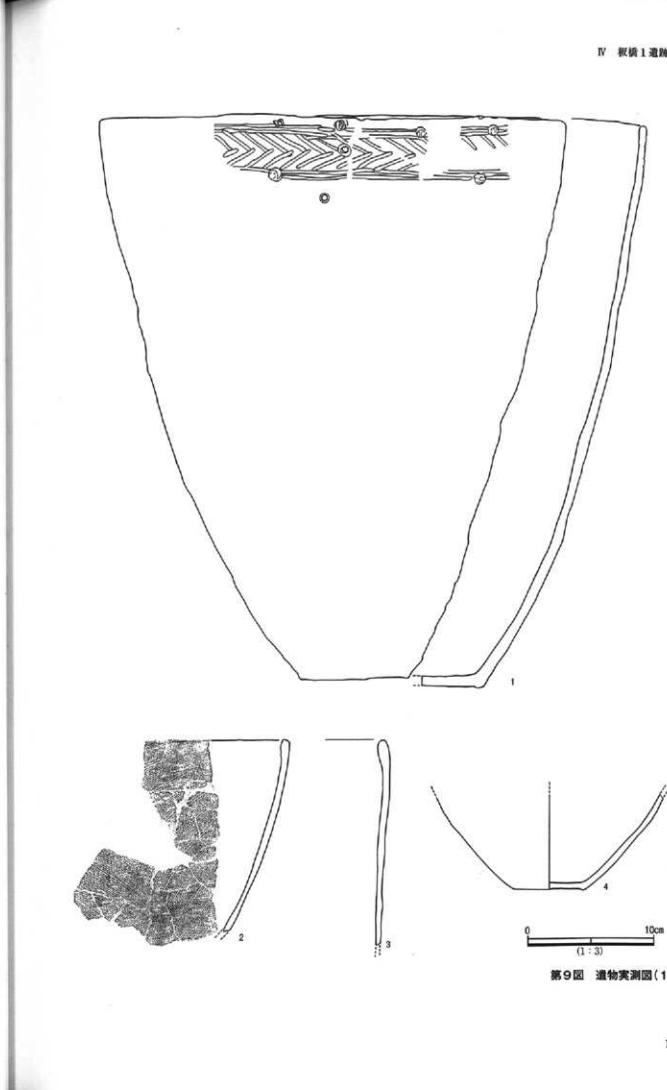
大木7式 E区からは中期前業、大木7式に併行すると見られる土器が比較的まとまって出土している。しかし、遺物の出土層はグライ化した砂層からすべて出土しており、遺構を検出することはできなかった。ただし、各土器がまとめて出土していることから、遺構が存在したことは推定される。

第10図1は大木7式に併行すると思われる深鉢で、口縁部に二重沈線を3段に施し、その間に棒状器具で連続して縱方向の刺突を施している。また、4単位で縱方向の隆帯を貼り付けている。隆帯状と窓部にはLR原体による押圧文が連続して施されている。

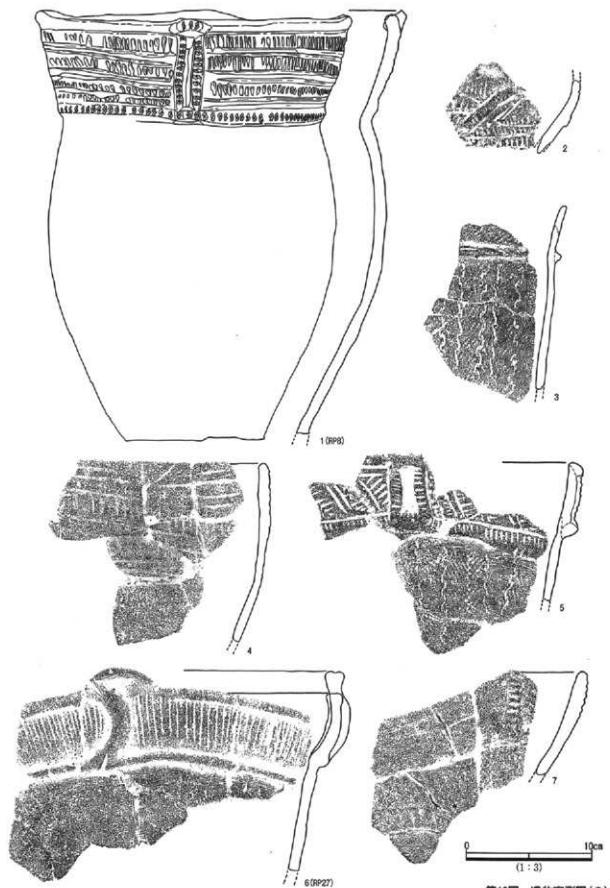
第10図4、6、7も同一個体ではないが、胎土、文様が非常に似通っている。大木7式と併行する関係に収ると考えられる。いずれも体部上部に斜め方向の隆帯と刻目を多用し、縱方向にLR結節繩文が施されている。

第10図4、6、7も同一個体ではないが、やはり、胎土、文様が似通っている。これらも同じ中期前業のものと思われるが、前記のグループと比べ、文様と胎土に差異が見られる。口縁部に隆帯が横方向に2本見られ、その間に縱方向の刻目状の条線を施している。

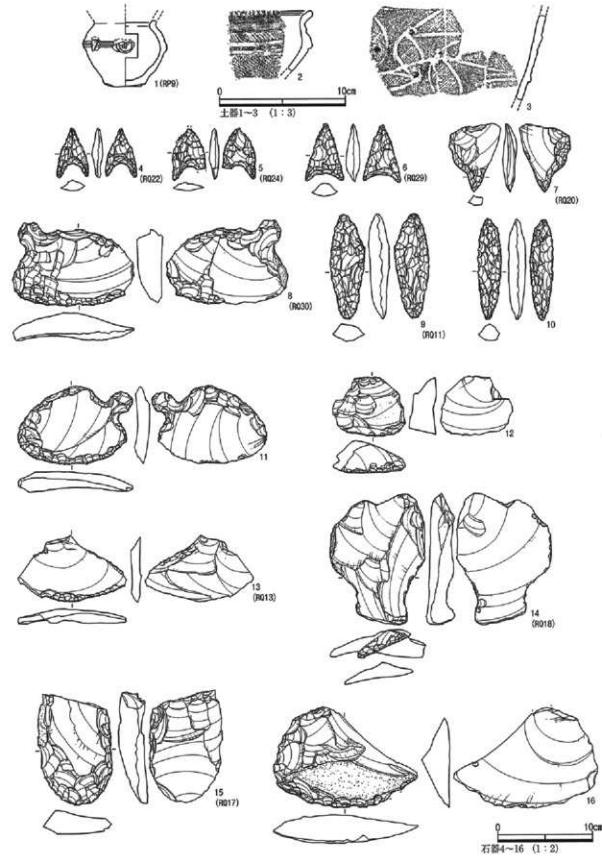
第11図4~16、第12図、第13図は殆どD、E区出土の石器・石製品である。第11図8、10、第12図7、第13図5がD区、第11図11がF区で、残りがE区出土である。土器の時期はD区は後期後業、E区は中期前業とまとまっているので、石器も同様にD区出土は後期後業、E区出土は中期前業の時期と想定される。第13図7は長さ80センチを超える石棒である。2



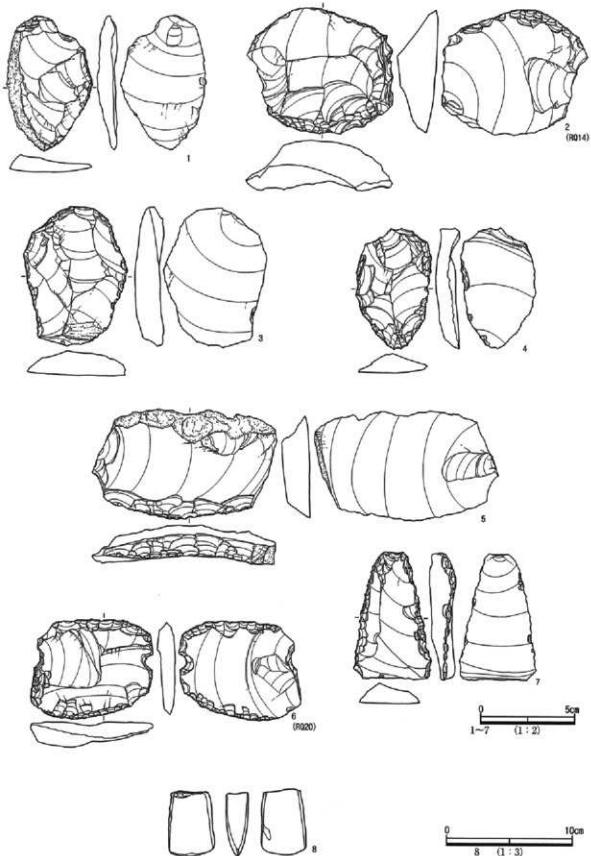
第9図 遺物実測図(1)



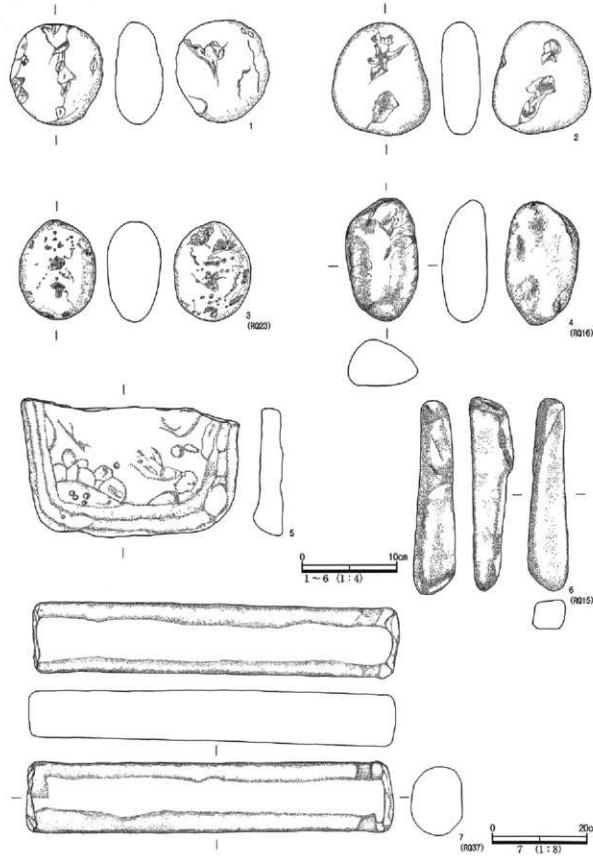
第10図 遺物実測図(2)



第11図 遺物実測図(3)



第12図 遺物実測図(4)



第13図 遺物実測図(5)

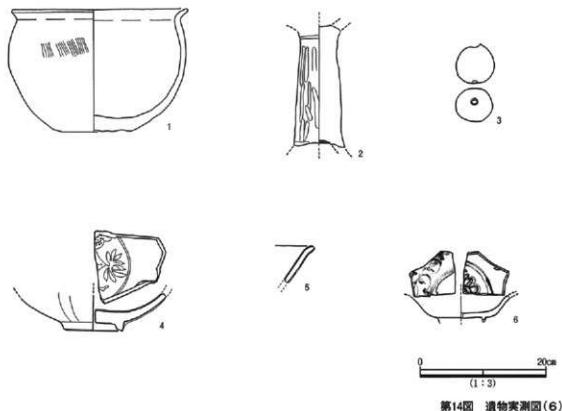
面が磨かれて平坦化し、断面は梢円形を呈している。第13図4、6はすり石で、5は石皿である。

第14図は縄文時代以降の遺構外から出土した遺物である。1は古墳時代中期の鉢、2は古墳時代前期の高杯脚部、3は時代不明の土錠である。中世の遺物は4、5の龍泉窯産青磁碗、6は景徳鎮産の青花皿が出土した。

6まとめ

板橋1遺跡は、乱川扇状地の扇端部に位置し、調査区E、F区南側は河間低地である。また、遺跡は昭和40年代に実施された畠場整備により大きく削平され、遺物の出土量も少なかった。

検出された主な遺構は縄文時代後期後業の堅穴住居跡と埋設土器のほか、縄文時代中期、晚期、古墳時代中期、平安時代前期の遺物を包含する河川跡である。河川跡の縄文土器は上流からの流れ込みとみられ、河川は古墳時代～平安時代に存在したと思われる。ただし、古墳時代、平安時代に人々がここで生活していた痕跡は発見できなかった。また、極度にグライ化した地山層から縄文時代中期前業の遺物がまとまって出土している。遺構は確認できながったが、遺物は当地に直接投棄または廃棄されたものであると見られる。



第14図 遺物実測図(6)

表2 板橋1遺跡出土土器観察表

※遺物観察表中の実測値の単位は全てmmであり、括弧内の数値は断面復元による推定値及び欠損による残存値を示す。

種類	団版	グラフ	追跡番号	種別	器形	口径	幅径	底径	器高	調査特徴	底部技法	備考	遺物番号	
4 1	13 6	39	17 ST 304	縄文	壺	68	100	37	120	沈継縫状突起	後削基	R P28		
7 1	40	13	SG 1	縄文	深鉢				RL			大木9		
7 2	40	13	SG 1	縄文	深鉢				SL					
7 3	40	13	SG 1	縄文	深鉢				LR			大木9		
7 4	40	13	SG 1	縄文	深鉢				半隆起RL		使用底	外面付着物	R P34	
7 5	38	11	SG 1	縄文	深鉢				96					
7 6	37	11	SG 1	縄文	鉢	15			14	工字型缺RL				
7 8	43	21	SG 20	土器器	壺				内内外ケヘラナナデ					
7 9	15	3	43	22	SG 20	土器器	壺		117	(65) 内ハナメ外ハケ日ミガキ				
7 10	44	17	SG 1	土器器	壺	90			99	外外ケヘタマツケケス リナメ形 内面ミガキ ナメ形 深縫状影	平底ケズリ	使用底付着物	R P31	
7 11	15	2	44	25	SG 1	土器器	高环	(111)	(126)	内外ナメガキ	断面拡張	内外洗底	R P2, 3	
7 12	47	18	SG 1	帆毛器	环	(136)	72	38	内外ナメガキ	外画指板	内面付着物	R P4		
7 13	39	12	SG 1	帆毛器	环	(134)	48	(44)	底部削除余切り	削底余切	内外地底	使用底	R P35	
9 1	13	2	EU 285	縄文	深鉢	371			85	448 沈継縫状突起	底部上端削除4つ			
9 2		EU 285	縄文	鉢						脚削付工具条余数 (1木単位)	脚削付骨	使用底		
9 3		EU 287-1	縄文	深鉢						外画付着物	外画付着物			
9 4	13	3	EU 287-2	縄文	深鉢		56			使用底	外面付着物			
10 1	13	1	18	21	SS 1003	縄文	深鉢	252	(111)	335 二重比縫状突起 突起RL	海綿骨削	内面準備 R P8		
10 2	19	21	E区	縄文	浅鉢					大木7b				
10 3	13	5	18	21	E区	縄文	深鉢			縦LR筋割	内外挙筋	大木7b	第10回と同一個体	
10 4	16	21	E区	縄文	深鉢					平行波線間隔削目	内外挙筋	大木7b		
10 5	13	5	17	22	E区	縄文	深鉢			腹帶削目	吸應摩耗	大木7b	第10回と同一個体	
10 6	17	22	E区	縄文	深鉢					陰帯間条削紋	摩耗	大木7b		
10 7	13	4	16	21	E区	縄文	深鉢			大波紋口縫合帶削目	吸應摩耗	大木7b		
11 1	40	18	SX 291	縄文	壺	(48)	(30)	(43)	338 沈継縫状突起	後削			R P9	
11 2	45	13	D区	縄文	壺	(11)			(57) RL沈継縫目	使用底 内面付着物	吸應摩耗			
11 3	40	15	D区	縄文	深鉢				入り組み状紋様区画 内条削紋		後期後業			
12 8		EU	石製品	磨擦								後部折損		
13 1	14	2	17	22	E区	石製品	凹石	長さ	巾	高さ				
13 2	14	1	17	22	E区	石製品	凹石	107	98	50				
13 3	14	5	17	19	E区	石製品	凹石	117	102	40				
13 4	14	6	17	19	E区	石製品	凹石	128	73	47				
13 5	14	7	40	13	D区	石製品	スリ石	104	81	57				
13 6	14	8	17	19	E区	石製品	スリ石	231	145	43				
13 7	14	20	19	20	E区	石製品	石錐	2003	401	402				
14 1	15	1	47	17	D区	土器器	鉢	578	112	81				
14 2	15	4	A区	土器器	高环		55	98	内ナメ外ハナメ	輪台ケズリ	使用底 外面付着物			
14 3	14	3	39	11	D区	土器器	土錐	39	(97)	内ハナメ外ミガキ	器内黒化		時代不明	
14 4	15	9	F区	陶器器	壺				45	内面違の印刻		青磁、龍泉窯		
14 5			E区	陶器器	壺							青磁、龍泉窯		
14 6	15	7	16	20	E区	陶器器	壺	80	(37)	(18)			青花	

表3 板橋1遺跡出土土器製品観察表

当遺物観察表中の実測値の単位は全てmmであり、括弧内の数値は図上復元による推定値及び欠損による残存値を示す。

種類	図版	遺構	グリッド	遺物番号	大項目	中項目	小項目	長さ	幅	高さ	備考
8 1	15 5	SG1	RW 32	容器	陶器	壺		600.0	400.0	30.0	
8 2	15 6	SG1	RW 33	器具	田下鉢			425.0	115.0	15.0	鼻縁3穴、大穴1

表4 板橋1遺跡出土土器観察表

種類	図版	RQ	遺構	器種	石材	刃部	成形	素材	素材	寸法	備考
4 2	14 16 28	39-17	ST304F2	有茎縫 環形石匙	瑪瑙 瑪瑙	SP	SP	剥片	不明	加工欠	305.122 5.3
4 3	14 16 28	39-17	ST304F3	有茎縫 環形石匙	瑪瑙 瑪瑙	SP	SP	縫長剥片 (SD)	平粗	713.365	8.3 刃部にマイクロ・フレイキン
7 7	14 9 5	47-18	SG1 砂質	縫形石匙	珪質頁岩	SP	SP	剥片	不明	加工欠	653.636 10.3
11 4	14 17 22	17-20	EK	四面縫 環形石匙	珪質頁岩	SP	SP	剥片	不明	加工欠	263.172 6.1
11 5	14 18 24	17-22	EK	四面縫 環形石匙	珪質頁岩	SP	SP	剥片	不明	加工欠	271.178 5.4
11 6	14 19 29	39-21	EK	四面縫 環形石匙	珪質頁岩	SP	SP	剥片	不明	加工欠	306.205 8.0
11 7	20 16-22	EK	石斧	珪質頁岩	SP	SP	剥片	不明	加工欠	361.275	7.8 剣頭を折り返し、刃部を形成する 工具を作っている石器。
11 8	14 11 30	34-12	D区	縫形石匙	珪質頁岩	SP	明軒 横長剥片	直抜 打撲	445.646	14.9 素朴な打撲を用意り、そのあと スコットンハンマーで加工。	
11 9	11	17-22 SK987	石斧	珪質頁岩	SP	SI	剥片	不明	加工欠	558.187	11.7 先端部に押圧削除で尖刀を形 成する石器。
11 10	14 15	D区	石錐	頁岩	SP	SI	剥片	不明	加工欠	535.127	9.4 低率率頭部破壊で剥離の結果、 刃部先端に壓耗がみられる。
11 11	14 14	16-13	EK	縫形石匙	珪質頁岩	SP	SI	縫長剥片 (HI)	自然面	415.613	11.2 打面厚3ミリ
11 12		17-20	EK	素面掃器	珪質頁岩	素刃 nSP	剥片	(HI)	平粗	315.386	17.2 打面厚24ミリ
11 13	14 12 13	17-20	EK	縫形石匙	珪質頁岩	nSP	不明	縫長剥片 (SD)	平粗	350.577	8.3
11 14	18	17-19	EK	素面掃器	珪質頁岩	素刃 nSP	横長剥片 (HD)	切子打面	698.506	15.3 緑辺の剥離端はMP	
11 15	17	17-19	EK	縫形石匙	珪質頁岩	SP	SI	縫長剥片 (HD)	加工欠	563.393	14.8
11 16	18-21	E区	縫形石匙	珪質頁岩	(SP)	HI	横長剥片 (HD)	平粗	537.766	15.3 打面厚6.6ミリ	
12 1	17-22	EK	縫形石匙	珪質頁岩	SP	なし	縫長剥片 (HD)	平粗	712.457	10.7 打面厚2ミリ	
12 2	14	17-20	EK	縫形石匙	珪質頁岩	SP	HD	縫長剥片 (HD)	切子打面	666.778	26.7
12 3		16-22	EK	縫形石匙	珪質頁岩	SP	なし	縫長剥片 (HD)	平粗	740.553	16.0 打面厚1.28ミリ
12 4	14 13	20-21	EK	尖頭縫形石匙	珪質頁岩	SP	明軒 横長剥片	不明	加工欠	639.402	12.9 円錐状石核から削離された縫 長剥片素材。刃部にマイクロ・ フレイキンが彫画。
12 5	20-21	E区	縫形石匙	珪質頁岩	SP	なし	縫長剥片 (HD)	切子打面	583.984	20.6 打面厚4.2ミリ	
12 6	20	16-22	EK	抉竹縫形石匙	珪質頁岩	SP	SI	縫長剥片 (HD)	自然面	528.652	13.5
12 7	39-11	D区	縫形石匙	珪質頁岩	SP	なし	縫長剥片 (HD)	平粗	671.410	14.2 緑辺に新しい傷が多い	

*測量技術凡例

測量技術は「ハンマー【工具】の種類と「身振り」の組み合わせで示される。以下に観察表の記号の意味を記しました。なお、観察表の()は、推定した測量技術である。

	直接打撲	間接打撲	押圧
ハーハンドハンマー	HD	HI	HP
極細ハーハンドハンマー	n HD	n HI	n HP
ソフトハンマー	SD	SI	SP
極細ソフトハンマー	n SD	n SI	n SP

その他の加工

叩折：ハンマーをあてて、叩き折る加工。コーンが発達する。

折削：素材を曲げて折り取る加工。コーンが生じない。

加工の組み合わせの表記

2種類以上の加工があるときには、「押壓・SI」とのように表記した。

当遺物観察表中の実測値の単位は全てmmであり、括弧内の数値は図上復元による推定値及び欠損による残存値を示す。

V 板橋2遺跡

1 検出された遺構

板橋2遺跡からは多数の古墳時代を中心とする時期の遺構が検出された。その中で本書では竪穴住居跡33棟、掘立柱建物跡が4棟、土坑4基、河川跡1本を報告する。詳細な遺構配置は別添図2の遺構配置図に掲載した。

2 竪穴住居跡

今回の調査では竪穴住居跡は33棟検出された。内1棟は繩文時代、32棟は古墳時代のものである。殆どの竪穴住居跡は、昭和40年代に実施された圃場整備によって、削平を受けたと見られ、床面しか検出できなかったもののが多かった。

以下にその竪穴住居跡と出土した遺物の概要を述べる。

S T 5、216、679竪穴住居跡（第15図）

調査区A区の23、24-18 Gに位置する。河川跡S G 325の川岸に3棟が重複した状態で検出された。3棟とも現存状況は劣悪で、S T 5、216では貼床面、S T 679は床痕跡しか検出できなかった。S T 5とS T 216には炉跡と想定される焼土が検出された。

S T 5は南北軸が長い3 m × 35 m の長方形で、S T 216は推定で東西軸が長い3.5 m × 3 mの長方形である。また、S T 5からは炭化木材が出土し、焼失住居と思われる。床面からはビックベッド跡が検出されているが、これらの竪穴住居跡の柱穴であると推測できるものは無かった。

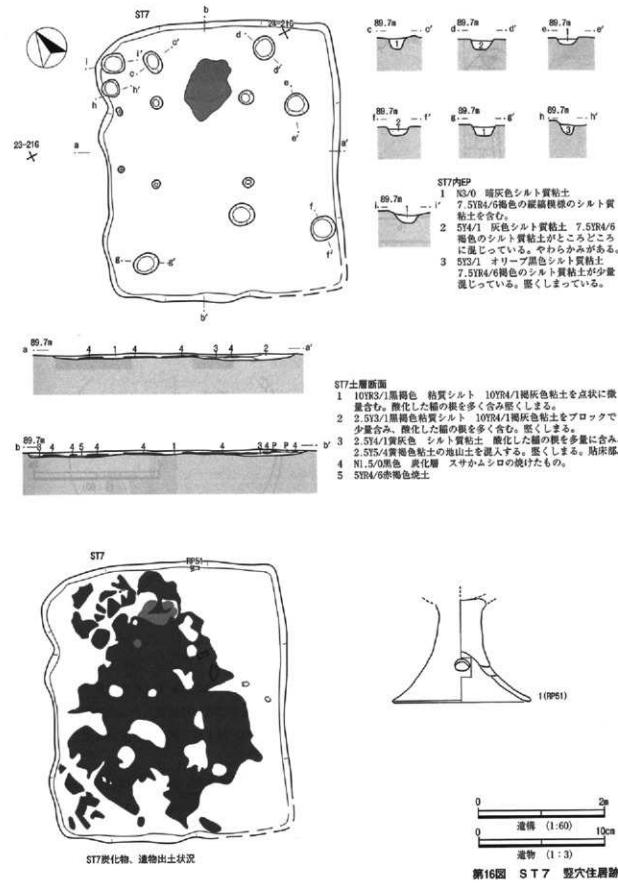
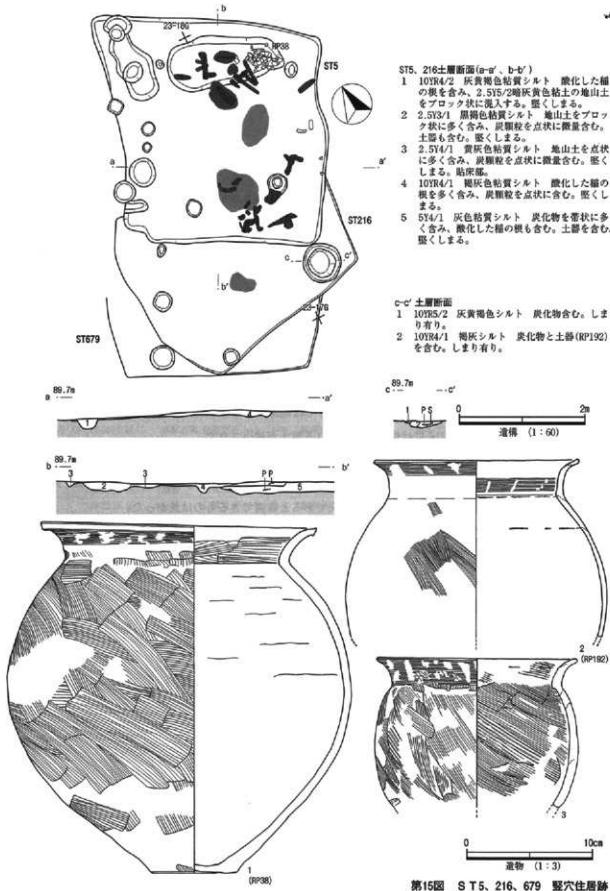
第15図1、3はS T 5から出土した甕で、1は一般的に「能登甕」と呼ばれるものの特徴を持つ。第15図2はS T 216出土の甕である。

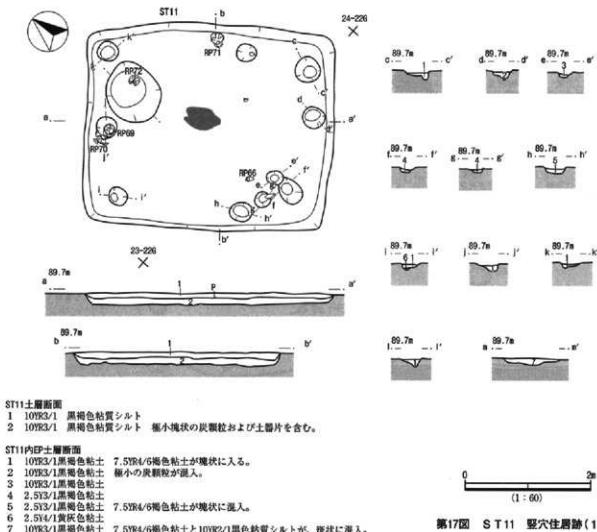
S T 7竪穴住居跡（第16図）

調査区B区の24-21、22 Gに位置する。南北軸が長い、3.8 m × 4.4 m の長方形である。

残存状況は良好といえる状態ではなかったが、床面直上に墨根材や木材と思われる炭化物を大量に検出したことから、焼失住居であると推測される。また、住居跡の北東壁寄り床面には、焼失住居跡と見られる焼土が検出された。

さらに、北東壁床面からは高杯の脚部（第16図1）が出土した。床面からは小ビットが検出されているが、S T 7の柱穴であると推測できるものはなかった。

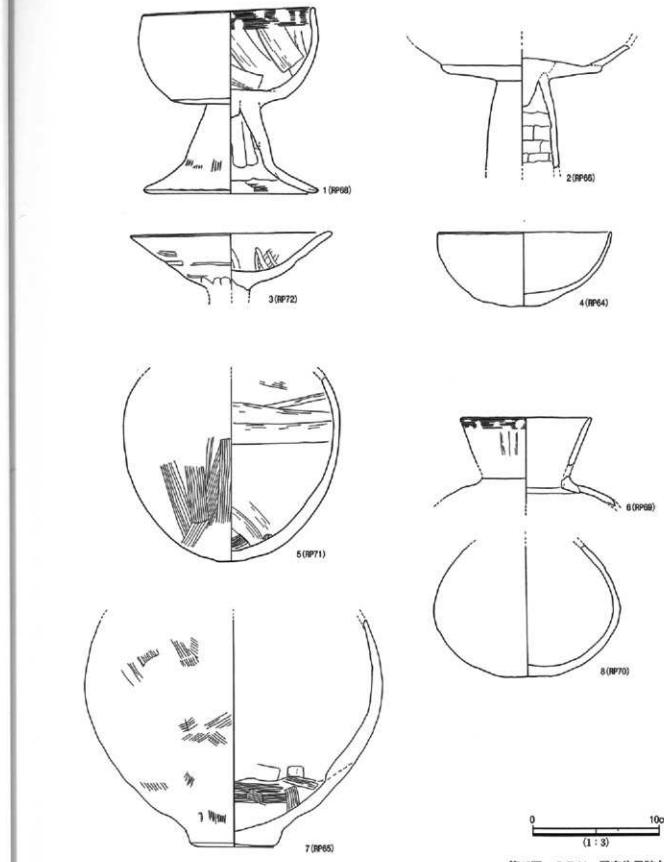


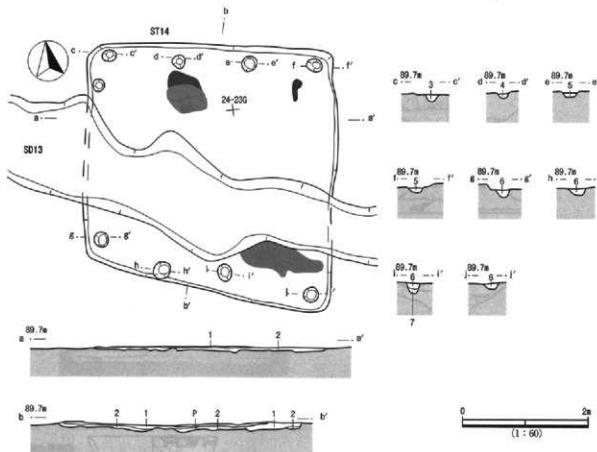


S T 11 壁穴住居跡(第 17、18 図)

調査区 B 区の 23 - 22, 23 G に位置する。南北軸が長い 32 m × 4 m の長方形である。残存状況はあまり良好とはいえないが、覆土は 2 層あり、壁面に近い床面直上から土師器(第 18 図)が比較的まとまって出土している。内訳は高杯が 3 点、环 1 点、甕 1 点、畫が 3 点である。保存状況はあまり良好ではない。

また、住居跡のはば中央に伊跡と見られる焦土が検出された。床面からは、ピットや遺物を伴う落ち込みが検出されたが、住居内施設と積極的に肯定できるものはない。

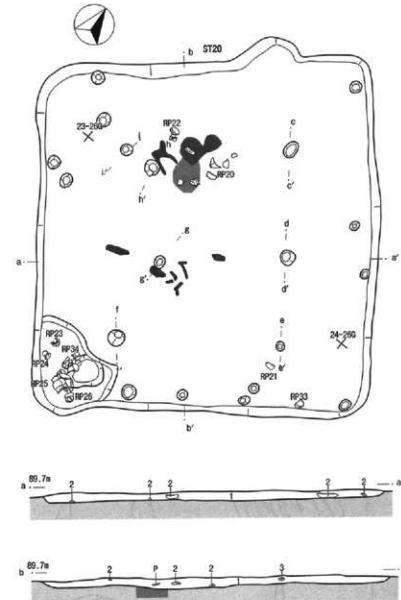




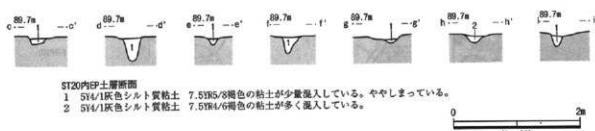
第19図 ST14 積穴住居跡

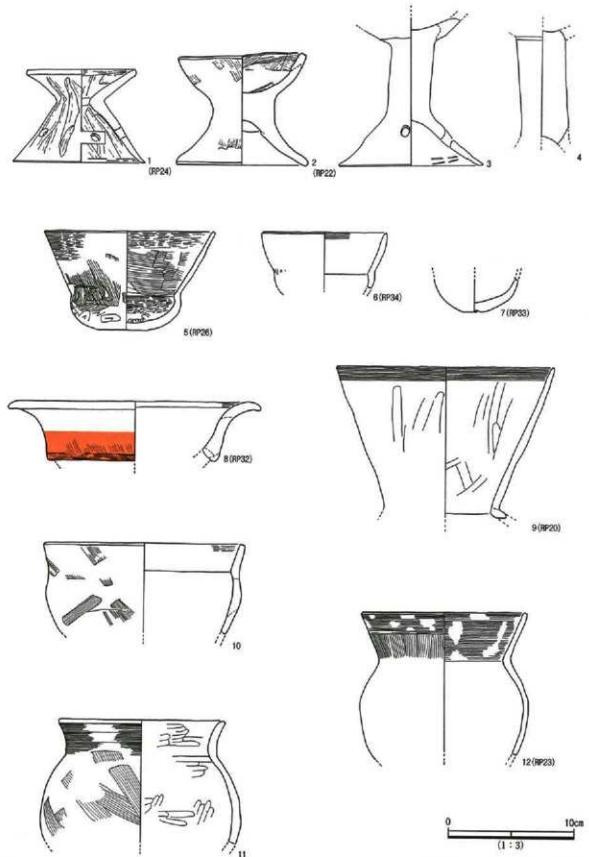
ST 14 積穴住居跡（第19図）

調査区B区の24、25～23、24 Gに位置する。東西軸、南北軸がほぼ等しい4m×4mの正んだ正方形である。覆土は2層で、壁面には壁柱穴と思われるピットが検出された。床面には、北壁寄りと南東隅に炉跡と推測できる焼土が検出された。この住居跡はほぼ中央を東西方向に後世の溝跡SD13が横切っている。また、遺物はまったく出土しなかった。

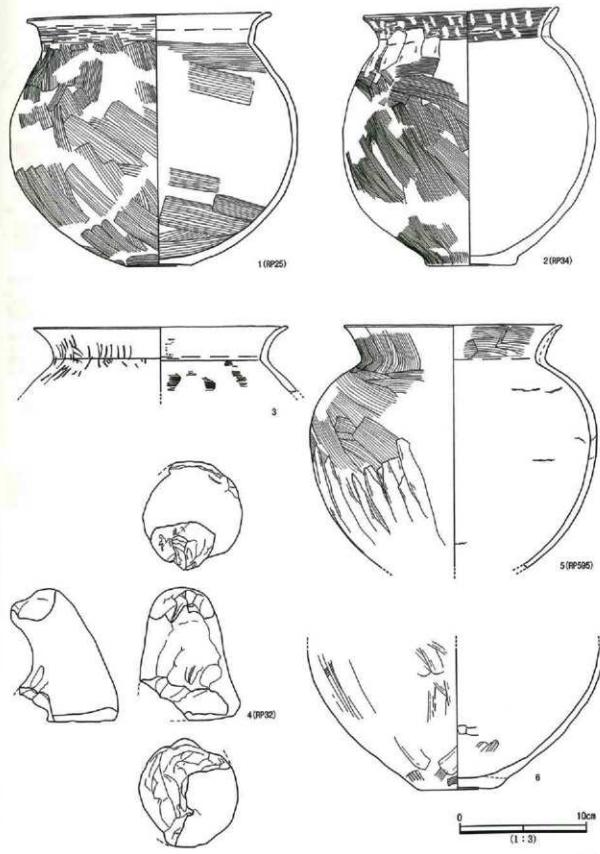


第20図 ST20 積穴住居跡（1）

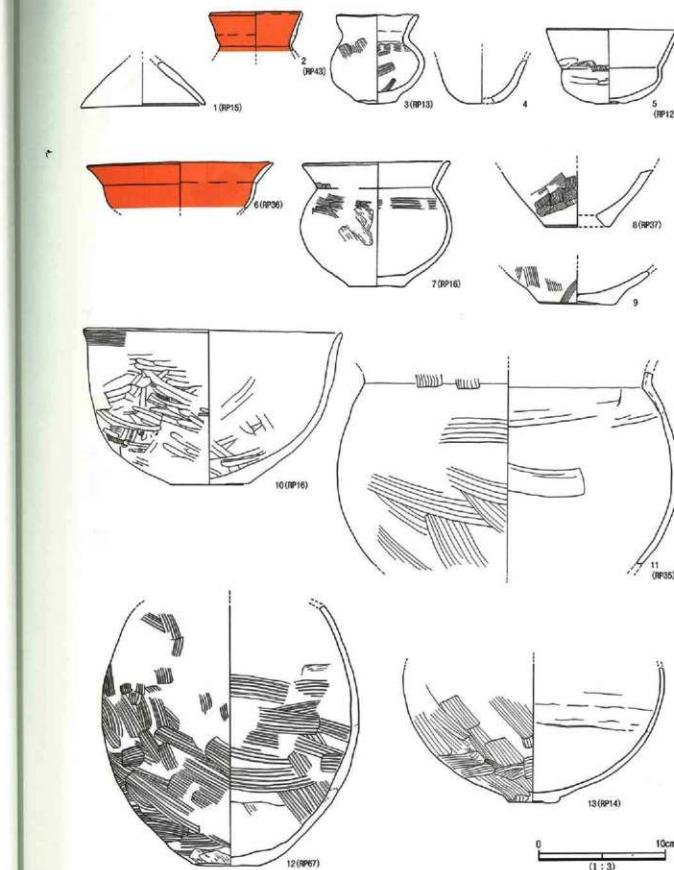
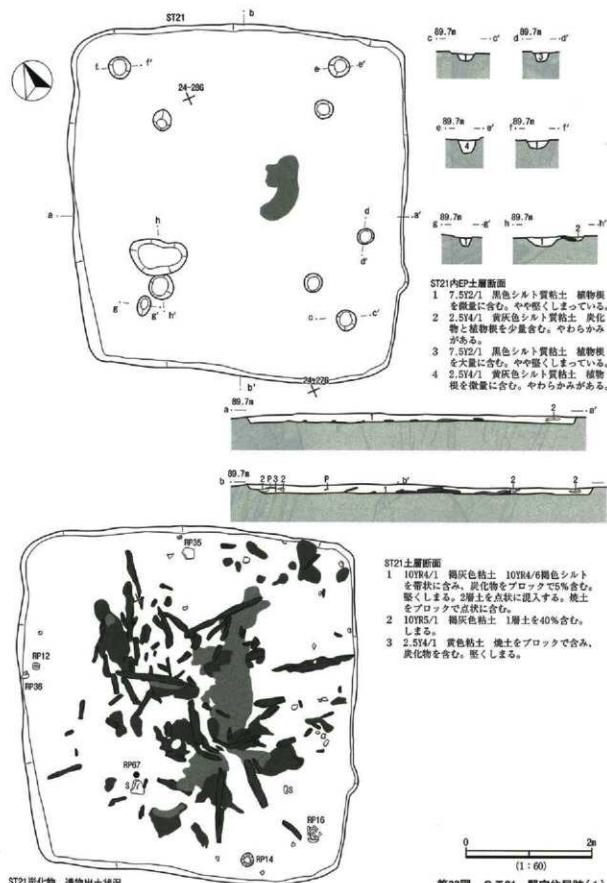




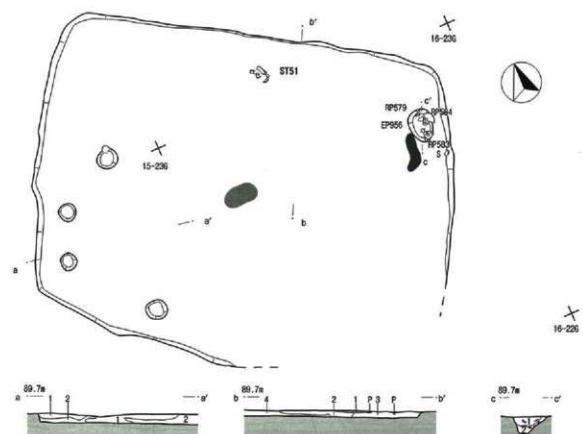
第21図 ST 20 壺穴住居跡(2)



第22図 ST 20 壺穴住居跡(3)

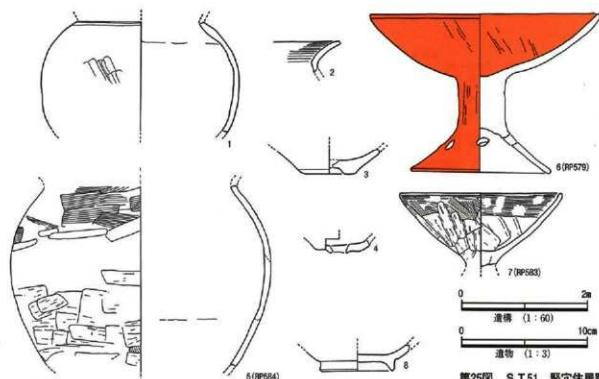


第24図 ST21 壁穴住居跡(2)

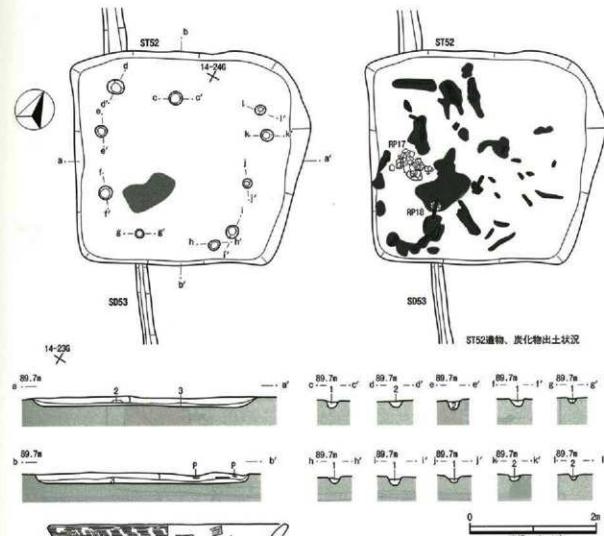


ST51土層断面

- 1 10YR 2/2 オリーブ黒シルト しまり有り。灰土。
2 10YR3/1 黒褐色シルト しまり有り。灰化を少含む。
3 5Y3/1 オリーブ黒シルト しまり有り。土器片有り。
4 10YR2/1 黑色粘質シルト しまり有り。



第25図 ST51 穴住居跡

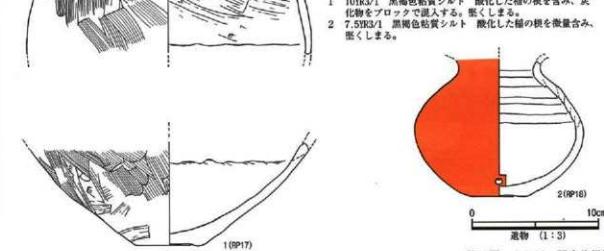


ST52土層断面

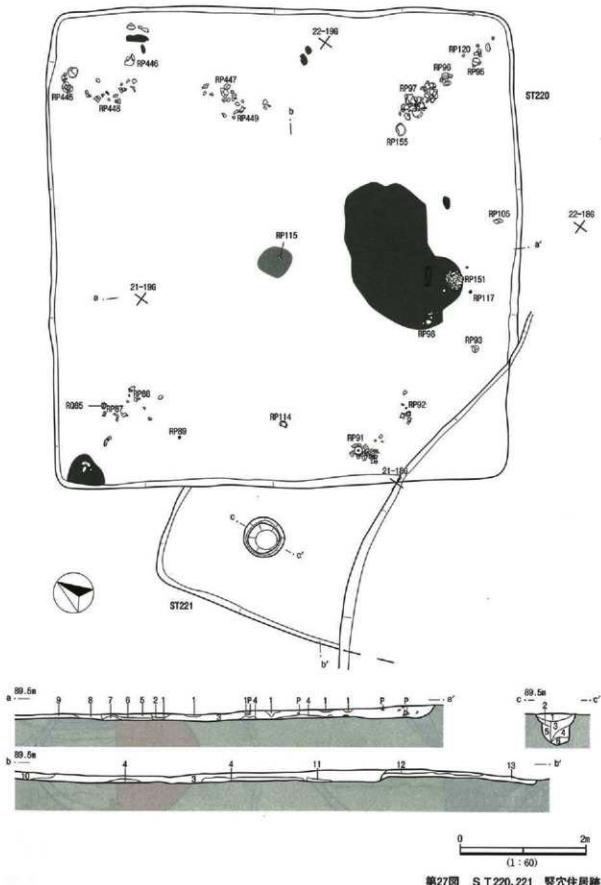
- 1 10YR 2/1 黒褐色シルト質粘土 灰化した種の根を含み、灰化した種の根を点状で混入する。堅くしまる。
2 10YR 5/6 黑褐色粘土 質粘土と層土を含む。堅くしまる。
3 10YR 2/1 黑色粘土質粘土 灰化した種の根を点状で混入し、やわらかいたがまる。堅くしまる。

ST52HP断面

- 1 10YR 2/1 黑褐色粘質シルト 灰化した種の根を含み、灰化した種の根を点状で混入する。堅くしまる。
2 7.5YR 3/1 黑褐色粘質シルト 灰化した種の根を点状で混入し、堅くしまる。

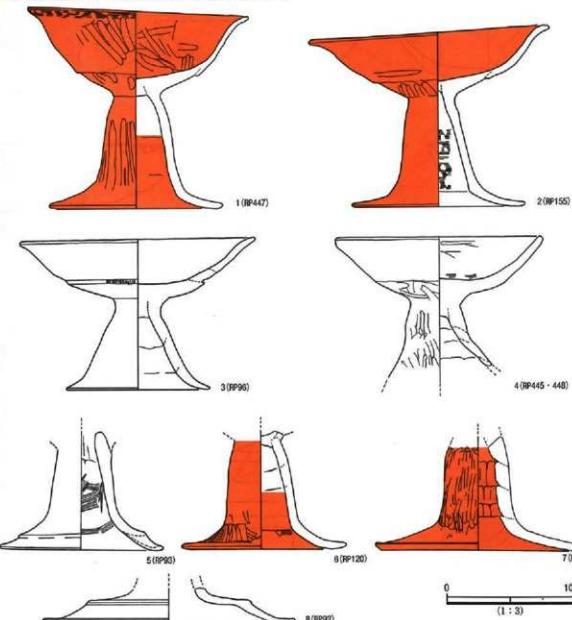


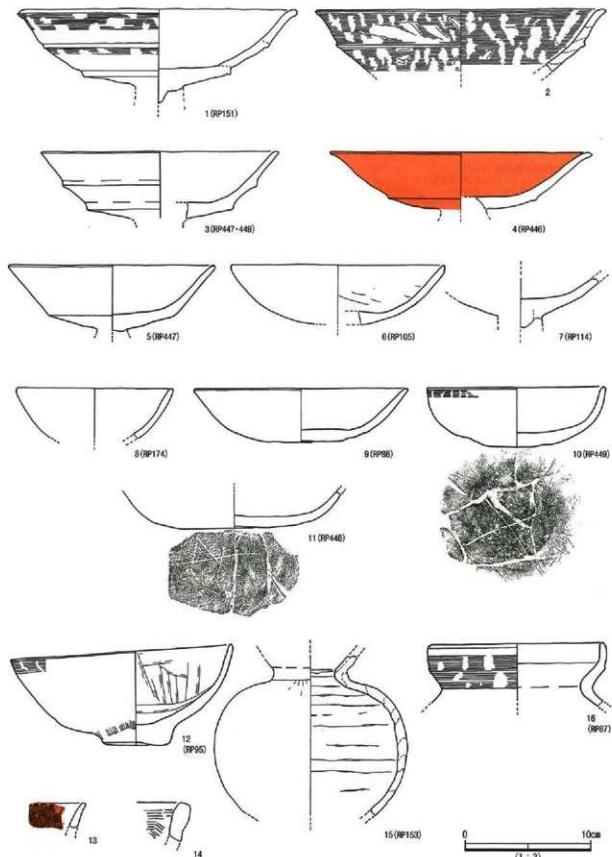
第26図 ST52 穴住居跡



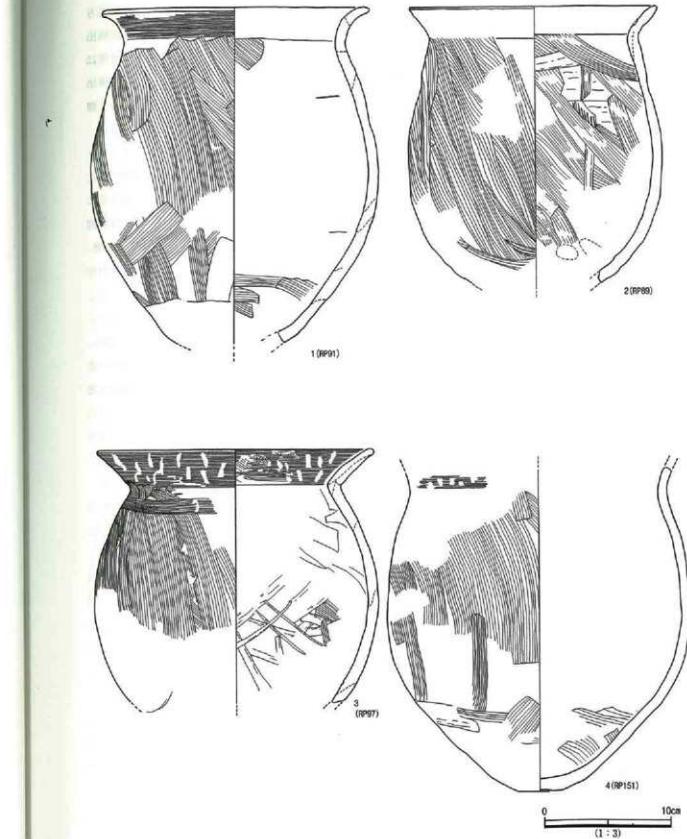
- ST220, 221土層断面 (c-a', b-b')
- 1 7.5m1.77 黒褐色シルト しまり有り。炭化物と土器片が多く含む。粘性やや有り。
 - 2 10m2/2 黒褐色シルト 粘性やや有り。
 - 3 10m3/1 黒褐色シルト しまり有り。炭酸鉄、土器頸片含む。10m5/1褐色シルトを斑状に含む。
 - 4 10m4/1 黑褐色シルト しまり有り。10m5/1褐色シルトを斑状に含む。
 - 5 5.5m1 黑褐色シルト しまり有り。炭酸鉄含む。
 - 6 10m3/1 黑褐色シルト しまり有り。粘性やや有り。
 - 7 10m3/2 黑褐色シルト しまり有り。粘性やや有り。10m4/2S 黄褐色シルトを斑状に含む。
 - 8 7.5m2/2 黑褐色シルト しまり有り。粘性やや有り。
 - 9 2.5m1 黄褐色シルト しまり有り。炭酸鉄含む。
 - 10 10m2/1 黑褐色粘シルト 炭化盆含む。
 - 11 2.5m2/1 黑褐色シルト しまり有り。炭酸鉄含む。
 - 12 2.5m2/2 黑褐色シルト しまり有り。粘性やや有り。
 - 13 2.5m2/3 黑褐色シルト しまり有り。炭酸鉄含む。10m4/2S 黄褐色シルトを斑状に含む。

ST221内 RP450土層断面 (c'-c')





第29図 ST 220 穂穴住居跡出土遺物(2)



第30図 ST 220 穂穴住居跡出土遺物(3)

S T 20 穫穴住居跡（第 20、21、22 図）

調査区 B 区の 24、25 - 26、27 G に位置する。南北軸がやや長い $5.5 \text{ m} \times 5.6 \text{ m}$ のほぼ正方形である。覆土は 1 層である。床面からは中央や北壁寄りから炉跡と推測できる焼土が検出されたほか、炭化材も出土した。炉跡の周辺には器台や小型壺が出土している。住居跡南側には、器台や小型壺、甕などの土師器を多数包含する落ち込みが検出されている。ピットも検出されているが、積極的に S T 20 に伴う柱穴だと肯定することはできない。また、土質の支脚も出土している。

S T 21 穫穴住居跡（第 23、24 図）

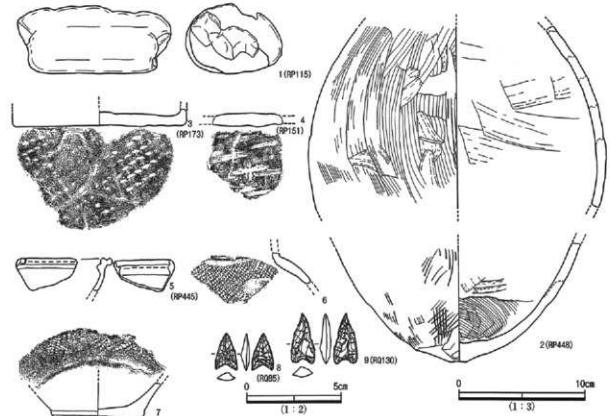
調査区 B 区の 24、25 - 28、29 G に位置する。南北軸がやや長い $5.3 \text{ m} \times 5.6 \text{ m}$ の長方形である。依存状態は悪く、覆土は 1 層である。覆土を取り除くと床面に直上には炭化物と焼土が大量に出土し、焼失住居であると推測できる。床面からはピットや落ち込みが検出されたが、積極的に住居内施設であると肯定することができない。また、炭化物、焼土に混じり、小型壺、甕、鉢といった土師器がまとまって出土している。床面には炉跡と推測できる焼土が、中央部や東寄りから検出された。

S T 51 穫穴住居跡（第 25 図）

調査区 B 区の 15、16 - 23、24 G に位置する。東西軸が長い $6.7 \text{ m} \times 5.3 \text{ m}$ の長方形である。覆土は浅かった。床面では、住居跡のほぼ中央に炉跡と推測可能な焼土が検出されたほか、北東隅には甕や高杯といった土師器が埋められたピットが検出されている。他の住居内施設は発見できなかった。また、床面からの遺物の出土は見られなかった。

土師器を多数包含する落ち込み

土師器が埋められたピット



第31図 S T 220 穫穴住居跡出土遺物(4)

S T 52 穫穴住居跡（第 26 図）

調査区 B 区の 14、15 - 23 G に位置し、S D 53 を切っている。東西軸がやや長い $3.7 \text{ m} \times 3.4 \text{ m}$ の四辺正方形である。覆土は 1 層のみで、床面直上からは炭化物と土師器の甕と小型壺が出土し、焼失住居であると見られる。また、床面からはピットが検出されたが、配列や大きさからこの住居跡の柱穴であると断言するには躊躇せざるをえない。

S T 220、221 穫穴住居跡（第 27、28、29、30、31 図）

調査区 A 区の 21、22 - 19、20 G に位置する。S T 220 は東西軸がやや長い $7.7 \text{ m} \times 7.4 \text{ m}$ の正方形である。床面からはほぼ中央に炉跡と推測される焼土、直上から炭化物が検出された。住居内施設と思われるものは検出されなかった。また、床面からは高杯、甕、甕といった遺物が多数出土している。それに対し、甕は断片のみの出土である。縄文時代中期、晚期の遺物も散見できる。また、S T 221 を切っている。

S T 221 は東西軸を 4.5 m ほど超えないと推測されるが、南北軸は最近受けたと想像される削平により不明である。床面の標高が S T 220 より高く、圃場整備により殆ど削平を受けている。また、柱穴と思われるピットも検出された。S T 220 によって切られている。

S T 222、223 穫穴住居跡（第 32、33 図）

調査区 A 区の 22、23 - 17 G に位置する。S T 222 は南北軸がやや長い $5.2 \text{ m} \times 5.3 \text{ m}$ の正方形である。中央や北東壁寄りに炉跡と見られる焼土が検出された。床面からは柱穴と壁柱穴から周溝と推測されるピットや甕が検出された。また、北壁には 4 m 程の斜めに突出した張り出しがある。もう 1 棟 S T 222 により削平された 4 m 四方ほどの竪穴住居跡があったとも推測可能だが、もともと S T 222 が小型で、軸輪を微妙に変えて拡張された可能性も否定できない。この住居跡に伴う遺物は第 33 図 5 の小型の鉢だけである。

S T 223 は S T 222 に切られている。直径 4.5 m 程の円形と推測される。出土遺物から、時期は縄文時代晚期と思われる。

S T 224、225、481 竪穴住居跡（第 34 図）

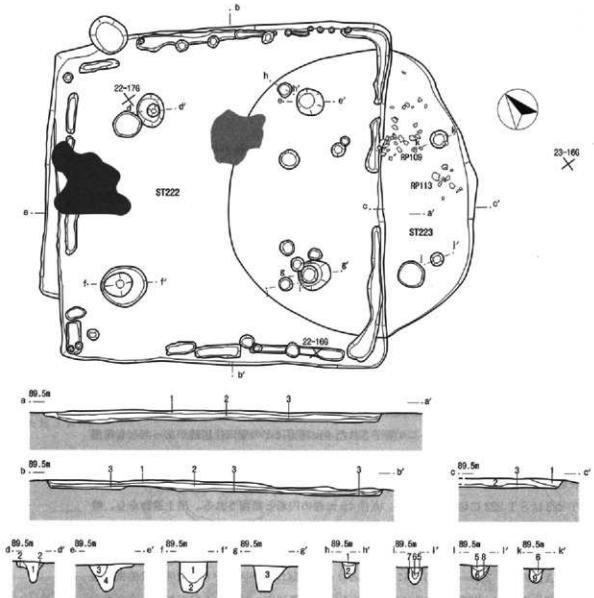
調査区 A 区の 19、20 - 19、20 G に位置する。この地区は調査区内でも比較的比較的微高地であると思われるが、昭和 40 年代に実施された圃場整備によって激しく削平され、床面の一部しか残存していない。断面もほとんど残存していないため、重複関係も不明である。徑 1 m ほどの比較的大きな土坑が検出されたが、どの住居跡のものなのか、住居跡とは全く関係ないのかなどは不明である。遺物も全く出土しなかった。

S T 226 穫穴住居跡（第 35 図）

調査区 A 区の 20 - 14 G に位置する。東西軸がやや長い $3.5 \text{ m} \times 3.2 \text{ m}$ の方形であるが、河川跡 S G 325 に面する南壁の線はかなり崩れている。床面からピットが検出されたが、この住居跡の柱穴とは言い難い。炉跡と見られるような焼土などは検出されなかった。また、住居跡施設後の S K 256、347 などの振込が見られる。S K 256 からは器台や甕といった土師器が出土している。

S T 227 穫穴住居跡（第 36、37 図）

調査区 A 区の 17、18 - 15、16 G に位置する。東西軸がやや長い $6.2 \text{ m} \times 5.5 \text{ m}$ の長方形である。覆土は 1 層であった。床面からは炉跡と推測できる焼土がやや西角寄りの位置から検出された



ST222上層断面 (a-a', b-b')

- 1 1092/1 黒色シルト 2.515/2暗灰色シルトが10%、2.512/1黒色シルトが2%ブロック状あるいは板状に混じる。堅くしまる。
- 2 1092/1 黒色シルト 2.515/2暗灰色シルトが9%、2.512/1黒色シルトが30~40%板状に混じる。堅くしまる。
- 3 2.515/2 嚢灰黄色粘質シルト 1092/1黒色シルトが5~30%程度ブロック状あるいは板状に混じる。しまり有り。貼り土。

ST222土質断面 (c-c')

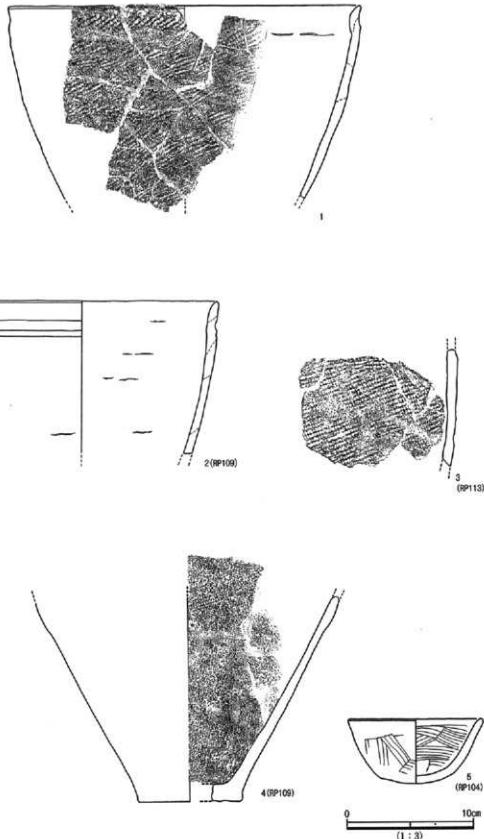
- 1 1094/2 底黄褐色砂質シルト ほぼ均質で堅くしまる。
- 2 1093/1 黑褐色シルト 1094/2底黄褐色シルトが2%程度埋に混じり、堅くしまる。
- 3 2.514/1 黄褐色粘質シルト ほぼ均質で堅くしまる。ねばりあり。

ST222, 223内EP土質断面

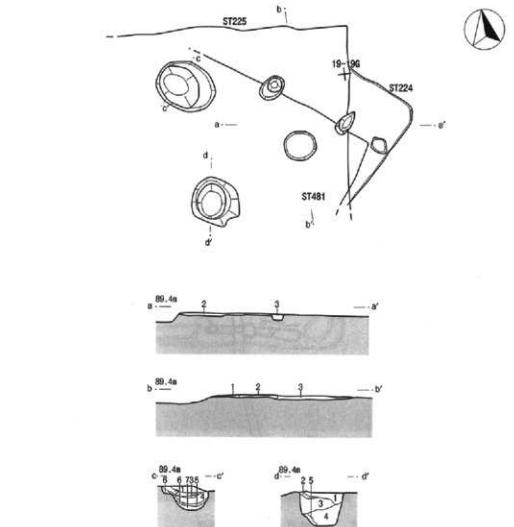
- 1 2.513/1 黑褐色シルト 2.515/1黄灰色シルトが10%程に混じる。
- 2 2.514/1 黄褐色シルト 2.515/1黄灰色シルトが10%程に混じる。
- 3 515/1 黄褐色シルト 2.514/1黄褐色シルトが10%程に混じる。
- 4 515/1 黄色シルト 513/1リード黒色シルトが30%程ブロック状に混じる。しまり有り。
- 5 2.513/1 黄褐色シルト 2.514/1黄灰色シルトが5%程板状に混じる。しまり有り。
- 6 2.513/2 オリーブ黒色シルト 514/1灰色シルトが5%程板状に混じる。しまり有り。
- 7 2.513/1 黑褐色シルト 2.514/1黄灰色シルトが10%程板状に混じる。しまり有り。
- 8 513/1 オリーブ黒色シルト 514/1灰色シルトが3%程板状に混じる。
- 9 10/1 噪灰黄色粘質シルト 10/1黒色シルトが5%程ブロック状や板状に混じる。しまり有り。

0
(1 : 60)
2a

第32図 S T222,223 聖穴住居跡(1)



第33図 S T222,223 聖穴住居跡(2)



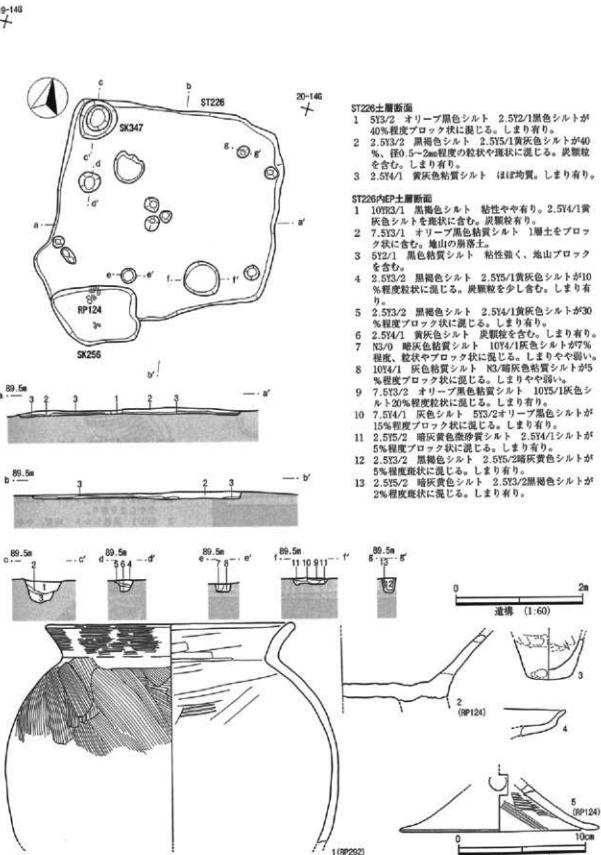
ST224、ST225土層断面 (a-a'、b-b')
 1 10YR3/1 黒褐色シルト しまり有り。焼土ブロックを2%程度含む。
 2 7.5TR2/1 黒色シルト しまり有り。やや粘性有り。
 3 10YR3/2 黒褐色シルト ややしまり有り。地山を透視状に含む。

STP中土質面積(%)	
2. 5/52	黒褐色粘土シルト
2. 5/52	黒褐色粘土シルト
3/102/2	黒褐色粘土シルト
4. 5/32	オリーブ色シルト
4. 5/32	黒褐色粘土シルト
2. 5/52	黒褐色粘土シルト
7. 5/12/2	黒褐色シルト

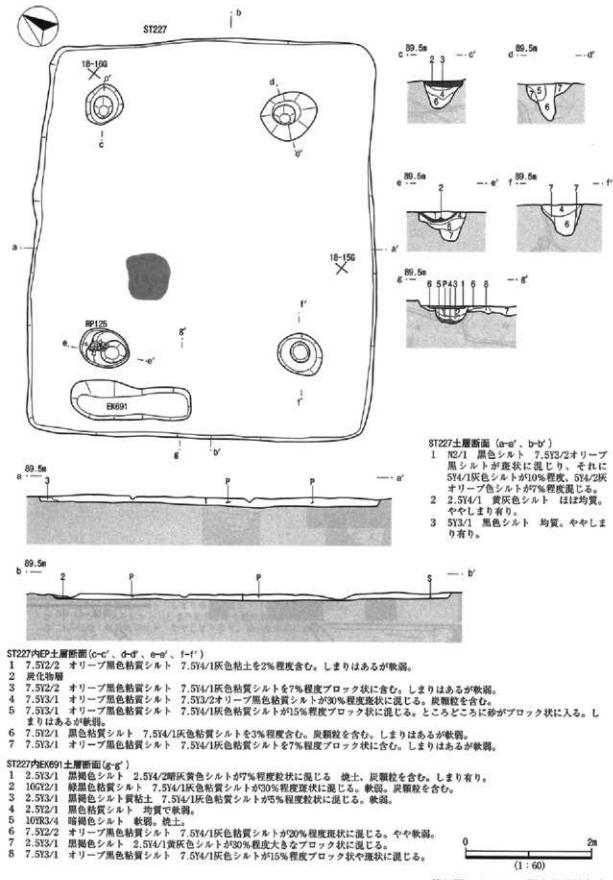
室内用断面形状（φ×d）	規格	特徴
1. 10YR2/2 黒褐色+黒土	10YR4/1 黑褐色シルトが15%程度底に混じる。かたくしまる。	
2. 10YR2/2 黒褐色シルト	底質でかたくしまる。	
3. 10YR2/2 黒褐色シルト	10YR4/1 黑褐色シルトが2.5%程度ブロク状に混じる。しりとりなし。やや潤滑。	
4. N2/2 黒褐色土	53/2/24リーブ暗色粘土が15%程度ブロク状に混じる。軟弱でしりとりなし。	
5. 7.5G/31 緑褐色シルト	7.5/2/24暗色灰褐色粘土が3%程度ブロク状に混じる。軟弱でしりとりなし。	

$\ell = 2\pi$

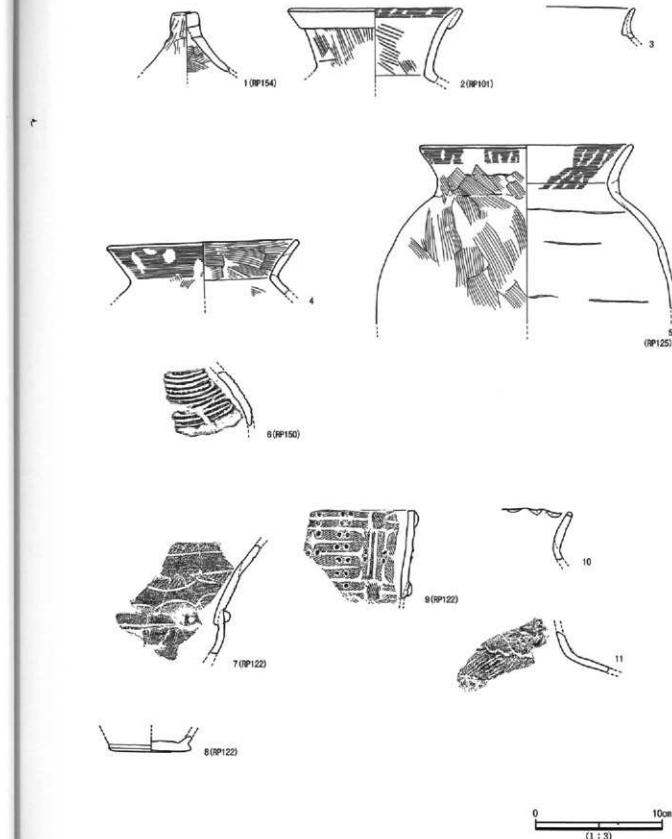
第34図 ST224-225-481 聚宮住居跡



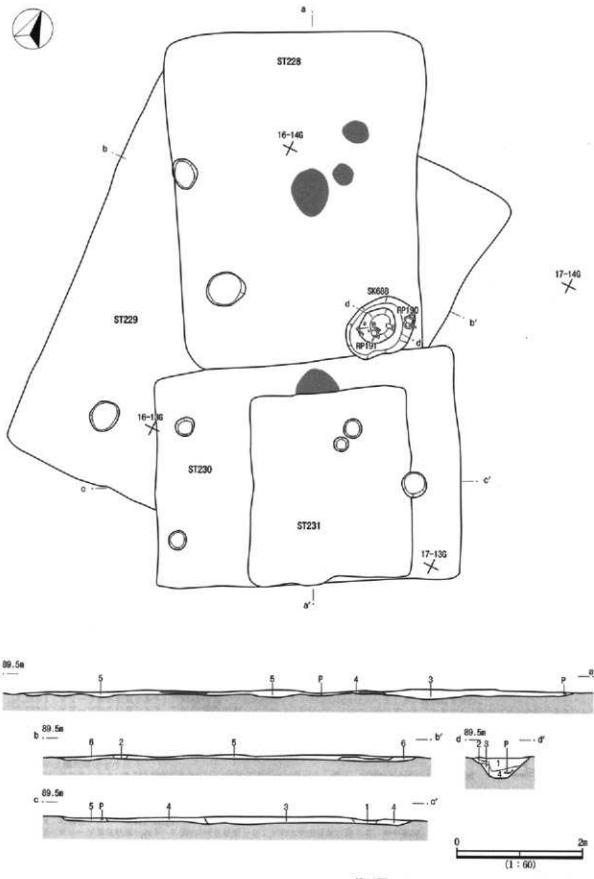
第25圖 G.T.226 驅穴住居跡



第36図 ST227 積穴住居跡(1)



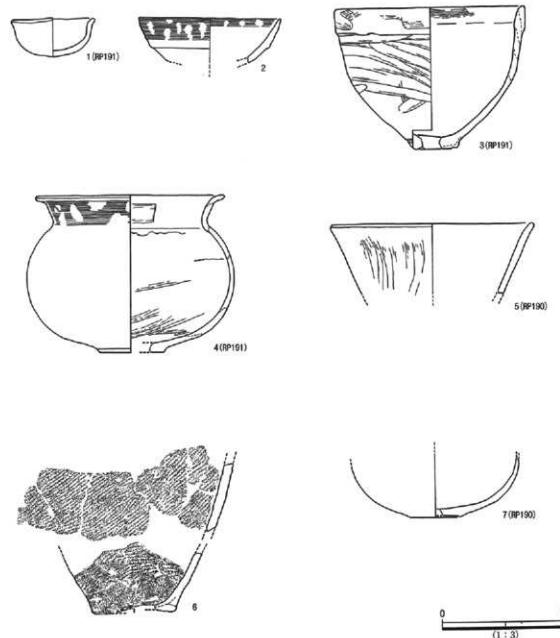
第37図 ST227 積穴住居跡(2)



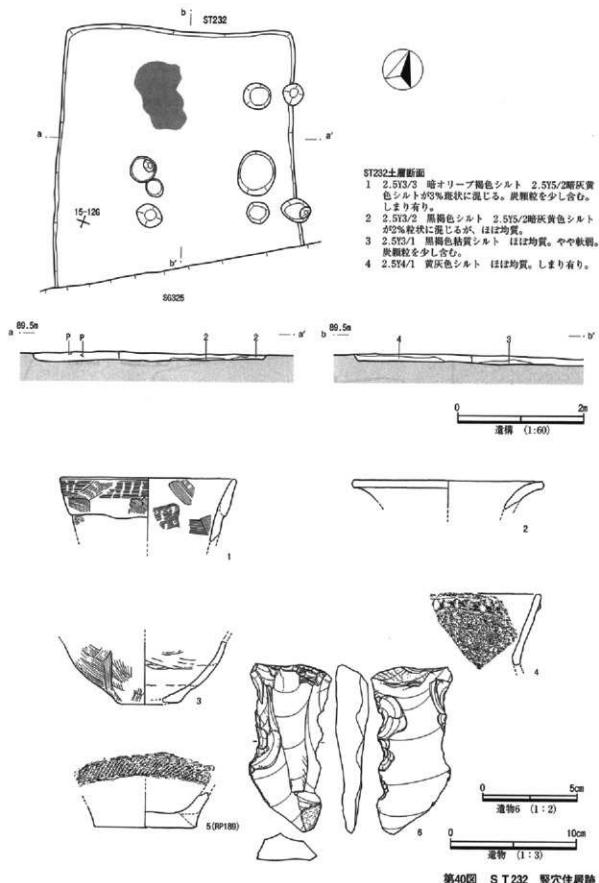
第38図 S T 228.229.230.231 壁穴住居跡(1)

S6088上層断面
1. 1092/1 黒褐色シルト 泥化物と土器組片含む。
2. 1093/1 黒褐色粘質シルト 砂分多い。自然堆積。
3. 513/1 オリーブ黒褐色粘質シルト 地山土がブロック状に混じる。土器含む。
4. 7.513/2 オリーブ黒褐色シルト 粘性有り。泥化物と土器含む。

ST228, 229, 330, 231上層断面
1. 2.513/1 黒褐色シルト 2.515/2暗灰黄色シルトが20%ブロック状に混じる。しまる。
2. 2.513/2 黒褐色シルト 2.514/1黄灰色シルトが5%、2.514/2暗灰黄色シルトが5%粒状に混じる。炭酸鉄を含む。しまる。
3. 2.513/1 黑褐色シルト 2.514/1黄灰色シルトが5%混じる。部分的に炭酸鉄を含む。しまる。
4. 2.513/2 黑褐色シルト 2.514/1黄灰色シルトが5%混じるがほぼ均質。しまる。
5. 2.513/2 黑褐色シルト 2.515/2暗灰黄色シルトが10%粒状や塊状に混じる。しまる。



第39図 S T 228.229.230.231 壁穴住居跡(2)



ほか、柱穴が4箇所、底に焼土が堆積した長さ2m、幅0.5m、深さ0.3mの溝状の堀込E K 601が検出された。抜き取りが行なわれたと推定できる柱穴には炭化物が堆積していた。また、その一つからは抜き取り時に施用されたと思われる甕が出土している。

遺物は土器器の蓋、壺、甕のほかに縄文時代後期の土器も出土している。

S T 228, 229, 230, 231 穫穴住居跡、S K 688 土坑(第38, 39図)

廣場整備により、殆ど削平され、断面でこれらの住居跡の重複関係を検証するのは不可能であったが、平面で関係がわかるものが殆どである。遺物の出土状況も皆無に等しい。

S T 228は調査区A区の16、17、14、15 Gに位置し、南北軸が長い3.8m×5.3mの長方形である。床面しか検出できなかった。炉跡と思われる焼土がほぼ中央に位置している。遺物の出土はなかった。また、S T 229を切っているが、S T 230との重複関係は不明である。S K 688に切られている。

S T 229は南北軸が長い5.8m×6.8mの長方形である。床面しか検出できなかった。炉跡や柱穴、住居内施設は検出されなかった。S T 228, 230, 231より時期が古い。遺物は第39図2の高杯の环部が点土出しているが、この住居跡に伴うものかは微妙である。

S T 230は東西軸が長い4.8m×3.5mの長方形である。床面しか検出できなかった。北壁に炉跡と推測できる焼土が検出されたが、柱穴や住居内施設は検出できなかった。遺物も出土しなかった。S T 229より新しいがS T 231, SK 688より古い。S T 228との新旧関係は明白ではない。

S T 231は南北軸が長い2.5m×3mの長方形である。床面しか検出できず、柱穴や炉跡、住居内施設は見つからなかった。北壁面がS T 230の炉跡を切っている。

S K 688は短軸0.8m、長軸1m、深さ0.3mの楕円形の土坑である。重複関係から、S T 228, 229, 230より新しいと推定される。鉢類や壺類といった遺物が数点出土している。

S T 232 穫穴住居跡(第40図)

調査区A区の16、15-12、13 Gに位置する。南北軸が長い3.6m×4mの長方形である。床面しか検出できなかった。炉跡と推測される焼土が北壁寄りに検出された。柱穴やその他の住居内施設は検出できなかった。南壁はS G 325河川跡により削平され、消滅している。遺物は土器器の蓋や壺の断片が出土しているほか、縄文時代の土器や石器も出土している。

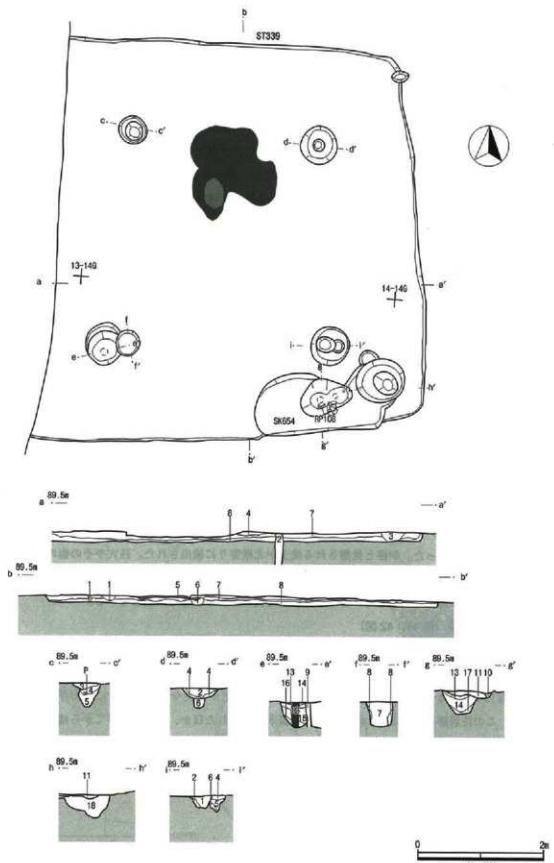
S T 339 穫穴住居跡(第41、42図)

調査区A区の14-14、15 Gに位置する。南北軸がやや長い6m×6.3mの長方形であるが、西壁が調査区外にはみ出るため確認できなかったが、ほぼ正方形をしていると予想される。床面しか残存していないかったが、炉跡と思われる炭化物と焼土が中央や北壁寄りに検出された。また、この住居跡のものと思われる柱穴が4箇所検出されたほか、床面を下げてから確認できたため、この住居跡よりやや古いと思われる堀込SK 654も検出された。出土遺物は、SK 654などから高杯や壺、甕、砥石が見られる。

さらに、この住居跡を噴砂が切っていることを確認することができたが、いつの時代に生じた現象なのか判断することはできなかった。

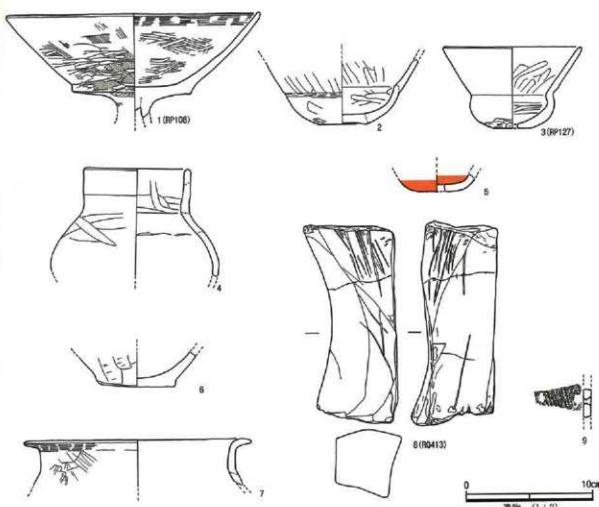
S T 446 穫穴住居跡(第43図)

調査区A区の13、14-12、13 Gに位置する。住居跡の西側が調査区外にあるため、全体を調査することができなかつたが、確認できただけでも短軸6m、長軸6.7mの大きさであった。

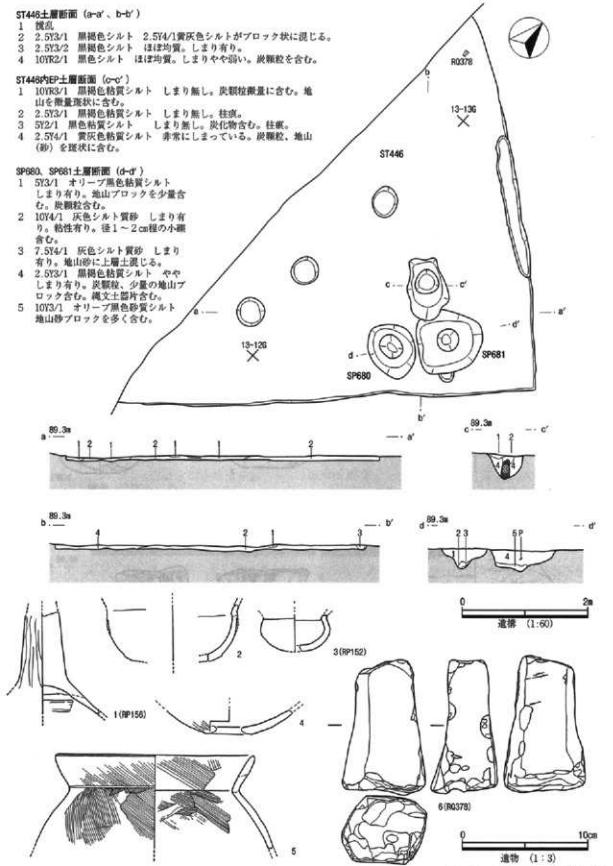


第41図 S T339 翼穴住層跡(1)

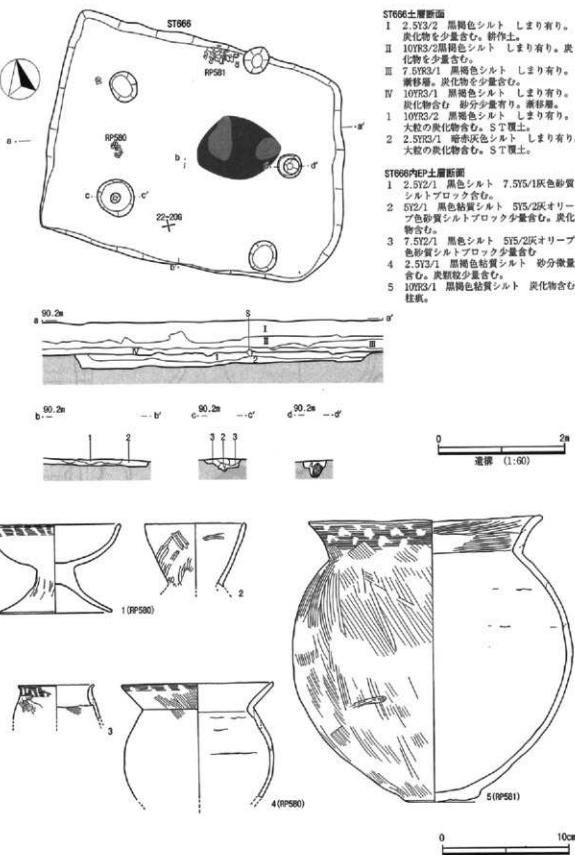
- | ST339-1 黒色粘質 | |
|--------------|--|
| 10/93/1 | 黒色粘質アルト 水化物含む。しまり有り。 |
| 2/5/93/1 | 黒色粘質アルト 地山、植物体含む。 |
| 4/5/92/1 | 黒色粘質シルト 地山小ブロッケを微量含む。 |
| 4/5/92/1 | 黒色粘質シルト 地山小ブロッケを微量含む。 |
| 10/92/2 | 黒色粘質シルト 地山ブロッケを微量含む。 |
| 2/5/93/1 | 黒色粘質アルト 粘着性有り。粗根毛有り。含む。 |
| 5/5/93/1 | オリーブ黑色粘質アルト 7.5%41灰粘質アルトがブロッケ状に混じる。軟弱。 |
| 7/5/94/1 | 灰粘質アルト 均質。しまり有り。質の良の悪い。 |
| 9/5/94/1 | 灰粘質アルト 均質。しまり有り。 |
| 10/92/2 | 黒色粘質アルト ST339同様。 |
| 1/5/93/1 | 黒色粘質 シルト。非常にしまり有り。 |
| 10/92/2 | 黒色粘質アルト 植物體、土器片含む。柱状。 |
| 3/5/92/3 | オリーブ黑色粘質アルト 地山シルトワカツ多く含む。ややしまり有り。 |
| 10/94/4 | 開拓地粘質アルト 水化物と混和合む。地山ブロッケを多く含む。土師片含む。ややしまり有り。 |
| 15/2/93/2 | 黒色粘質シルト 地山シルトワカツ多く含む。ややしまり有り。 |
| 17/10/92/2 | 黒色粘質シルト 粘着性有り。 |
| 2/5/93/2 | 黒色粘質シルト 2.6%41灰粘質アルトが7%程度混じる。しまり有るが軟弱。軟粒を少し含む。 |



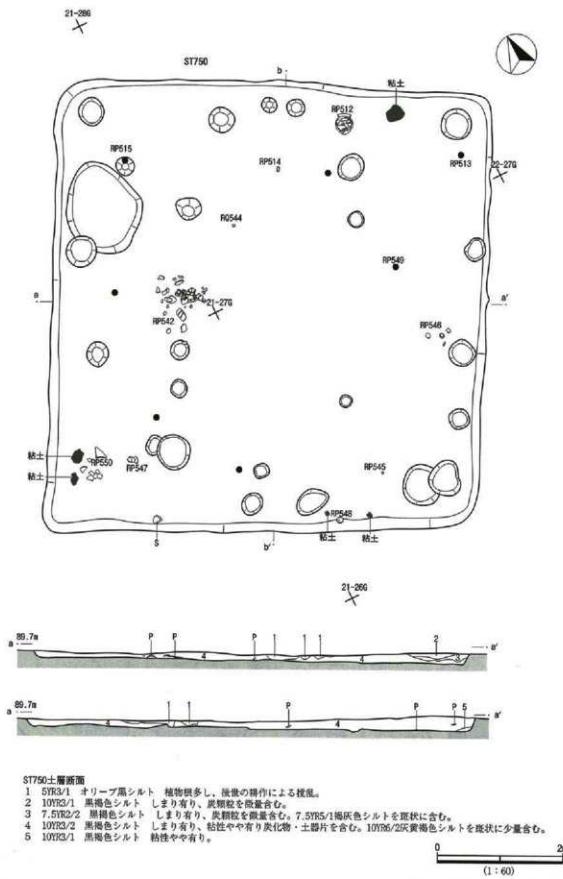
第42圖 S.T.220 驚空住民跡(2)



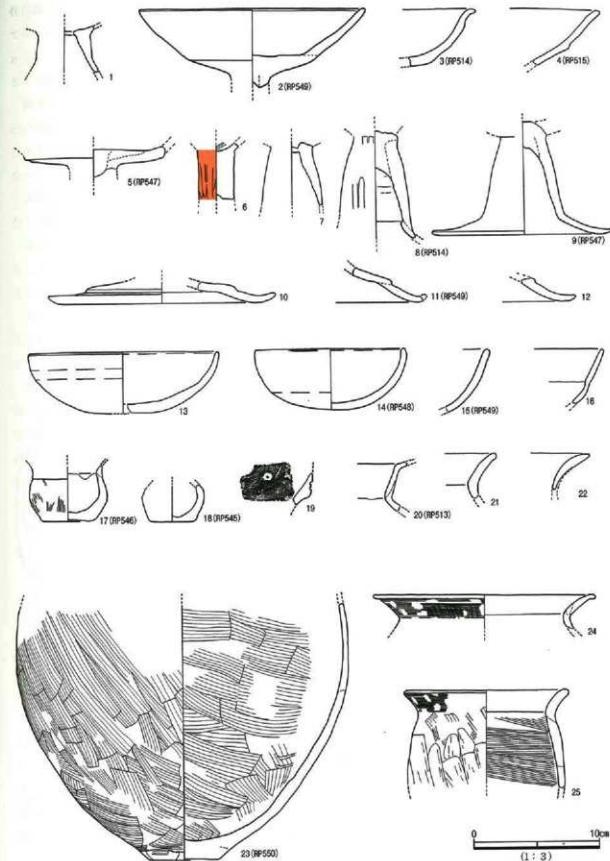
第43図 ST446 穴住居跡



第44回 S.T.666 野宮住民館



第45図 ST750 穫穴住居跡(1)



第46図 ST750 空穴住居跡(2)

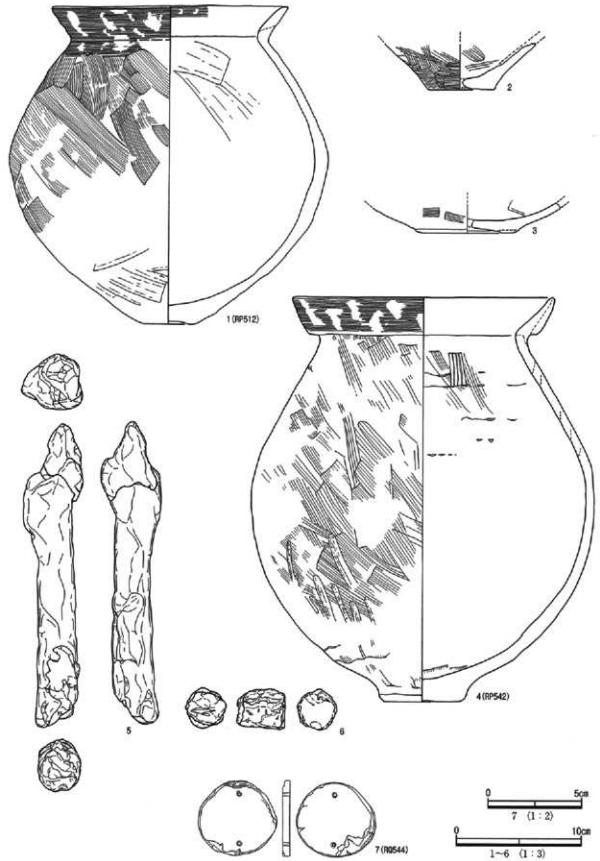


図47図 S T 750 積穴住居跡(3)

住居跡内からは比較的まとまって柱穴が検出された。他の住居跡の柱穴の可能性もあるが、立て替えられた可能性も否定できない。場面整備による削平を受けていたため、床面しか検出できなかつた。出土遺物は高杯、鉢、壺などの断片と砾石である。

S T 666 積穴住居跡(第44図)

調査区A区とB区の境界線上の22、23-20、21Gに位置する。東西軸が長い4.7m×3.5mの東壁と西壁な長方形をしている。炉跡と推定可能な炭化物と焼土が中央やや東寄りから検出された。ピットが数基確認できたが、この住居跡の柱穴であると積極的に肯定することはできない。

床面から、小型高杯や壺、壺などの遺物が出土している。

S T 750 積穴住居跡(第45、46、47図)

調査区B区の21、22-27、28Gに位置する。南北軸がやや長い6.8m×7mのはば正方形をしている。炉跡や柱穴、その他の住居内施設を検出することはできなかつた。また、壁面の近くで粘土塊が出土した。

出土遺物は壺、壺、壺のほか高杯の断片といった土師器類のほか、壁材の一部の可能性もある土製品や有孔石盤も出土している。

S T 751 積穴住居跡(第48、49図)

調査区B区の20、21-25、26Gに位置する。6m×6.3mのはば正方形をしている。一部、極めて最近に受けたと想像される巾2m程の擾乱が存在した。焼土が住居跡内から中央やや北寄りと南角隅、南東壁の東寄りの3箇所検出された。特に南東壁東寄りの焼土からは、破片ながらも土師器の壺も伴出していることから、カマド状の焼成施設が存在していた可能性を否定できない。また、南東壁には長さ2m程の張り出しが観察できた。この住居跡の階段状の出入り口か縦状の階段の可能性が考えられる。さらに、4箇所柱穴を検出することができた。

遺物の出土状況は悪く、焼土部分から壺、壺の断片はか管玉が見られる。

S T 752 積穴住居跡(第50図)

調査区B区の23-25、26Gに位置する。3.3m×3.3mのはば正方形をしている。床面直上からは炭化物が大量に広がっているのが検出された。焼失住居の可能性が高い。炉跡と想定 焼失住居 できる焼土は検出できなかつた。住居内から落ち込みやピットを検出することはできたが、この住居の柱穴と断言できるものはない。

遺物の出土はあったが、細片のみで図化できるものはなかつた。

S T 753、754 積穴住居跡(第51図)

調査区B区の23-23、24Gに位置する。2次調査と4次調査の調査区境界に位置し、どちらも検出面が床面で、残存状況が非常に悪かった。2次調査調査区側である東半分は検出できなかつた。重複関係からS T 753がS T 754より古いと推測できる。また、S T 754からは炉跡と推測できる焼土が見られる。さらに、S T 754床面からは、住居跡より古いと推定できる遺物を伴わない焼込が検出された。両住居跡とも図化できるほどの遺物の出土はなかつた。

S T 755 積穴住居跡(第52、53図)

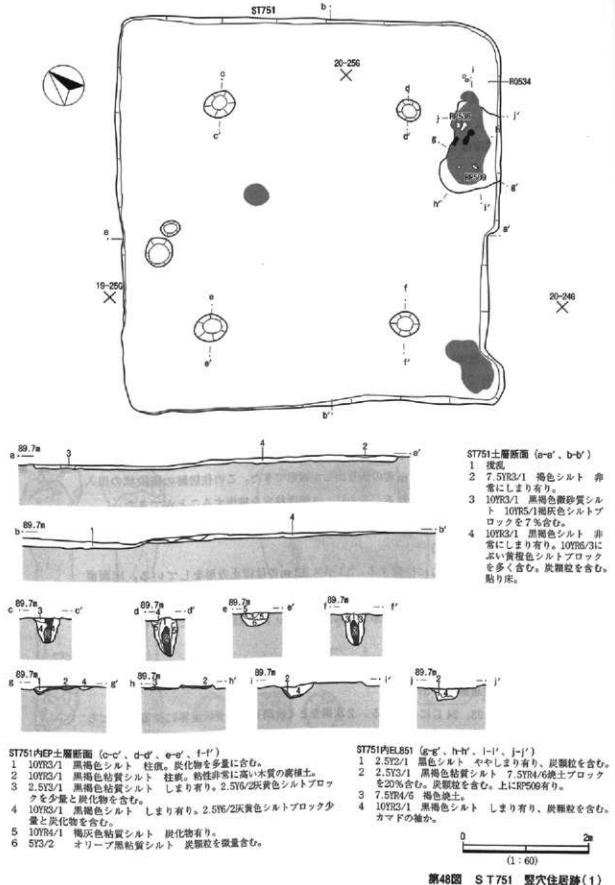
調査区B区の18、19-22Gに位置する。一辺が4.4mほどの方形である。住居跡のほぼ半分は調査区外のために未調査である。北東壁よりの床面から炭化物、焼土が検出され、炉跡が

延 石

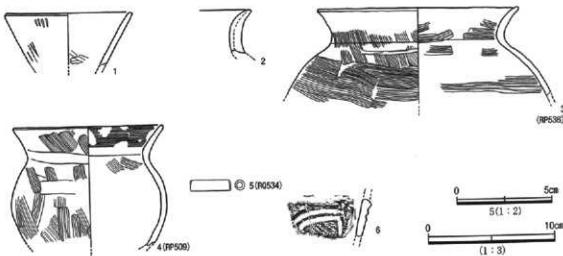
有孔石盤

カマド状の
燃焼施設

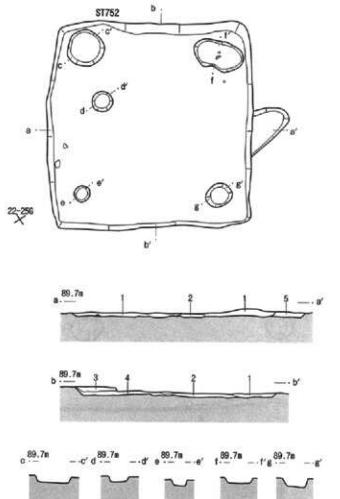
管 玉



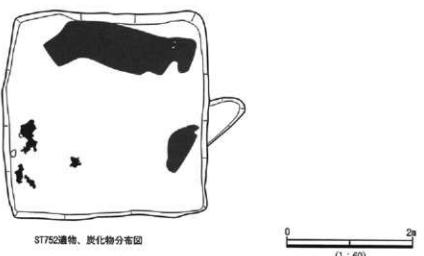
存在したと推測できる。住居内からビットが数基検出できたが、積極的にこの住居跡の柱穴ではあると断言することはできない。



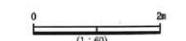
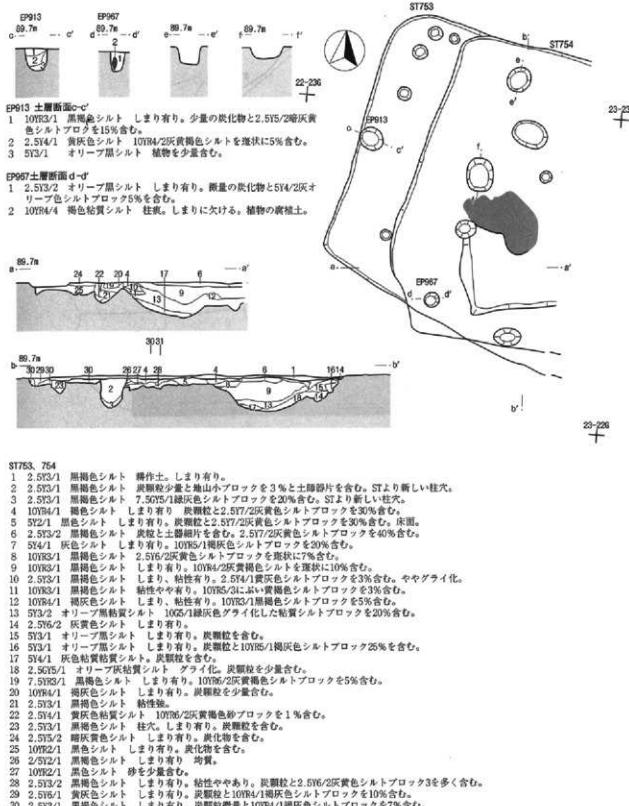
第49圖 S T751 穩穴住居跡(2)



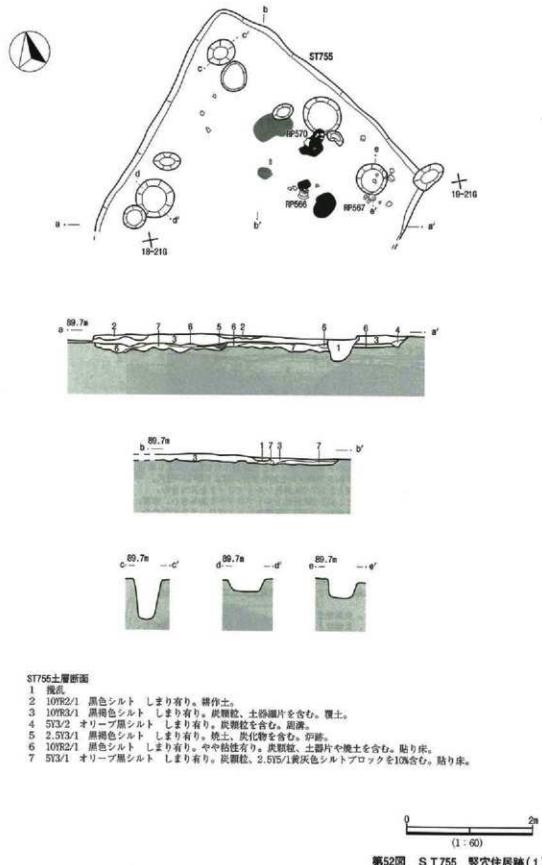
ST752下層断面
1 10YR5/2 黑褐色シルト しまり有り。やや粒性有り。炭酸鉄・炭化物を含む。
2 2.5Y2/1 黑褐色シルト しまり有り炭酸鉄を含む。
3 2.5Y3/1 黑褐色シルト しまり有り炭酸鉄を微量含む。2.5Y5/2ルートブロックを15%含む。
4 10YR5/2 黑褐色シルト しまり有り炭酸鉄・炭化物を含む。10YR5/2K 黄褐色シルトブロックを5%含む。
5 2.5Y2/1 黑褐色シルト しまり有り炭酸鉄を微量含む。



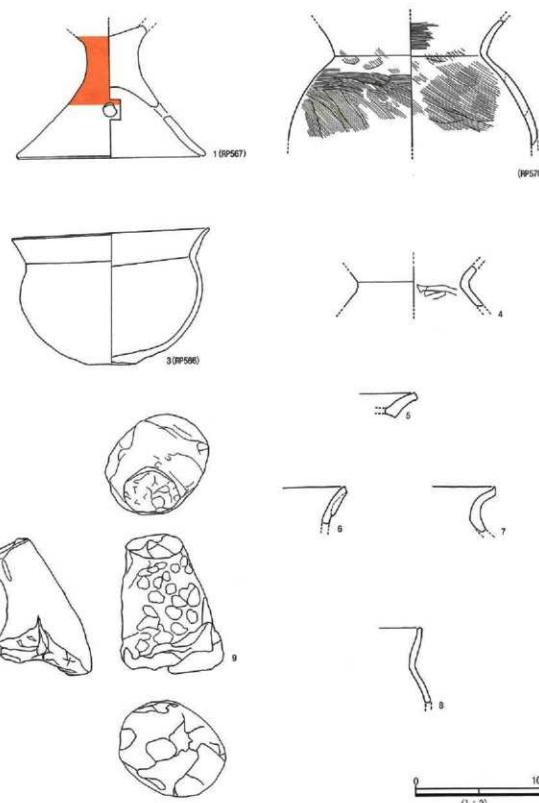
第50図 S T752 壓穴住居跡



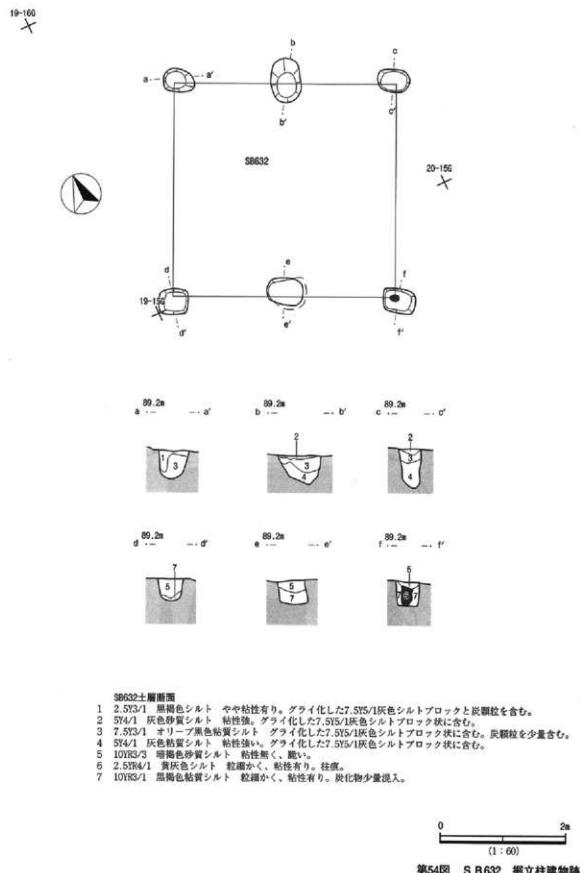
第51図 S T753,754 壓穴住居跡



第52図 ST755 竪穴住居跡(1)



第53回 S T 755 聖穴住居跡(2)



3 挖立柱建物跡

今回の調査で挖立柱建物跡が4棟検出された。いずれも遺物の伴は見られなかったが、遺構の分布状況から、古墳時代のものと考えられる。また、すべての挖立柱建物跡は極めて小規模で、住居として使用していたのではなく、倉庫として活用していた可能性のほうが高いと思われる。

S B 632 挖立柱建物跡 (第54図)

調査区A区20 - 16 Gに位置する。一辺が3.5m程の正方形である。東西軸に3基ずつ柱穴ある。

S B 870, 960 挖立柱建物跡 (第55図)

調査区B区19, 20 - 22, 23 Gに位置する。S B 870は1.8m × 1.7mのほぼ正方形である。規模は小さい。S B 960は4m × 3.5mのはば正方形で、柱穴は4基あった。柱痕が確認でき柱たのは2基である。

S B 890 挖立柱建物跡 (第56図)

調査区B区20, 21 - 22, 23 Gに位置する。東西軸が長い5m × 4mの長方形で、東西軸に3基ずつ柱穴がある。柱の掘り方は非常に大きく、柱痕が残っているものが4基あった。

4 土坑

今回の調査で土坑は多数検出された。本報告書ではその中でも遺物がまとまって出土した土坑4基を掲載する。いずれも形態、土層から、廃棄土坑である可能性が高い。

S K 84 土坑 (第57図)

調査区B区15 - 33 Gに位置する。東西軸が長い2.9m × 1.4mの不定形で、検出面からの深さは0.3mである。

出土遺物は、土器器の高杯が2点、壺が6点、赤彩された小型壺の破片が1点、壺の破片が4個体分で、壺の出土量が多いのが目立つ。

S K 660 土坑 (第58図)

調査区B区20 - 21, 22 Gに位置する。南北軸が長い1.3m × 2.6mの不定形で、検出面からの深さは0.25mである。

出土遺物は土器器の壺、壺、鉢などのである。

S K 764 土坑 (第59図)

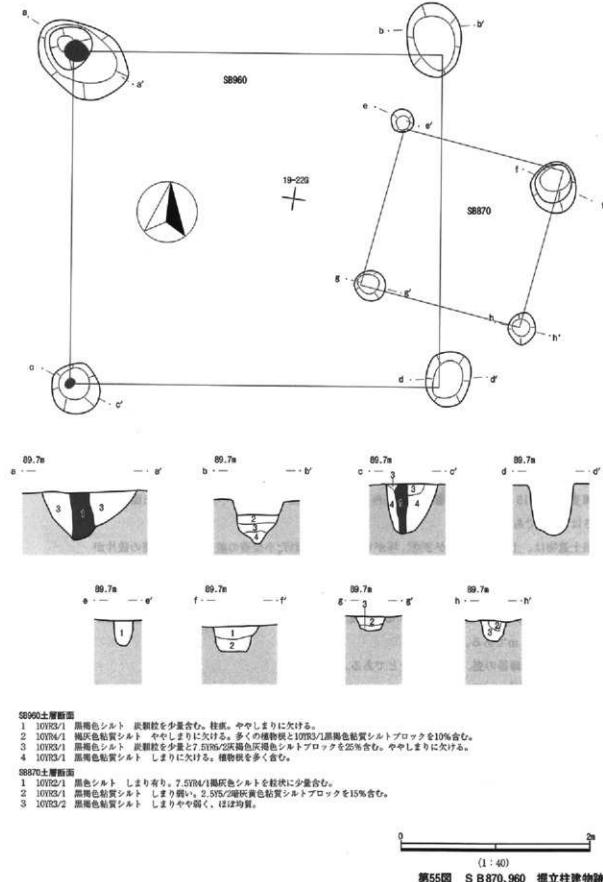
調査区B区21 - 26 Gに位置する。東西軸が長い2.1m × 1.1mのいびつな梢円形で、検出面からの深さは0.2mである。

出土遺物は土器器の高杯が目立ち、壺も出土している。縄文時代晩期の浅鉢片のほか、混入品と思われる、平安時代の須恵器壺片も出土した。遺構の時期はS T 750と同時期に捉えたい。

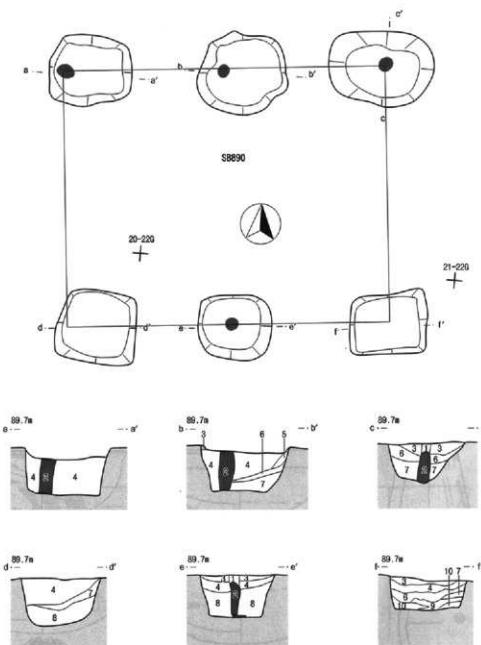
S K 872 土坑 (第60図)

調査区B区18 - 22, 23 Gに位置する。南北軸が長い2m × 2.9mのいたる梢円形で、検出面からの深さは0.3mである。

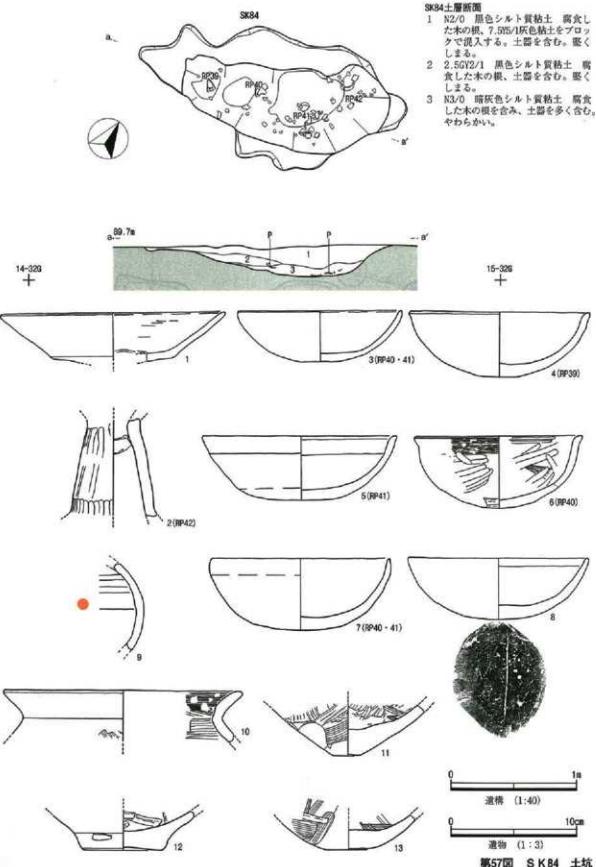
出土遺物は壺、壺類が目立つが、特筆すべきは石劍が出土したことである。淡緑色の綠色凝石



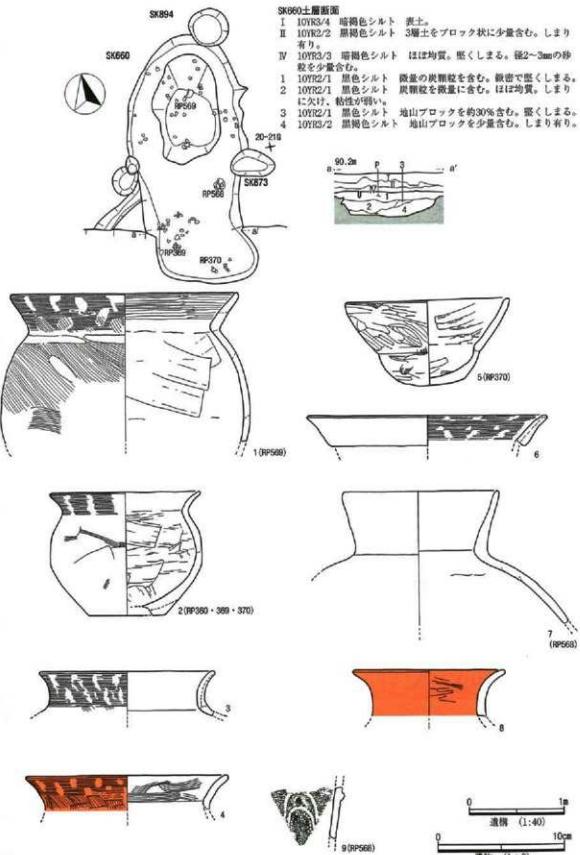
第55図 SB870.960 売立柱建物跡



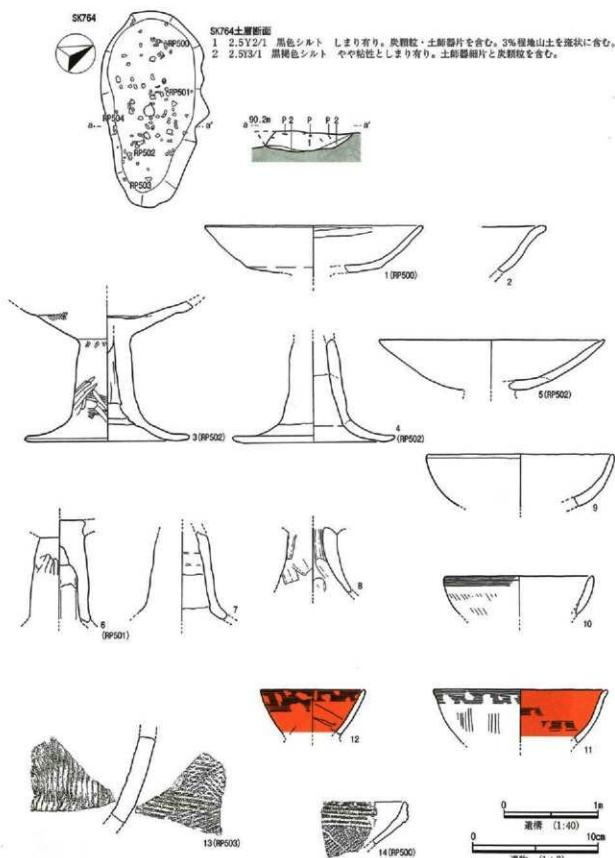
第56図 SB890 売立柱建物跡



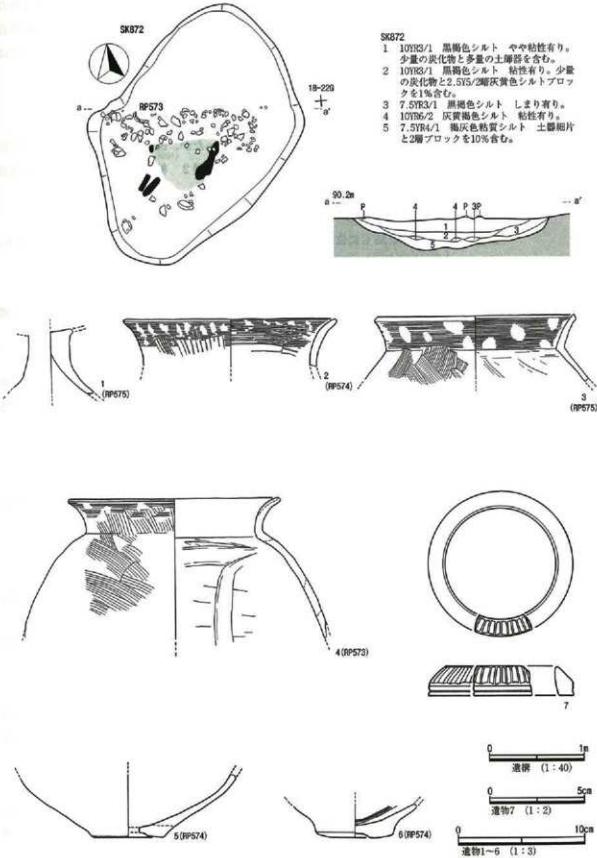
第57圖 SK84 土坑



第58回 S K 660 土坑



第59図 SK764 土坑



第60圖 SK872 土坑

石 鋸灰岩製である。破片はあるが、難定で直径11cmを計る。斜面に刻目が、側面には横方向の溝が刻まれている。斜面の刻目は、交互に尾根と谷を形成するように刻まれている。輪輪形石製品としては、宮城県名取市十三塚遺跡と福島県郡山市の大安場古墳に次ぐ、東北地方では3例目の出土である。また、焼土、炭化物も検出された。

5 その他の遺構

ここでは、特に遺構平面図や断面図を掲載はしなかったが、図化するに堪えられる遺物が出土した遺構の遺物を掲載した。遺構の平面形などは「付図2 板橋2遺跡遺構配置図」を参照してもらいたい。

SK 96 土坑（第61図1～3）

調査区B区14-34、35Gに位置する。南北軸が長い3.8m×1.4mの長椭円形の土坑である。出土遺物は古墳時代中期の高杯と壺である。

SK 218 土坑（第61図4、5）

調査区B区25-26、27Gに位置する。東西軸が長い1.4m×0.9mの卵形も土坑である。古墳時代中期の壺と壺が出土した。

SK 211 土坑（第61図6～9）

調査区C区14-48Gに位置する。東西軸が長い2.9m×2.1mの不定形の土坑である。平素書土器 安時代の遺構で、須恵器の付が4点出土した。うち二点の底部には「宜」と「笠」とと思われる墨書きが施されている。

SK 211と212は重複関係にあり、SK 212のほうが新しいと見られる。

SK 212 土坑（第61図10～14）

調査区C区13-14-48Gに位置する。南北軸が長い2.7m×2.2mの不定形の土坑である。平安時代の須恵器の壺と壺、土師器の壺が出土している。

SK 211と212は重複関係にあり、SK 212のほうが新しいと見られる。

SK 737 土坑（第62図1～5）

調査区B区21-28、29Gに位置する。南北軸が長い3.7m×0.9mの溝状の土坑である。小規模な落ち込みとみられ、高杯と壺、壺が出土している。

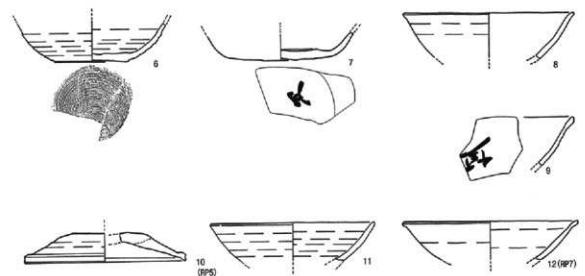
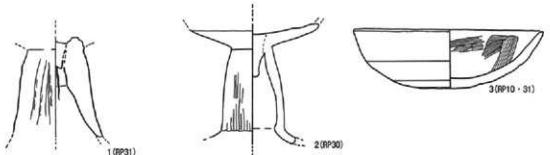
ST 750 穫穴住居跡と位置が近く、出土遺物も特徴が近似していることから、同時期のものと判断したい。

SD 888 溝跡（第62図6～18）

調査区B区12-18-23-26Gに位置する。南北方向に走る28m×0.9mの溝で、SD 765と重複した地点で消滅している。SD 765に合流していた可能性が高い。高杯、壺、壺が出土している。古墳時代中期のものと推測される。

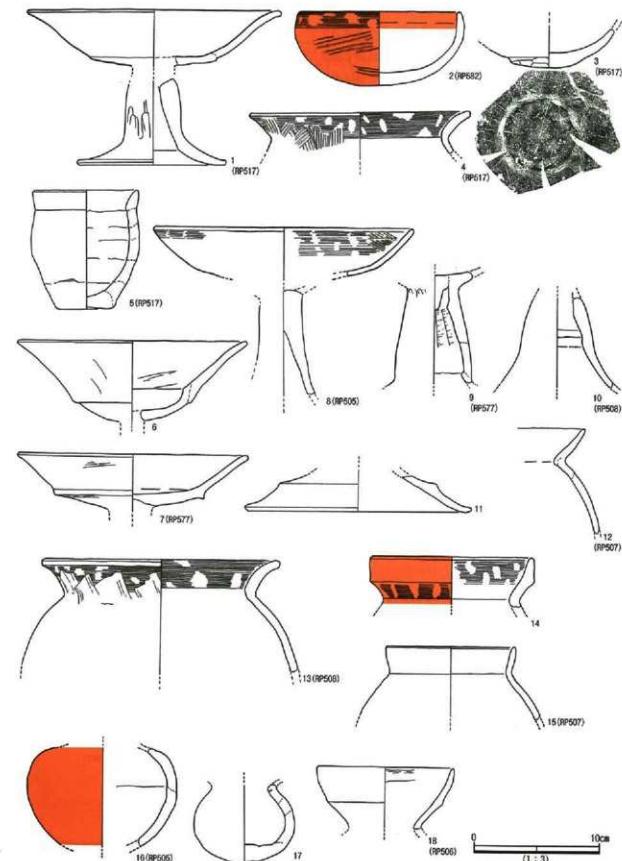
SD 28 溝跡（第63図）

調査区B区12-26-30-32Gに位置する。東西方向に走る61.5m×1.5mの溝である。調査区を横断しているため、正確な長さは不明である。高杯、壺、壺のほか绳文時代中期と晚期と思われる深鉢が出土しているが、遺構の年代は古墳時代中期と思われる。

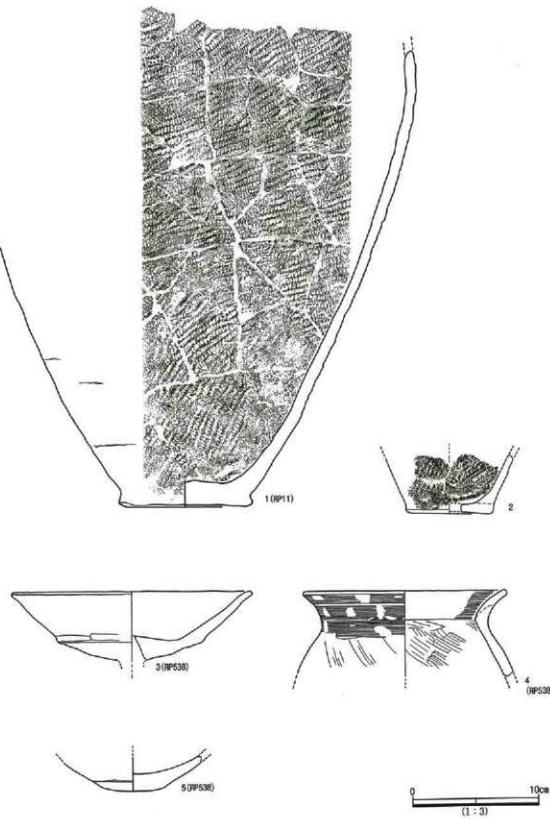


0
10cm
(1:3)

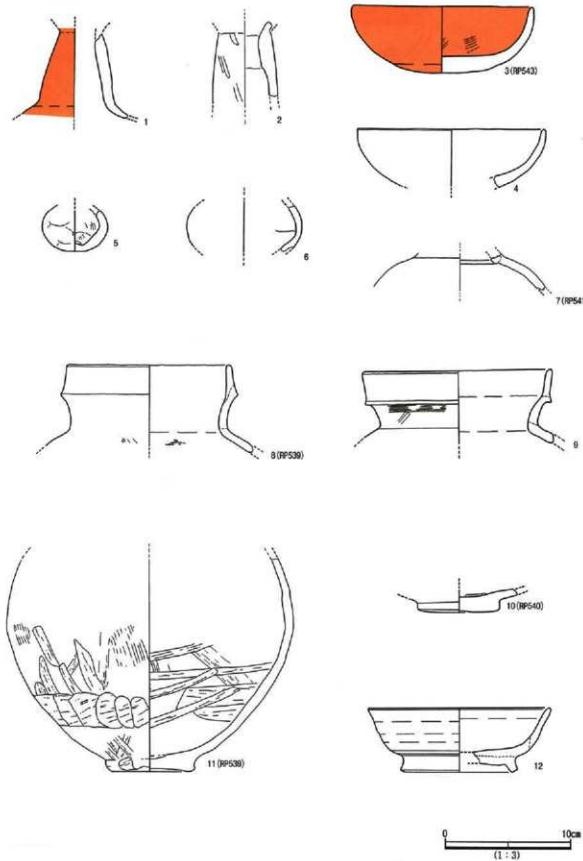
第61図 遺物実測図 SK 96, 218, 211, 212 土坑



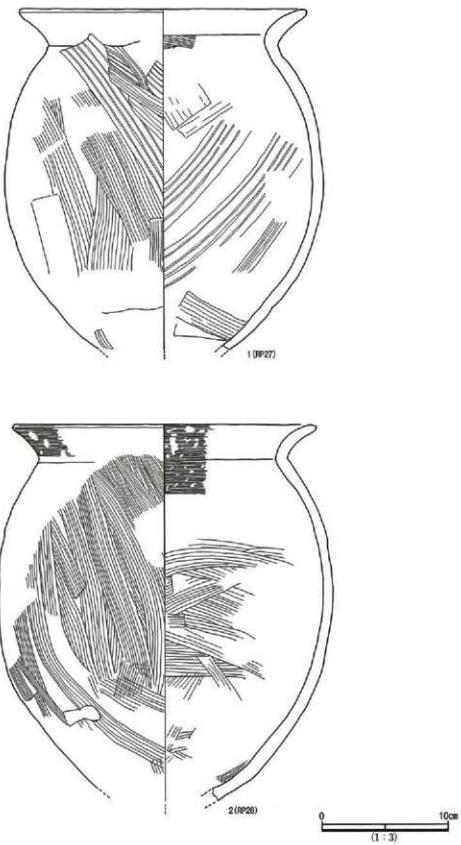
第62図 遺物実測図 S K737 土坑、S D888 溝跡



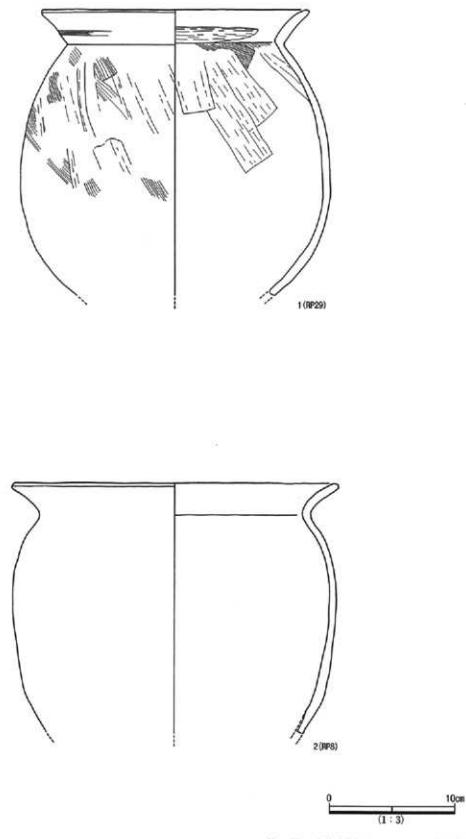
第63図 遺物実測図 S D28 溝跡



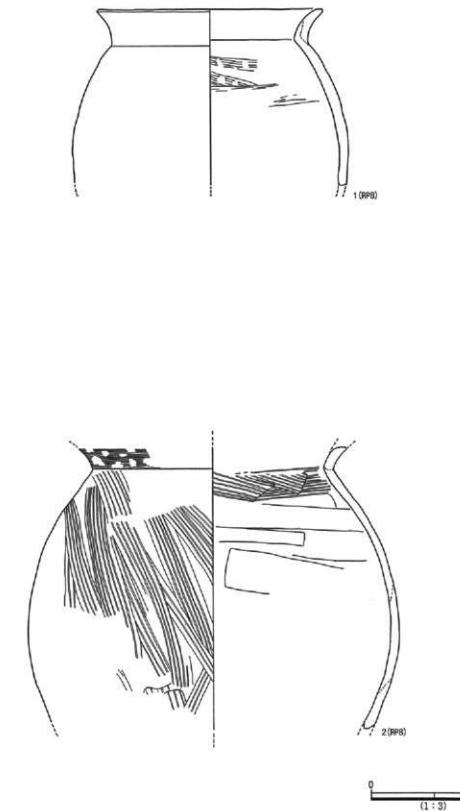
第64図 遺物実測図 S D 40 溝跡



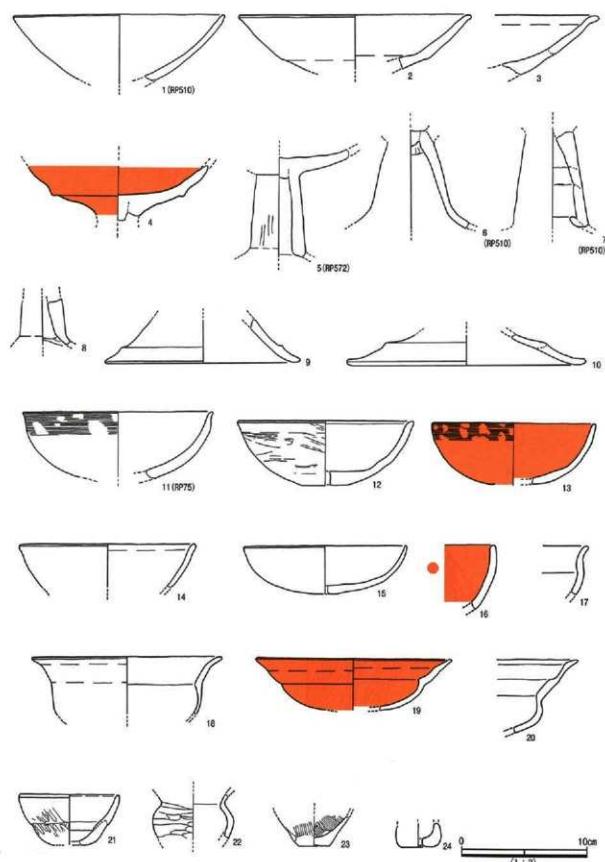
第65図 遺物実測図 S D 106 溝跡(1)



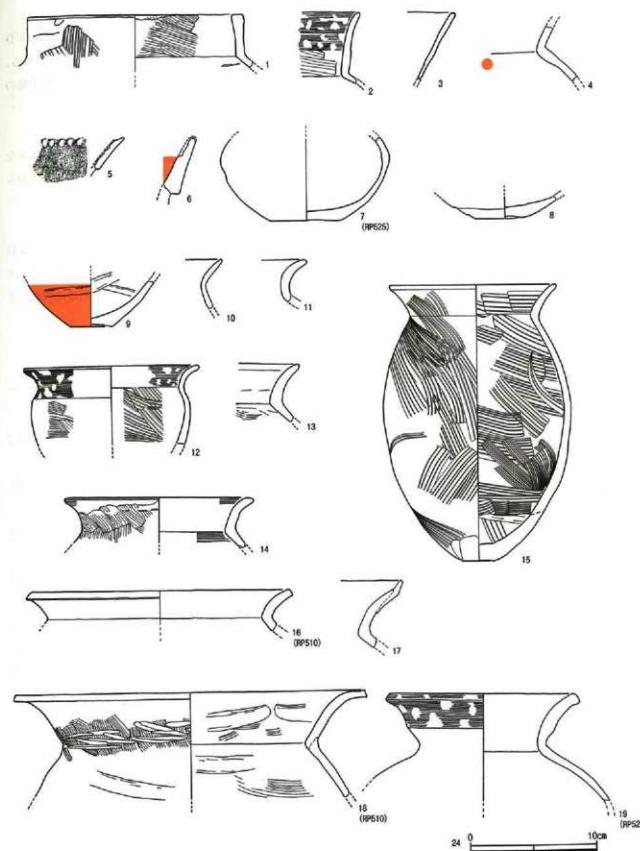
第66図 遺物実測図 SD106 溝跡(2)



第67図 遺物実測図 SD106 溝跡(3)



第68図 遺物実測図 SD765 溝跡(1)



第69図 遺物実測図 SD765 溝跡(2)

SD 40溝跡（第64図）

調査区A区13～26～34～41Gに位置する。東西方向に走る68m×1.5mの溝で、SD 700と西側で重複する。また、調査区を斜めに横断しているため、正確な長さは不明である。高杯の脚部、坏、小型壺、壺のはか平安時代の高台坏も出土している。遺構は古墳時代中期のものと推測される。

SD 106溝跡（第65～67図）

調査区B区15、16～34Gに位置する。東西に走る2.4m×0.8mの溝である。未調査区を挟んだ東側では縫きが検出されず、極めて短い溝と思われる。古墳時代中期と思われる壺が6点出土している。

SG 765溝跡（第68、69図）

調査区B区1～25～22～25Gに位置する。東西方向に走る47m×1.2mの溝で、SD 888が合流すると見られる。また、調査区を横断しているため、正確な長さは不明である。古墳時代中期の高杯、坏、鉢、壺、甕が出土している。SD 888とは重複関係が明確に判断できず、堆積土もほぼ同じであったため、同時期に存在した可能性が高い。

6 河川跡

今回の調査で調査区の南側に河川跡が検出された。

SG 325河川跡（第70、71図）

調査区A区南端に位置する。東から西へ流れていたと推定される。幅は約12m、深さは約1.7mを測る。

河川跡は一部、昭和40年代に行なわれた農業用の導水路工事で一部攪乱を受けていたが、遺存状況は良好であった。

土層の堆積状況を観察すると、上層は腐植土で、下層に移るにつれ分解が進んだ腐植土に地山の砂が混入した砂質シルトになる。

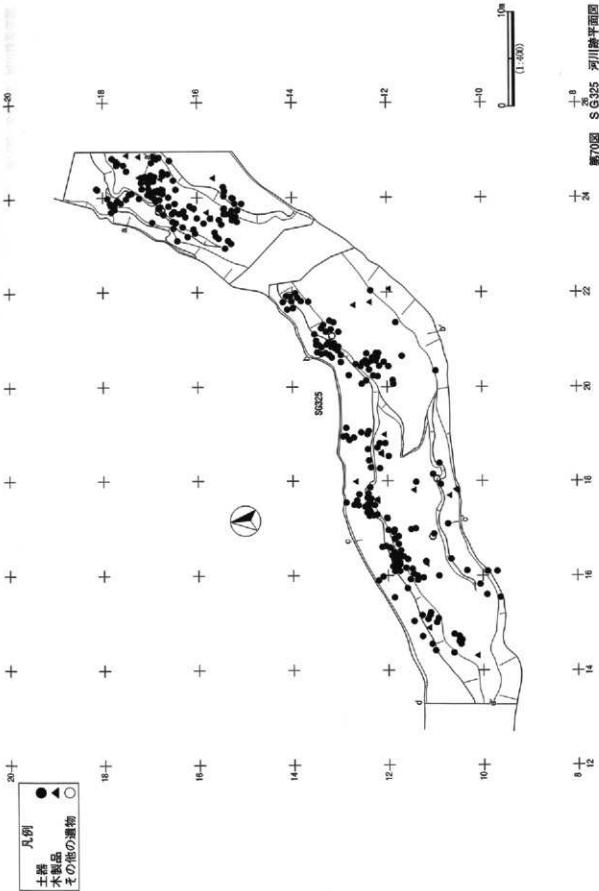
花粉分析 また、土層からはサンプルを採取して、含まれる花粉から植生を分析するために理化学分析の業務委託を実施した。その結果については巻末の付録に掲載した。

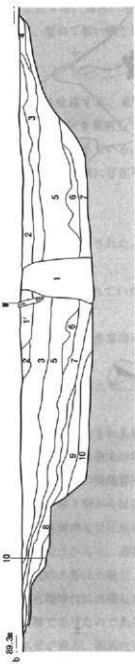
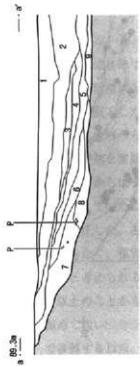
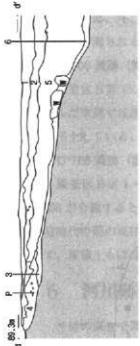
最上層からは平安時代の須恵器坏や中世の陶磁器片が出土していることから、平安時代には湿地化していたことがうかがわれる。最下層からは古墳時代の土師器や木製品が良好な遺存状況で出土した。古墳時代の遺物は集落廃の北岸に集中して分布している。土師器の割れ口が消耗が少なく、復元率も高かったことなどからも、遺物は北岸の集落から投棄または廃棄されたものと考えられる。繩文、弥生時代の土器は少数で、復元率は極めて低かった。

以上のことから、この河川跡は古墳時代に出現したものと推測される。北岸にあった集落と極めて深いつながりを持った河川跡であったのであろう。集落廃絶後、古墳時代の遺物が水流で移動する以前、急速に河川の水量が増え、湿地化し、平安時代にはほぼ低湿地となっていたと思われる。

出土遺物（第72～110図）

SG 325河川跡から出土した土器の種類は繩文土器、弥生時代、古墳時代の土師器、平安時代の須恵器、中世の陶磁器である。出土量は古墳時代の土師器が圧倒的に多い。





SQ305 河川断面図
第7回

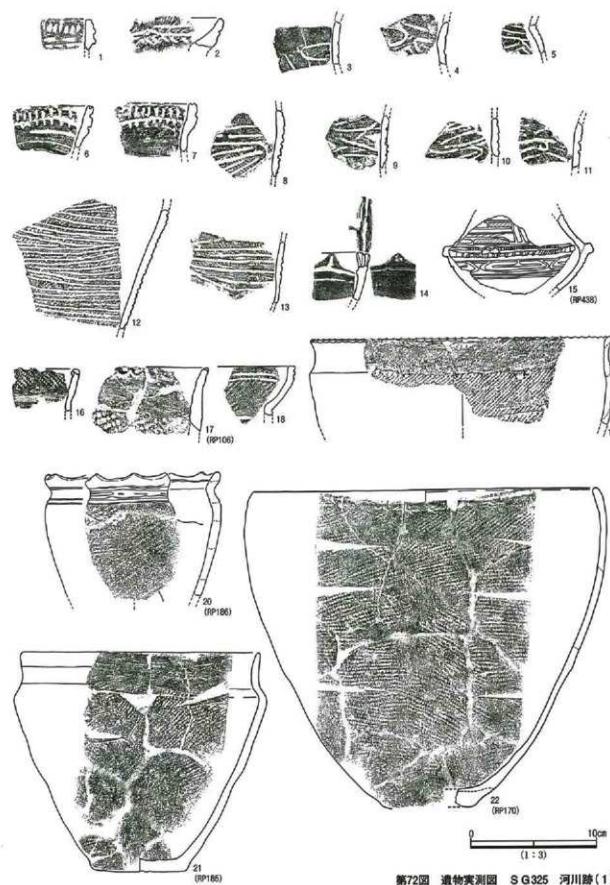
SQ305 土層断面

- a'g'
 1. 107R2/3 黒褐色シルト 厚植。粘性弱い。
 2. 107R2/1 黒褐色シルト 厚植。粘性有り。少量の炭化物を含む。
 3. 107R2/2 黒褐色粘質シルト 厚植。少々灰化土。粘性有り。107R4/2R貨物色シルトを約20%混状に含む。
 4. 107R1/1 黒褐色シルト 厚植を大量に含む。粘性無し。
 5. 107R2/1 黒色原植土 粘性無し。
 6. 7.5T2/1 黒色シルト 厚植を大量に含む。粘性有り。
 7. 7.5T2/1 黒色粘質シルト 少量の砂と炭化物を含む。厚植を多く含む。粘性有り。土器部を大量に含む。
 8. 107R3/3 黒褐色粘質土 砂を含む非常に多い。遺物は殆ど含まれない。
 9. 7.5T2/1 黒色粘質土 砂を含み非常に多い。遺物が無い。

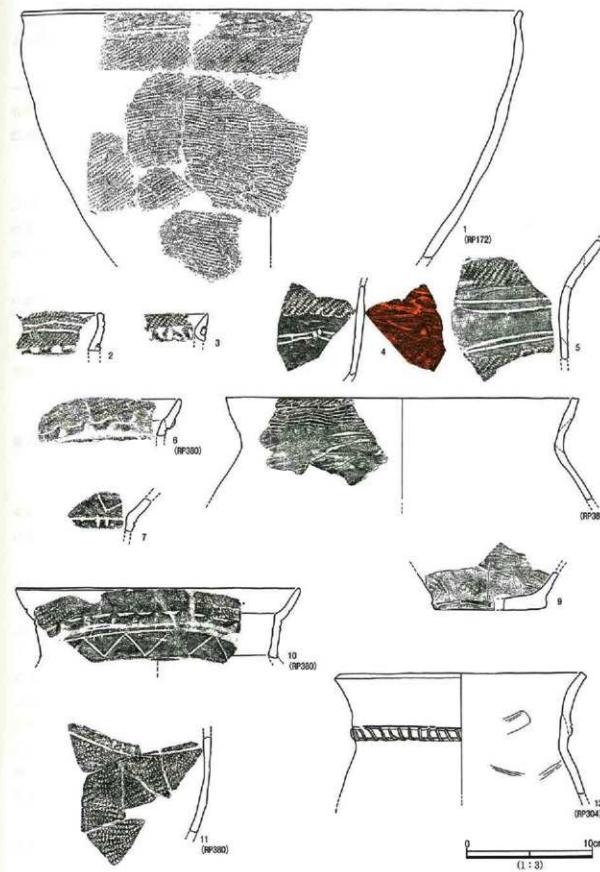
- b'g'
 1. 深植。
 2. 深植。
 3. 2.5T2/1 黒色粘質シルト しまり無し。厚植土。
 4. 2.5T2/1 黑褐色粘質シルト しまり無し。厚植土。植物纖維を大量に含む。
 5. 2.5T2/1 黑褐色粘質シルト しまり無し。厚植土。植物は纖維を含む。植物を多く含む。
 6. 107R1.7/1 黑褐色粘質シルト しまり無し。厚植土。植物は纖維を大量に含む。植物を微量含む。粘性強。
 7. 黑褐色粘質シルト しまり無し。厚植土。植物纖維を大量に含む。植物を微量含む。粘性強。
 8. 7.5T2/1 黑褐色粘質シルト しまり無し。厚植土。植物は纖維を含む。植物を微量含む。粘性強。
 9. 7.5T2/1 オリーブ色粘質粘土 厚植。植物、瓦片、砂を含む。
 10. 5T2/2 オリーブ色粘質シルト 厚植。植物、瓦片を含む。

- c'c'
 1. 107R2/2 黑褐色シルト 植物纖維を含む。厚植土。しまり無し。
 2. 107R2/1 黑褐色粘質シルト 厚植土。しまり無し。
 3. 107R2/1 黑褐色粘質シルト 2層土より厚植の割合が多い。しまり無し。
 4. 3T2/2 黑褐色粘質シルト 厚植土。3層土より厚植の割合が少ない。しまり無し。
 5. 3T2/1 黑褐色粘質シルト 厚植土。4層土より厚植の割合が少ない。しまり有り。
 6. 3T2/1 黑褐色粘質シルト 厚植土。5層土より厚植の割合多い。ややしまってている。
 7. 107R2/1 黑褐色粘質シルト 厚植土。厚植は5層。しまり有り。107R4/1海灰色シルト粘質土を底状に含む。
 8. 107R2/1 黑褐色粘質シルト 厚植多め。粘性強い。
 9. 7.5T1.7/1 黑褐色粘質シルト 砂沢。少量の植物を含む。
 10. 2.5T2/1 黑褐色粘質シルト 厚植と少量の砂を含む。7.5T1.7/1黒色粘質シルトを底状に含む。
 11. 107T3/2 オリーブ色粘質粘土 厚植。炭化物を少量混入。
 12. 7.5T1.7/1 黑褐色粘質土 砂沢含む。厚植を多少混入。

- d'g'
 1. 107R2/2 黑色シルト 厚植と植物を少量含む。植物が少量残存。1cm未満ほどの小粒を微量に含む。
 2. 7.5T2/2 黑褐色粘質シルト 植物を少量含む。1cm未満ほどの小粒を少量含む。粒が細かく粘性に欠ける。
 3. 7.5T2/1 黑褐色粘質シルト 厚植を含む。1cm未満ほどの小粒を含む。粒が細かく粘性に欠ける。
 4. 107R4/1 深植シルト 粘質土を大量に含む。炭化物を少量混じり。粒が細かい。粘性弱い。
 5. 107R3/2 黑褐色粘質シルト 厚植を大量に含む。粒が細かく粘性弱い。
 6. 2.5T4/1 黄灰赤粘質土 厚植と炭化物を少量含む。粒粗い。粘性強い。



第72図 遺物実測図 S G325 河川跡(1)



第73図 遺物実測図 S G325 河川跡(2)

縄文時代の遺物（第72図、第73図1）

縄文時代の遺物は土器のみが出土した。殆どの遺物が断片であり、個体の全体像を推測するには無理があるが、ほぼ全ての出土遺物を掲載した。

第72図1、2は中期の深鉢である。第72図3～5は後期の壺の部である。第72図6～22、第73図1は晩期の土器であり、中葉のものと後葉のものが見られる。晩期の土器は依存状態が良好であったもののが多かった。第72図8～11は同一個体である可能性が高い。第72図12、13も同一個体であると思われる。

弥生時代の遺物（第73図2～12）

弥生時代後期

弥生時代の土器も出土している。点数も少なく、依存度も悪く、全体像がわかる遺物はない。これも全出土遺物を掲載した。4と5、6と10、7と11、8と9は同一個体とみられる。その多くが後期のものと思われる。4は内部に赤彩が残存していたが、外側にも赤彩が施されていた可能性が高い。

12は時代不詳で、頗るも無かったため、判然とはしなかったが、胎土や焼成が極めて他の弥生時代の土器に近いため、弥生時代の範疇に収まる可能性が一番高いと判断した。

古墳時代の遺物（第74～109図）

S G 325 河川跡からは土器と木製品が多数出土した。その殆どは古墳時代のもので、それ以前のものは周囲からの流れ込みと思われる。

土器類

器種は高杯、壺、器台、鉢、甕、壺が見受けられる。河川跡出土遺物は量が多いため、本報告書では残存度が高い遺物と特徴のある遺物を図化した。

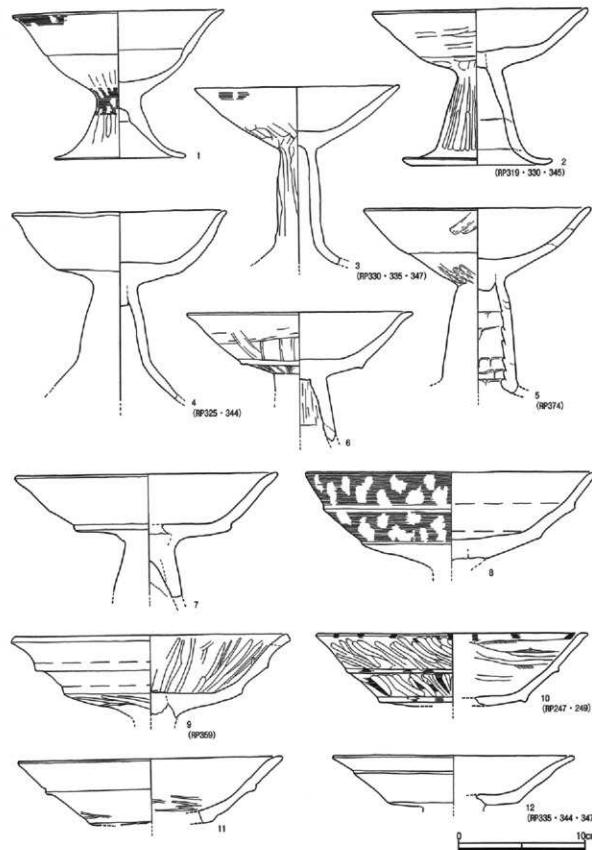
高杯

高杯は73点図化した。河川跡という性格が災いしてか、壺部から脚部まで完形の遺物は少なく、多くは壺部だけか脚部だけの出土状況だった。そのため、今回は敢えて分類はおこなわず、特徴を簡略に記述するのみに留めた。

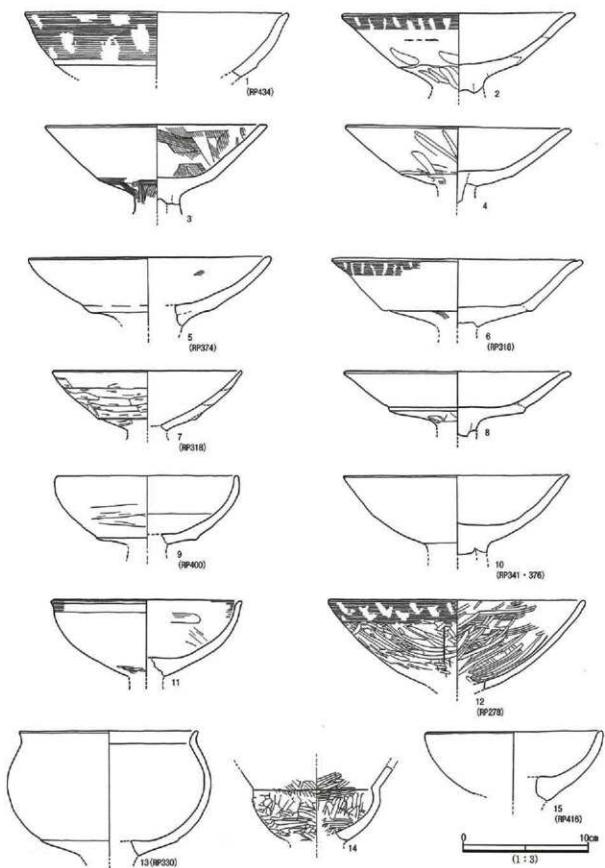
第74図8～12は2段の後を持つ。第74図4、6、7、第75図2～8は下部に1段の後を持つ。第75図9は下部に1段の後を持ちながら、口縁が内彎する。第74図1、5は中部に後を持つ。第74図3、第75図10、12、15は壺部に後を持つない。第75図11、13は壺部が鉢状のもの。第75図14は壺部が小型丸底壺状のもの。

脚部も、細かいバリエーションはあるが大別すると以下のような特徴を観察できた。第76図1～6は壺部から直接八の字状に広く広がる。第76図7～9は太くて短い柱状部を持つ、八の字状に広く広がる。第76図12～16は長い中実の柱状部を持つ。第76図17～20は中空の柱状部を持つ、赤彩した割合が非常に高かった。第74図1、2、4、第76図24、25、26、第78図1～6は柱状部と裾部の境があいまいで大きくラッパ状に広がる。第74図5、第77図1～11は中空の柱状部と裾部を持つ脚部である。第77図12は中空の柱状部を持つながら柱状部と裾部の境に後を有する脚部である。

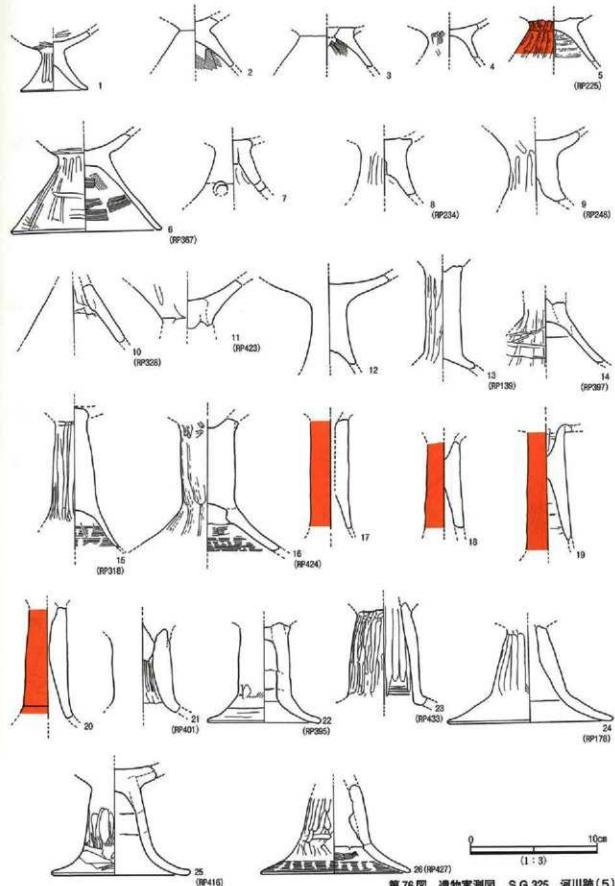
また、中空脚の内面を観察すると、裾部は調整するものの柱状部は無調整のもの、柱状部もある程度調整するもの、柱状部もきちんと調整するものなどのバリエーションが観察できた。



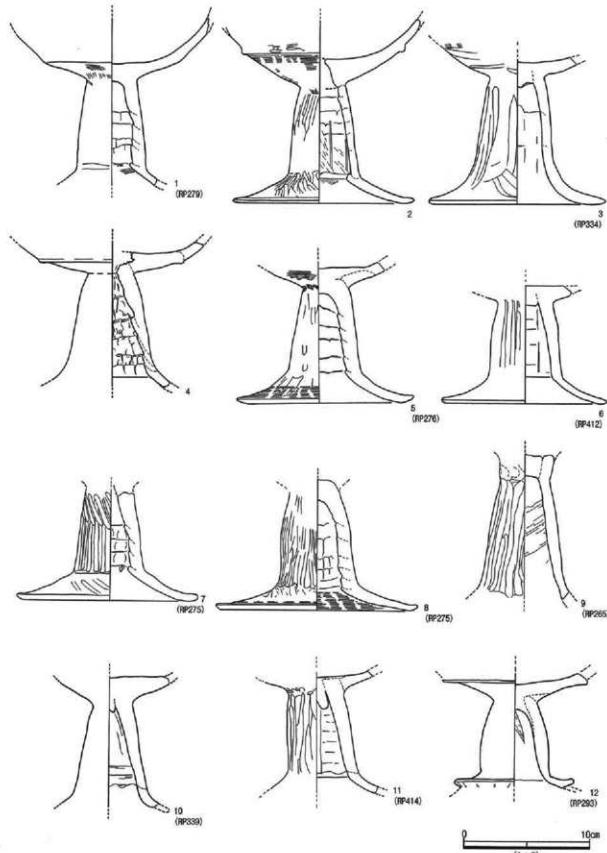
第74図 遺物実測図 SG 325 河川跡(3)



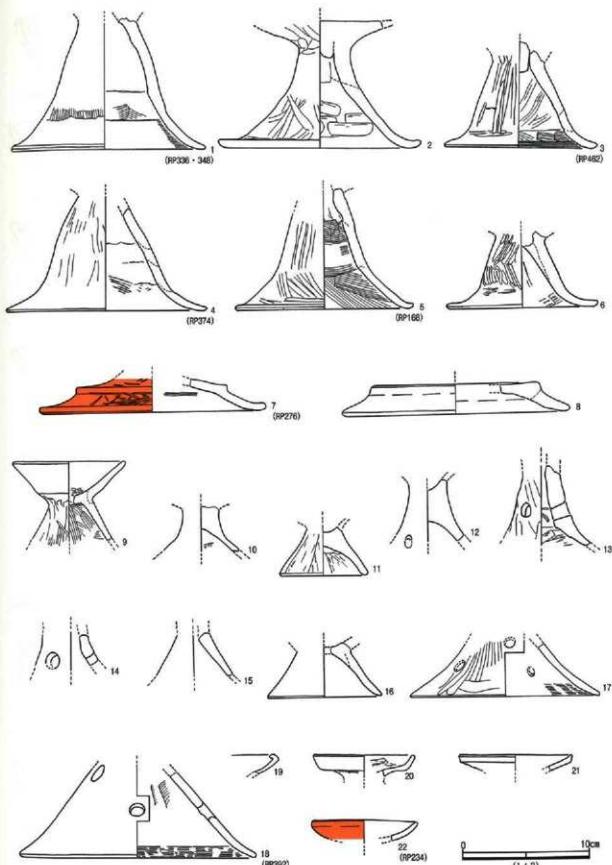
第75図 遺物実測図 SG 325 河川跡(4)



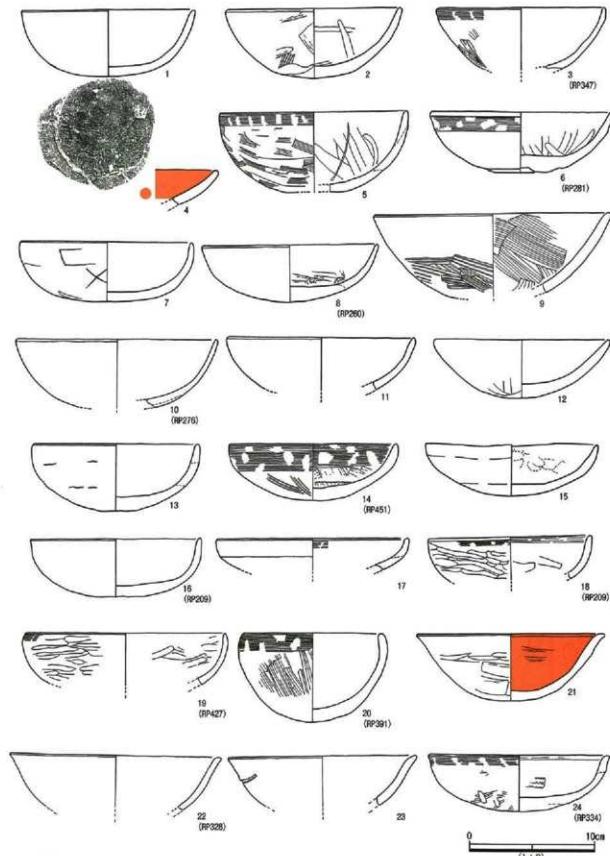
第76図 遺物実測図 SG 325 河川跡(5)



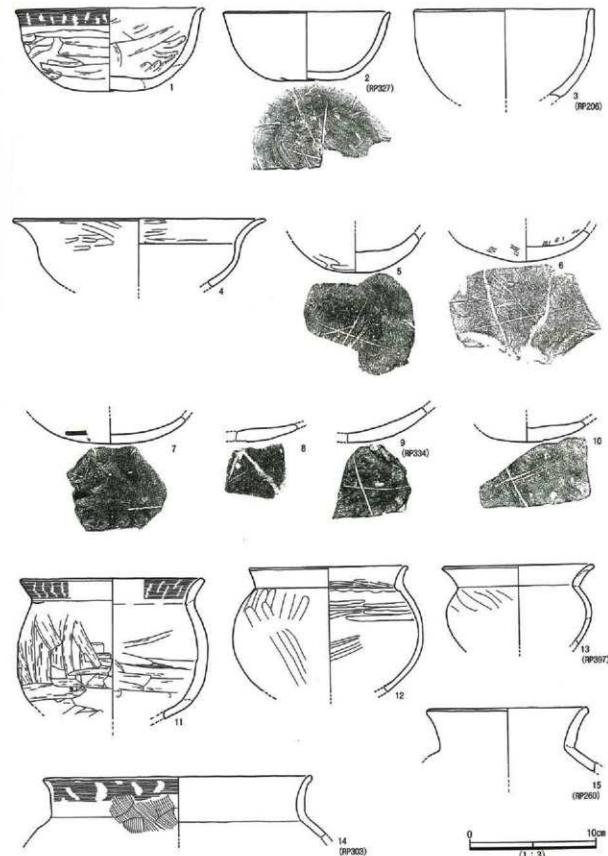
第77図 遺物実測図 SG 325 河川跡(6)



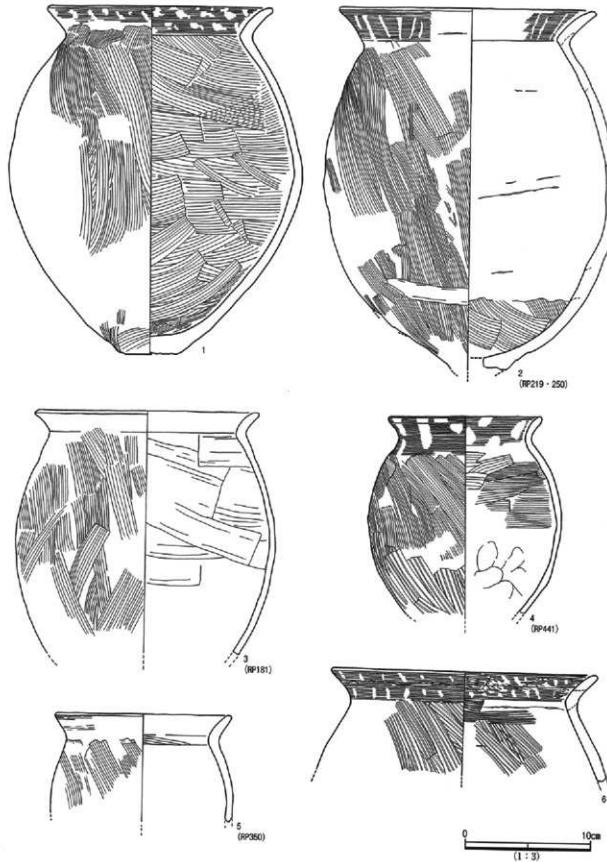
第78図 遺物実測図 SG 325 河川跡(7)



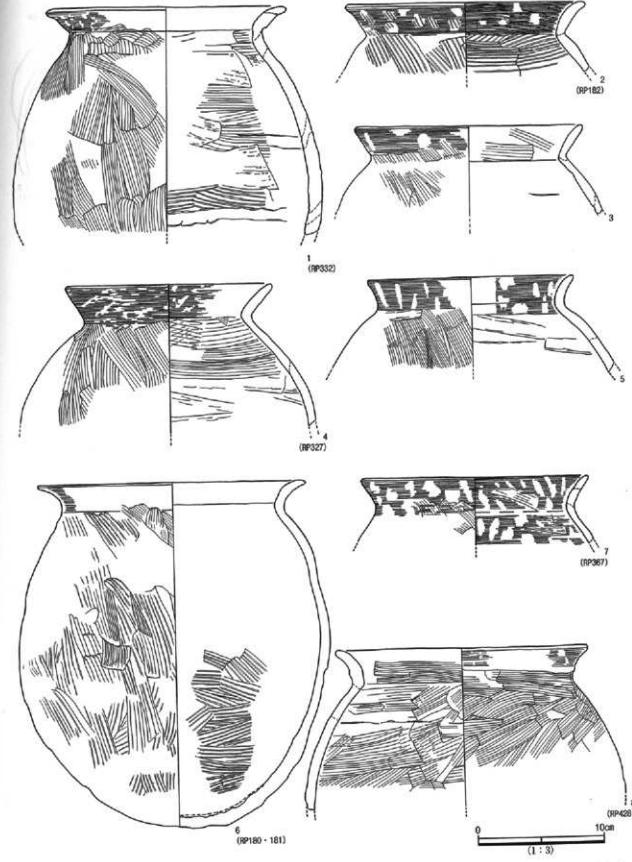
第79図 遺物実測図 S G 325 河川跡(8)



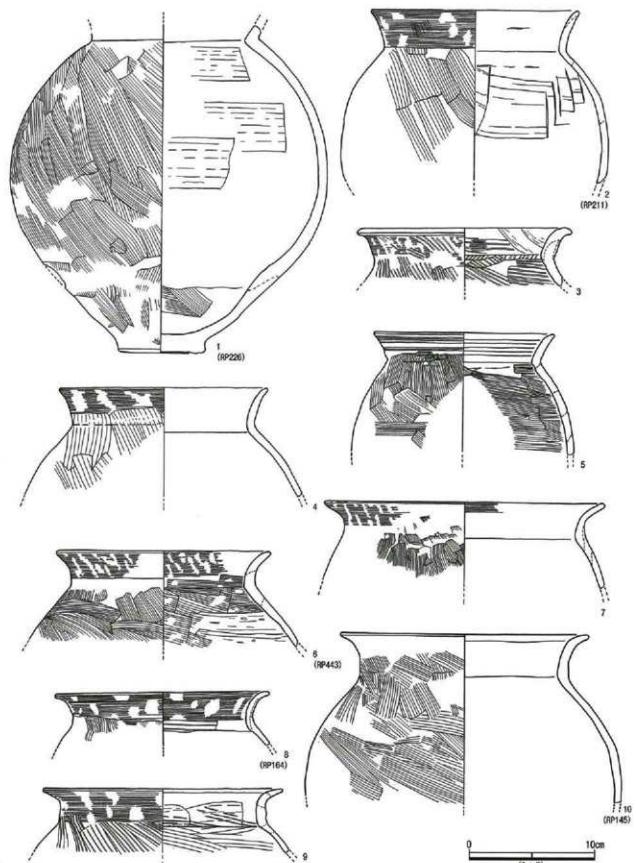
第80図 遺物実測図 S G 325 河川跡(9)



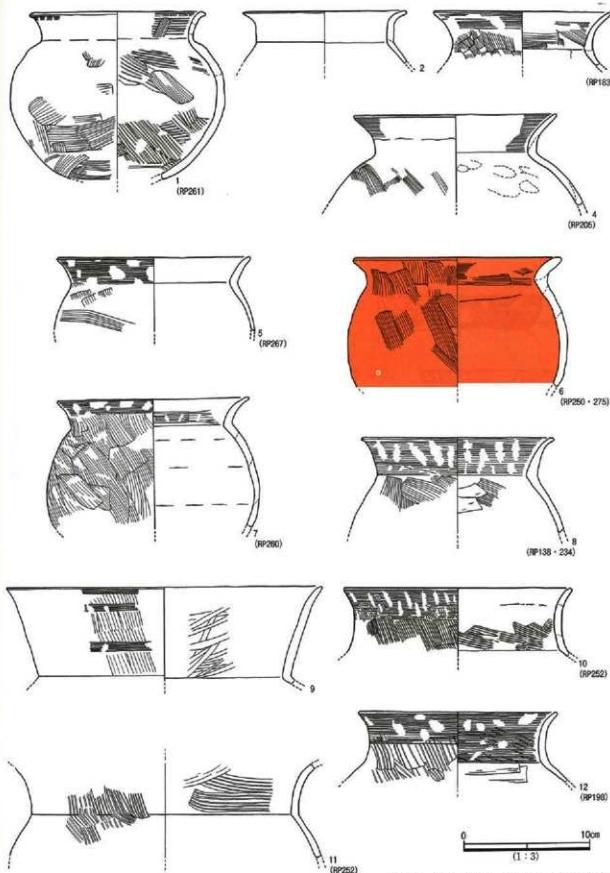
第81図 遺物実測図 S G325 河川跡(10)



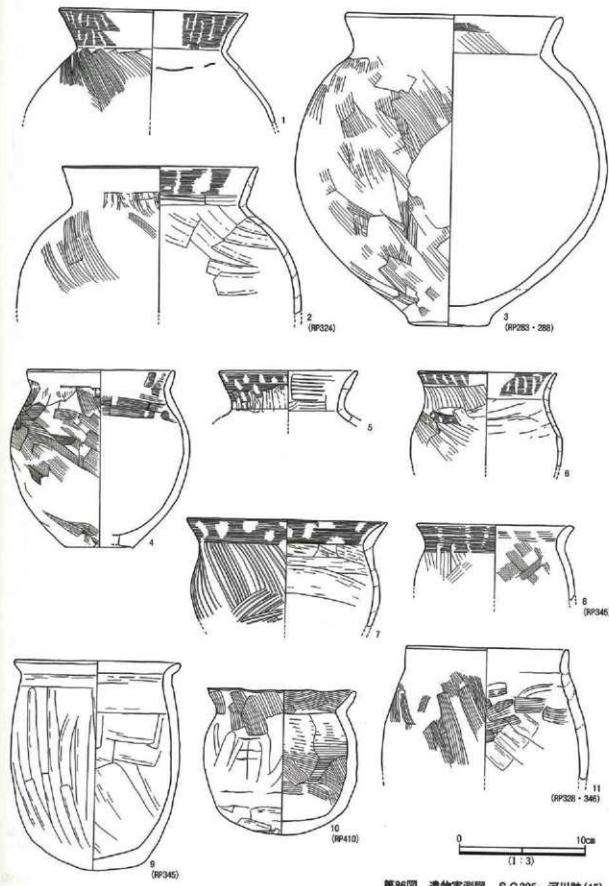
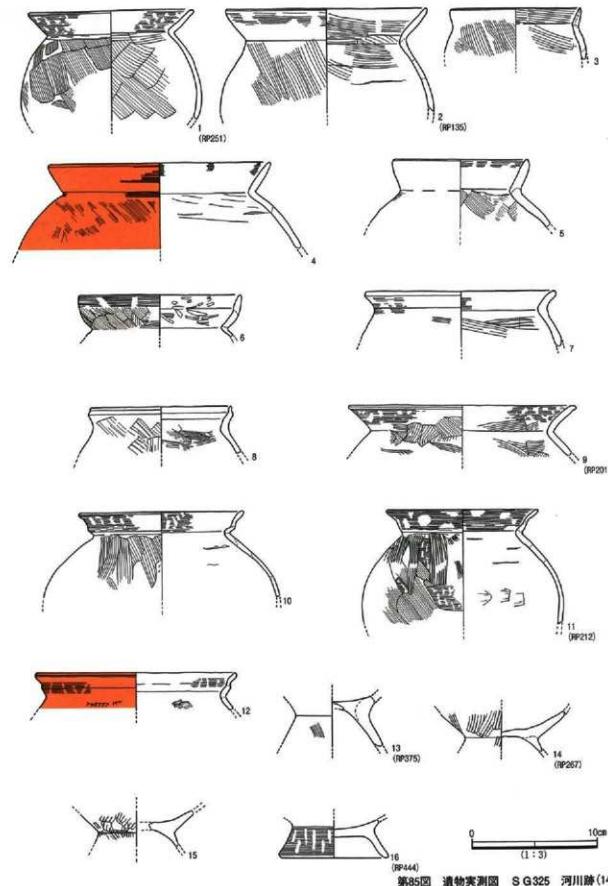
第82図 遺物実測図 S G325 河川跡(11)

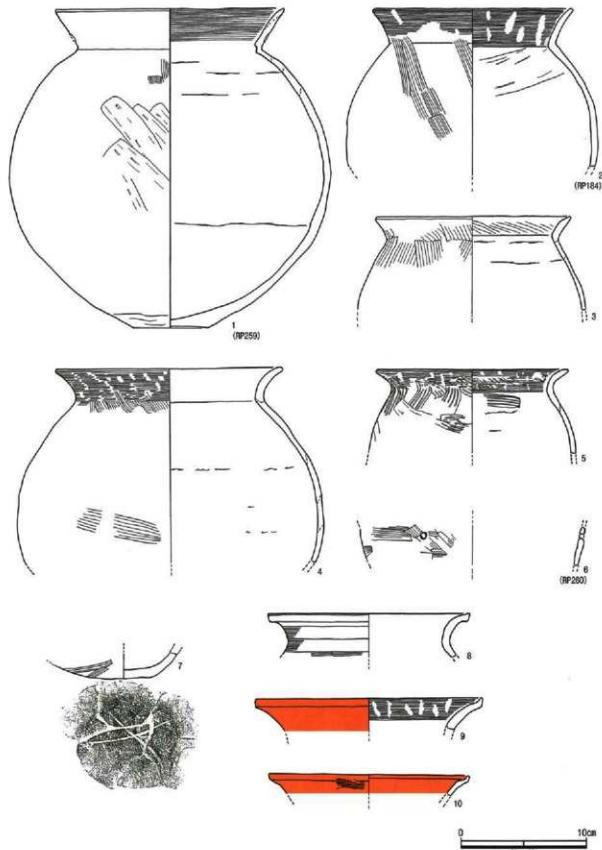


第83図 遺物実測図 S G 325 河川跡(12)



第84図 遺物実測図 S G 325 河川跡(13)





第87図 遺物実測図 S G325 河川跡(16)

器台

器台も完形のものではなく、出土点数14点すべてを図化した。第78図9、15、16のように腹部と受部の間に穴が開いているタイプ。第78図10～12のように腹部と脚部に穴が開いていないもの。第78図17、18のようにやや大型の裾部に2段に透かしがあるものもある。受部にも第78図19、20、21、22のように内側に折れるもの、直立するもの、素直に立ち上がるものが見られる。

坏

坏類も多数出土した。本報告書では完形に近いもの、底部に線割がなされているものを中心にして34点を図化した。深さもあり、本来なら横とするべきであろう遺物も便宜上坏類に含めた。

第79図1、2、5～8のように口縁部が直立し、底部が広いもの。第79図9～12のように口縁部は直立するものの、底部が狭いもの。第79図13～19のように口縁部が直立、または内壁気味に立ち上がるが深さが浅いもの。第79図20のように口縁部が直立、または内壁気味に立ち上がり、深さが深いもの。第79図21～24、第80図1、2のように口縁部が外反しているもの。と分類可能だ。

壺

壺類はかなり大量に出土したが、完形品は少なく、本報告書では器種の特徴を捉えやすい口縁部がしっかり復元できたものを優先して掲載した。

第80図11～13のように器高が低く短胴で、口縁が広く「く」の字状に外反している。第80図14、15のように口縁部は直立気味に立ち上がるが、端部は外反しているもの。第81図1～6、第82図1～8のように長胴で、口縁が広く「く」の字状に外反している。

第83図2～10、第84図1～12はさらに細分可能だが、大まかにいうと口縁部が直立して立ち上がったあとに途中から屈折して外反しているものである。

第85図1～5は口縁部が内壁気味のものである。

第85図8は口縁部が内崩し、さらに段を有しているものである。

第85図7、9は「く」の字状に外反しているもののバリエーションで、口縁部が面取りして角ばらせているものである。

第85図10～12は口縁部が途中で膨らみ、「S」字状口縁甕から影響を強く受けたとみられるものである。

第85図13～16は台付甕底部で、10～12類の底部の可能性が高いが、同一個体と認識できるものは無い。

第86図1～4は口縁が体部から直立しているものである。

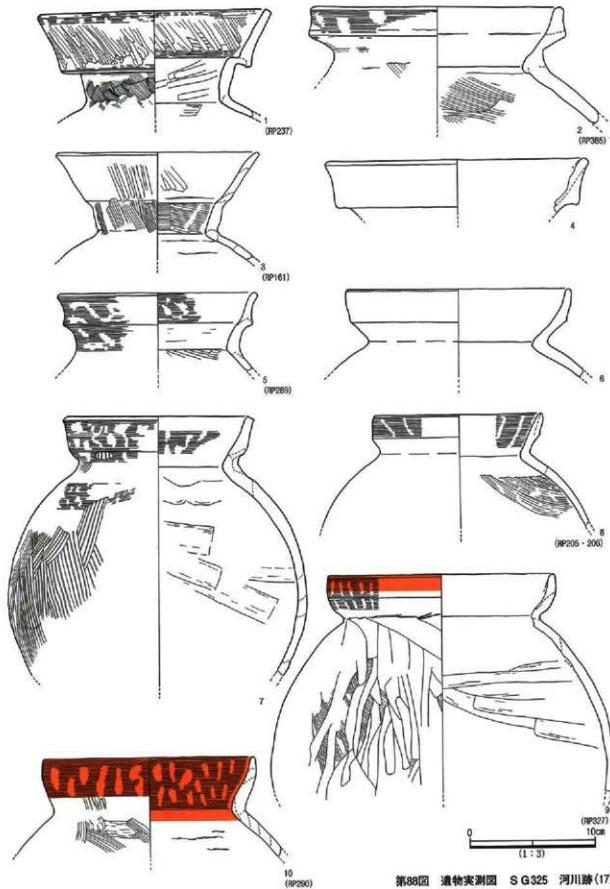
第86図5は口縁部が体部から直立しているが、途中でふくらみを持つものである。

第86図6～11は口径が大きく、口縁部は体部から直立するタイプである。粗製で、口縁部が堅いものが多い。

第87図1～5は口縁部がやや外反気味に開くもので、体部が他のタイプと比較すると薄い傾向にある。

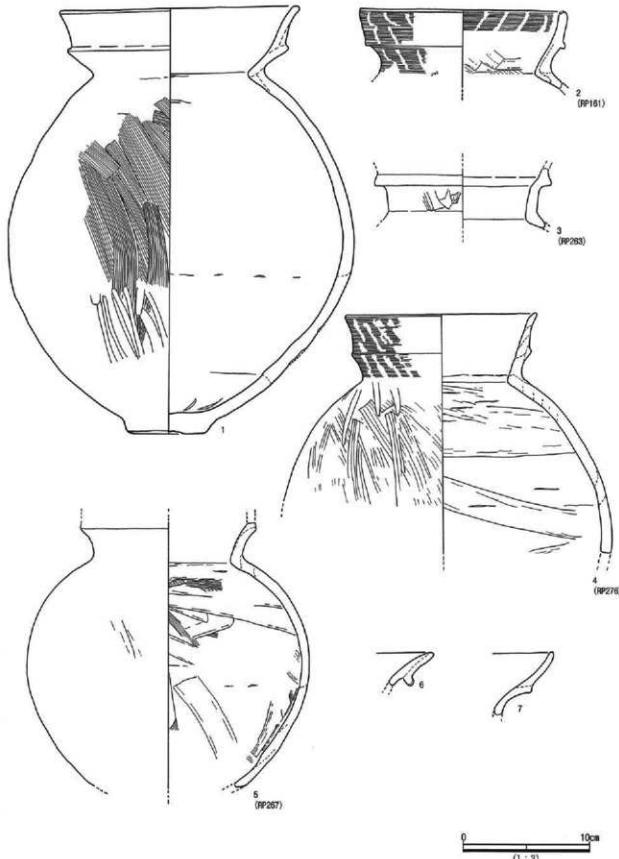
第87図8～10は口縁部が大きくラバ状に開き、先端部を上へ摘み上げるように成形した受け口状口縁タイプである。

V 板橋 2 進跡

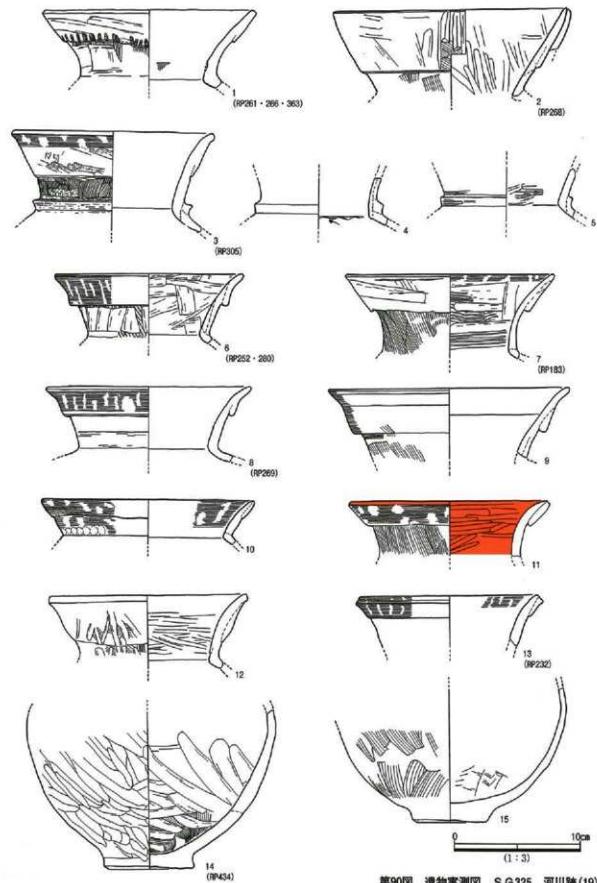


第88図 遺物実測図 S G325 河川跡(17)

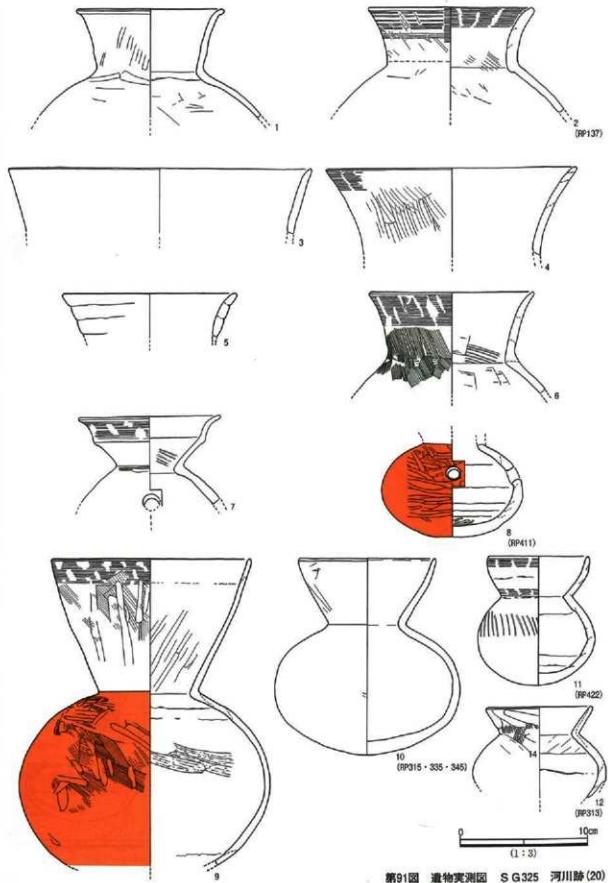
V 板橋 2 進跡



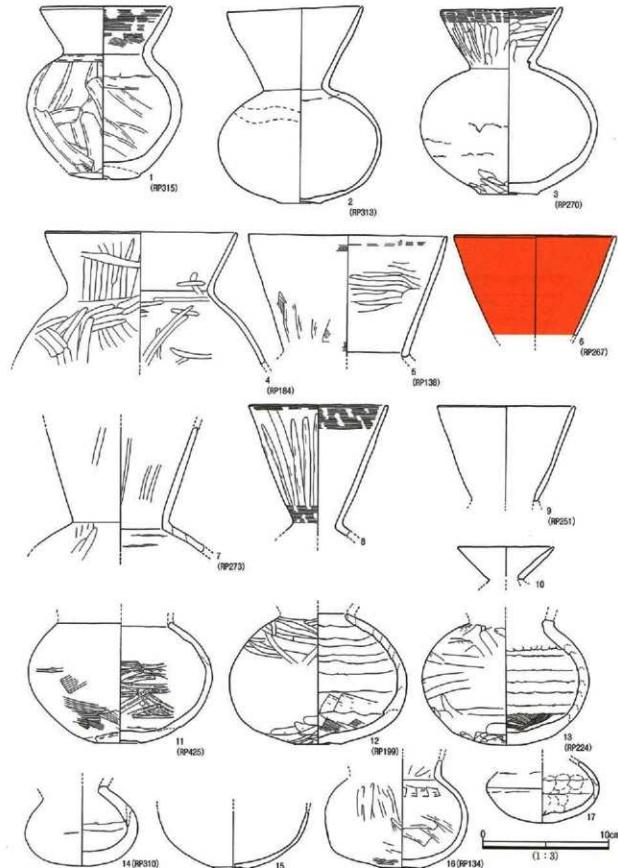
第89図 遺物実測図 S G325 河川跡(18)



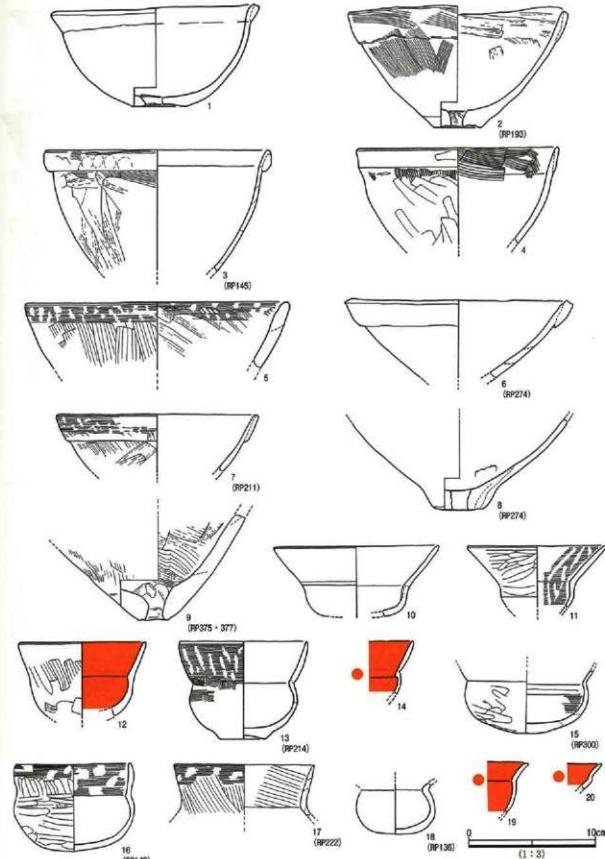
第90図 遺物実測図 S G325 河川跡(19)



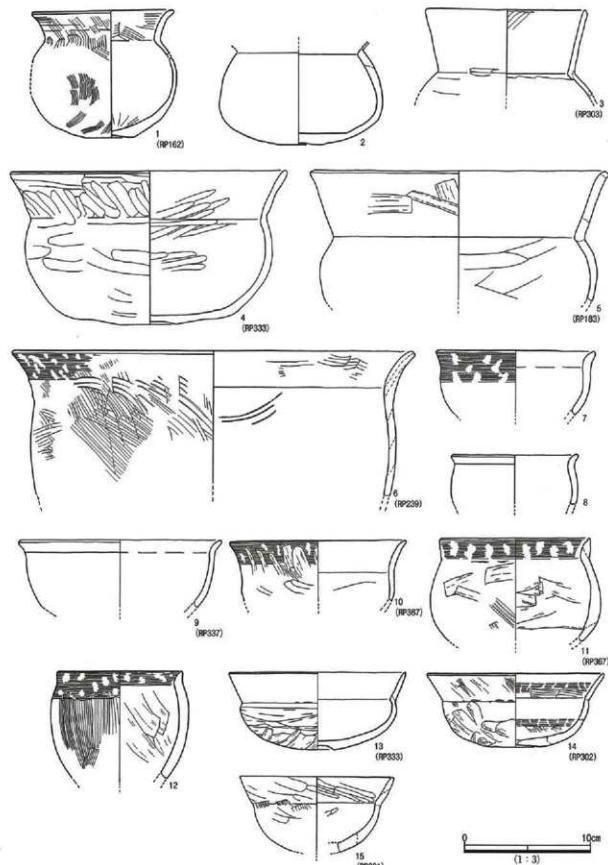
第91図 遺物実測図 S G325 河川跡(20)



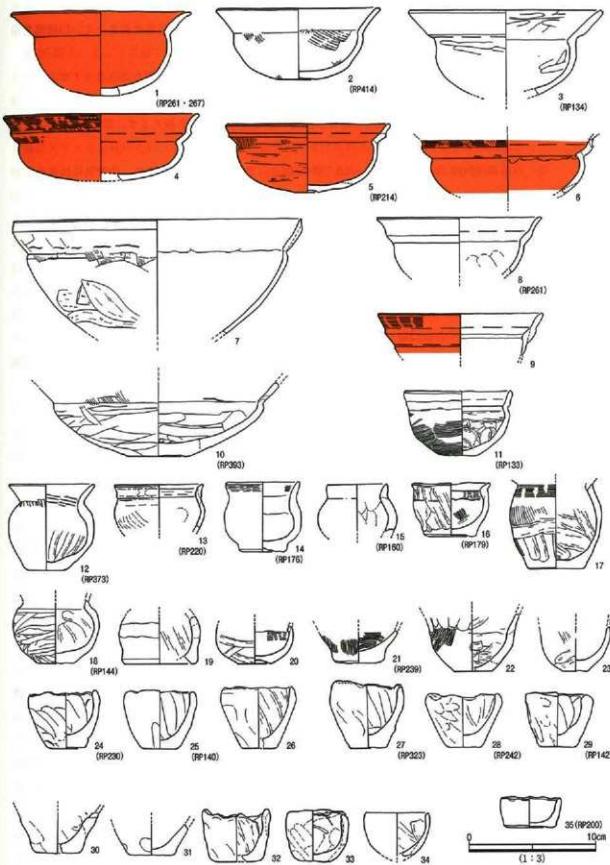
第92図 遺物実測図 S G325 河川跡(21)



第93図 遺物実測図 S G325 河川跡(22)



第94図 遺物実測図 S G325 河川跡(23)



第95図 遺物実測図 S G325 河川跡(24)

壹

臺も出土点数が多かったため、本報告書では完形に近いものと特徴を捉えやすい口縁部を中心に掲載した。

第88図1は有段口縁をもっているもの。第88図3は退化してだれたようなタイプ。

第88図2は断面が3角形をした口縁帯を持つもの。

第88図5、7、第89図1、6は口縁部に縫を持ち、外反するタイプ。第89図4は退化してだれたようなタイプ。

第85図6、第88図6、8～10、第89図2、7は口縁部に縫を持ち、内唇気味に立ち上がるタイプ。

第89図3、5は上記2タイプのどちらか。

第90図1～13は口縁が折り返したように二重になったタイプである。いくつか細かいバリエーションが見られる。1は口縁部下部には木片による押圧が連続して施されている。2は口縁部に2本組み4単位で、棒状浮文が施されている。3～5は体部と頭部の接合部に縫を持ったものである。10と12は口縁の二重になったところがだれて退化したタイプである。

第91図1～6は口縁部が「く」の字状口縁で、外反するもの。

第91図7、8はいわゆる籠形の小型壺である。体部上方には1箇所穿孔がある。7は口縁部が残存し、頭部で屈折して口縁が大きく外反して伸びている。

第91図9～11は口縁部が「く」の字状であるが内唇している。

第91図12、第92図1～4は口縁部が「く」の字状でまっすぐ立ち上がり、比較的短いもの。

第92図7～9は口縁部が「く」の字状でまっすぐ立ち上がるが、比較的長いもの。

鉢

第93図1～9はいわゆる有孔鉢である。口縁部が二重になっているものと、なっていないものの2タイプが見受けられる。

第93図10、11は比較的浅い体部に大きく聞く長い口縁部を持つ。第94図13～15は派生型で、口縁部が短く、大口となる。

第95図1～3も上記の派生型のひとつで、口縁部がやや外反している。第94図4～10は口縁部が2段に屈曲している。

第93図12、13、16は比較的深くて丸い体部を持ち、口縁部が内唇気味に開いている。

第94図4、5体部と口縁部に明瞭な境界があり、丸く比較的浅い体部を持つ。

第94図6～10上記が退化したようなタイプ。口縁と体部の境界が不明瞭で体部の丸みが潜在的になる。

小型土器

いわゆる手づくね土器で、第95図11～35の遺物である。11～23は壺、鉢類など、粗形が確定できる土器で、24～35はコップ状の小型土器特有の形をしている。それぞれのタイプで使用目的、方法が異なる可能性がある。

木製品

S G 325 河川跡からは木製品が大量に出土した。本報告書では人の手が加えられたと思われる木製品はできるだけ多く図化して掲載するよう努めた。また、殆どの掲載遺物は保存處理

を施し、同時に樹種の同定を行なった。各遺物の樹種の詳細については、付篇に別記している。

農具

第96図1、2は三叉鋤である。どちらも一本作りで折損した状態で出土した。サイズが大三叉鋤と小となっている。第96図4は鎌柄である。刃の装着部にはスリット状の穿孔がなされている。鎌柄は途中から折損している。第96図3は鎌柄である。第97図1は鎌の未成品と推定される。鎌柄第97図2は曲柄鍬である。柄への装着部に張り出しを持つてわゆる「なすび形」鍬であるが、なすび形鍬刃部にスリットを持つという山陰方面からの影響も見受けられる。かなり使い込んだようで、刃部が磨耗している。鉄刃の装着はなされていないようである。第97図3は広耕である。泥広除けの装着孔が上部2箇所に穿孔されている。また、木取りは横木取りされている。第98図1、2、第99図1は田下駁である。第98図2は片側側面に24.5cm 間隔に3箇所刻目が施されている。現在の1寸約3cmの尺貫法で計算すると約8寸間隔になる。何かの建材か部材を軽用して使用した可能性がある。第99図2～5は破損、または磨耗が激しく不完全な状態で出土したため、断定はできないが田下駁と推定した。3～5は鍬や轍といった農耕具の可能性も否定できない。第100図1～4も破損と磨耗が激しいため断定はできないが大足の側板の一部と判断した。第100図5、6、7は農具の柄と思われる。6はホゾ状の穿孔部から折損している。

容器

第101図2は大型の曲げ物底板である。周辺部に穿孔があることから側板は繩などで縛られていたものと推定される。全体に精円形をし、一部大きく切れ込み条に凹部がある特異な形状をしている。また、底部には多数の金属器による切り傷が観察できた。作業台などに再利用した可能性もある。第101図3は鉢である。出土状況はあまりよくなく、全体の一部であったが、図上復元すると口径は50cm近かった。穿孔が2箇所あり、紐を通して取っ手としていたのだろうか。第101図4は槽である。破損が激しく大きさはわからない。第102図1は曲げ物状木製品、曲げ物の底のような板であるが、縁近くに2穴1縫で4箇所、合計8つの小さな穿孔があったと思われる。また、中央部に大きな穿孔があったことが観察できる。用途は不明で、容器であると断言もできない。

道具

第101図1は機織機の一部の絶巻具または布巻具の可能性が高いと判断したい。

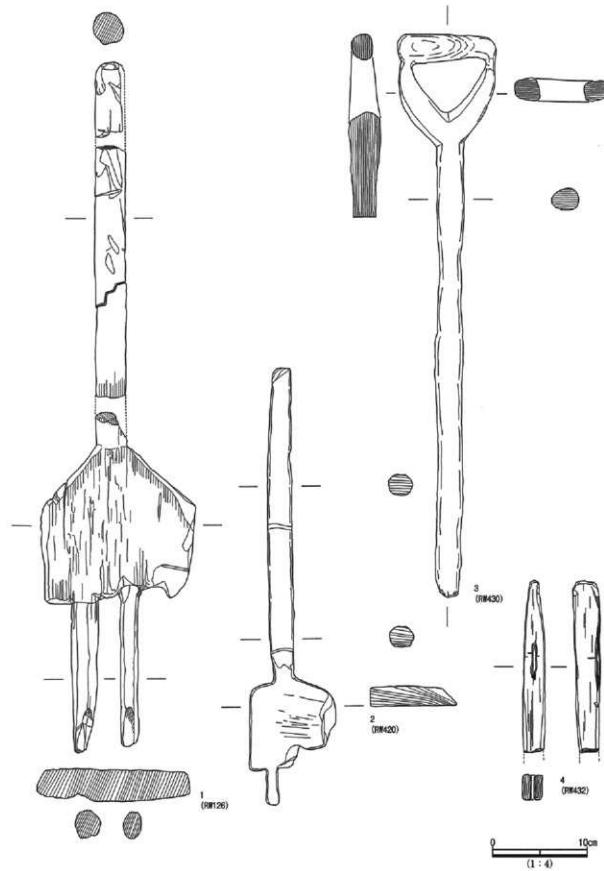
第102図2は鳥形と判断した。第102図3は弓である。折損しているため全体の長さはわからない。太さがあり見られないことから実用品というより祭祀用具として使用していた可能性がある。第102図4は矢形と判断した。第102図6、7は籠状木製品。第102図8は札状木製品。上部に小さな穿孔がある。第102図5は用途不明木製品。両端の縁は面取りしてある。

板材

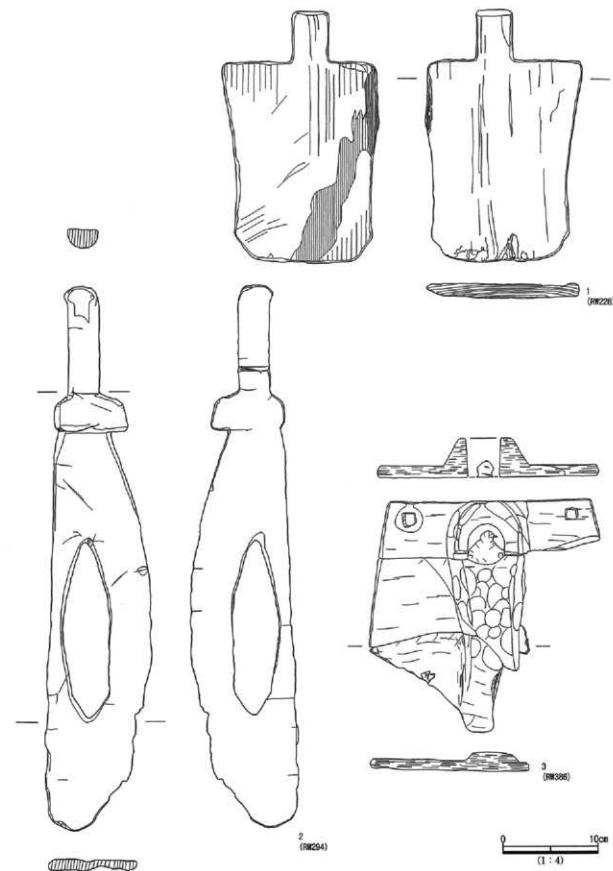
第103図1～5、第104図1～4、第107図1は部材または他の木製品の破片と思われるもので板状のものと括して板材とした。第103図1は手斧による調整痕が確認できる。第103図2は木製品の破片と思われ、穿孔がなされていたようだ。

竹状木製品

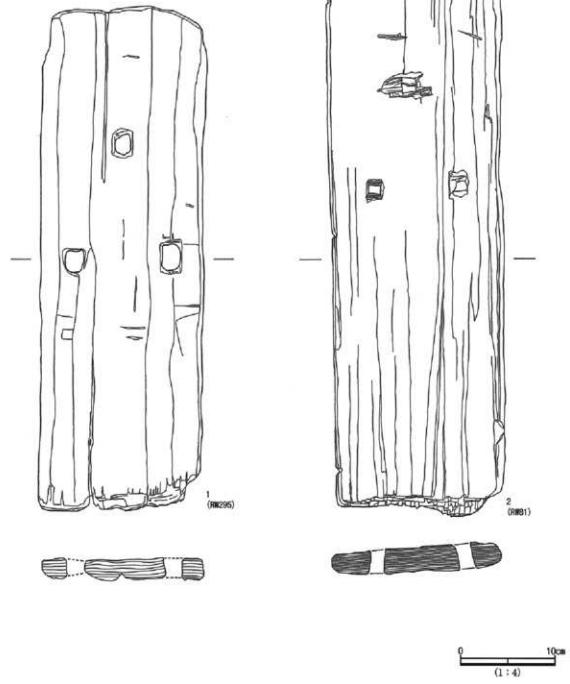
第104図5は用途不明ながら、木材を球状に面取りしている。



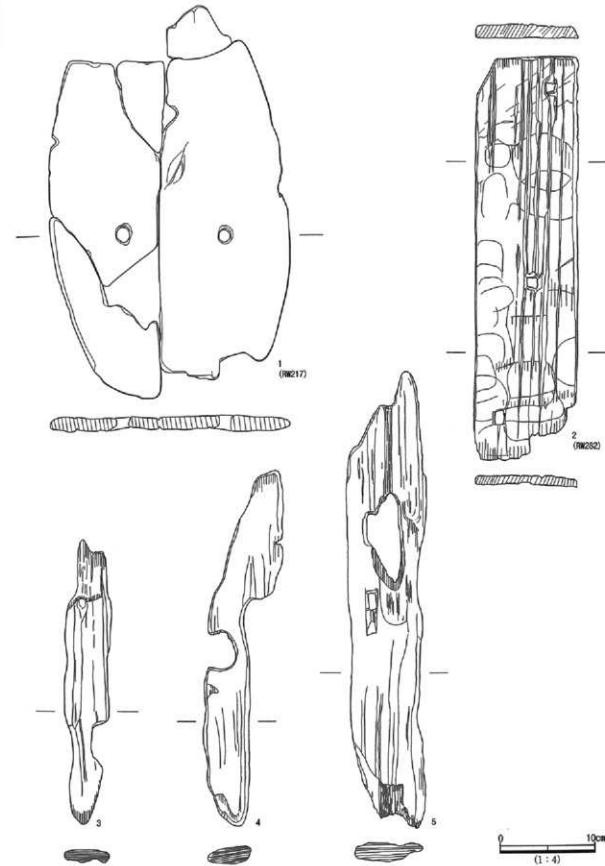
第96図 遺物実測図 S G325 河川跡(25)



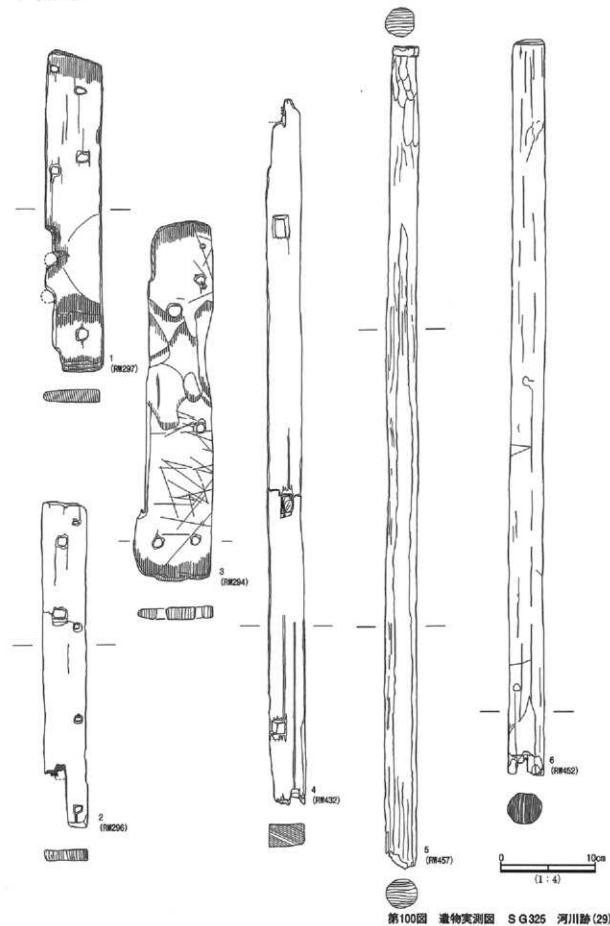
第97図 遺物実測図 S G325 河川跡(26)



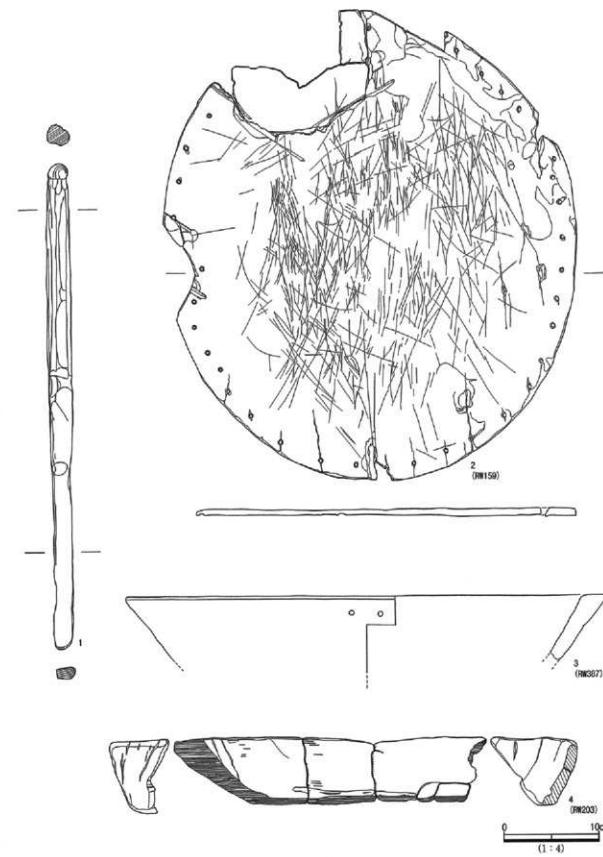
第98図 遺物実測図 SG 325 河川跡(27)



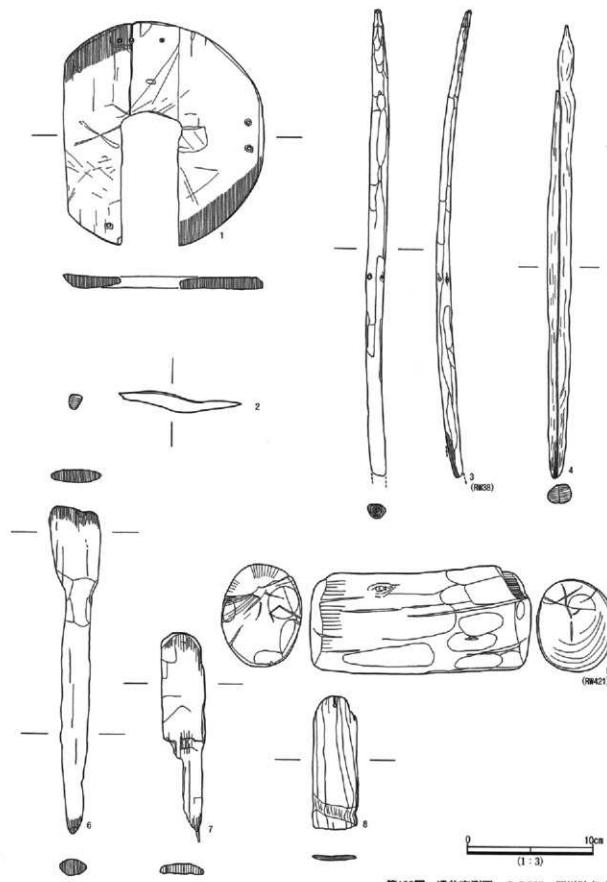
第99図 遺物実測図 SG 325 河川跡(28)



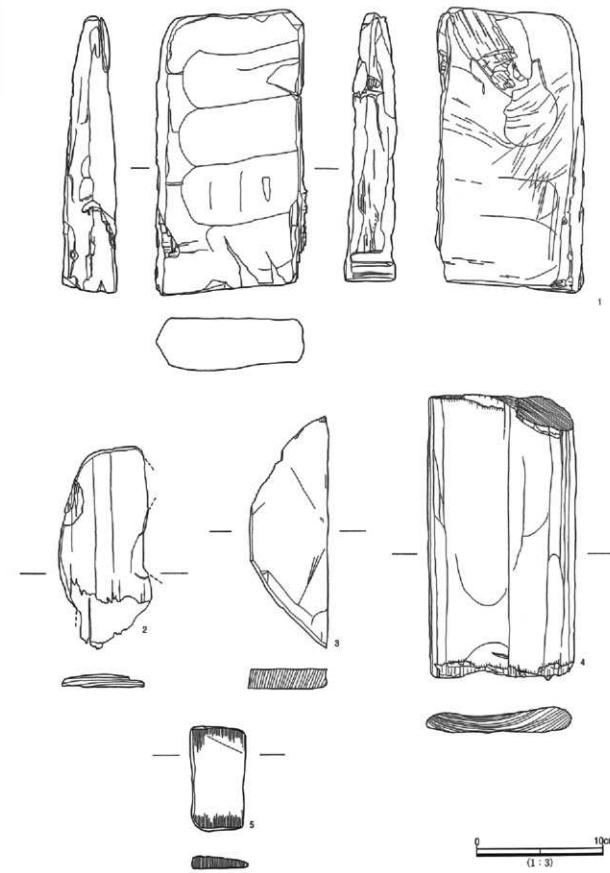
第100図 遺物実測図 SG 325 河川跡(29)



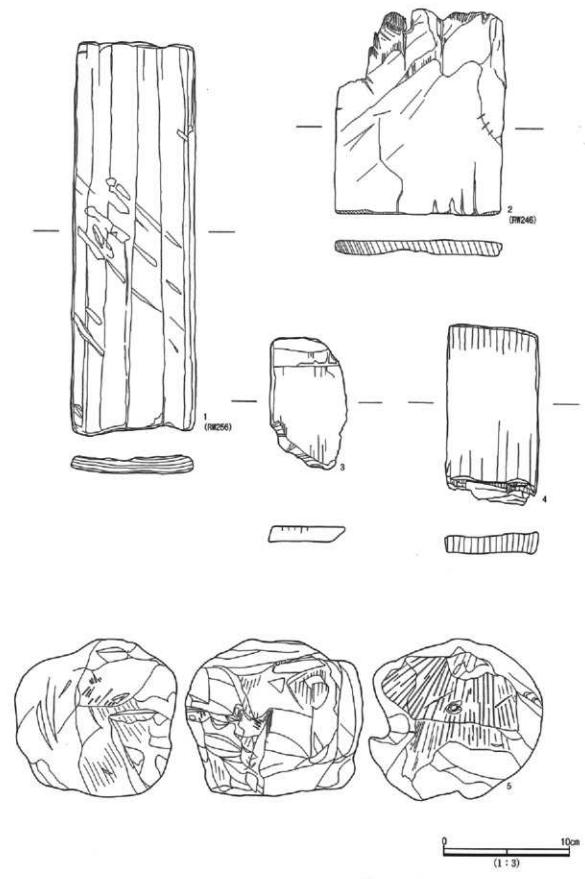
第101図 遺物実測図 SG 325 河川跡(30)



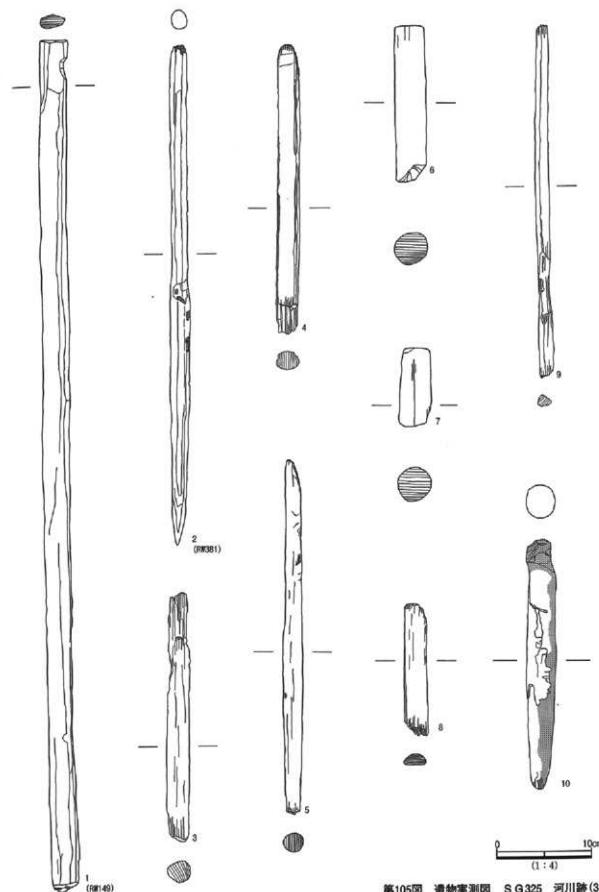
第102図 遺物実測図 S G325 河川跡(31)



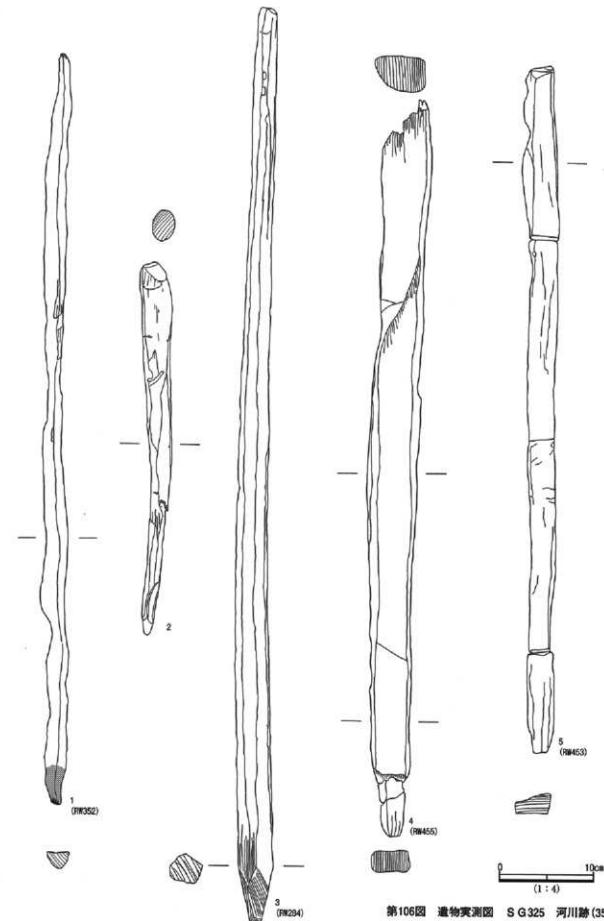
第103図 遺物実測図 S G325 河川跡(32)



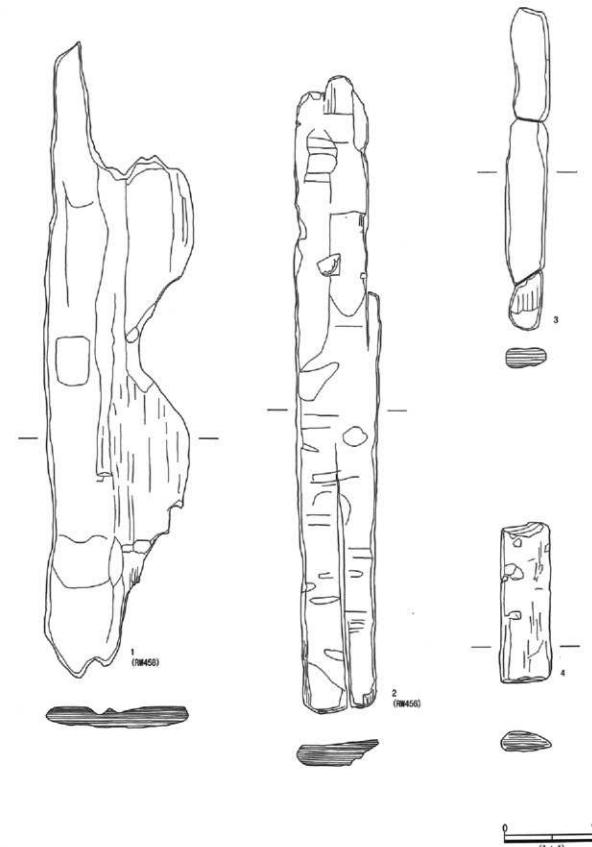
第104図 遺物実測図 S G 325 河川跡(33)



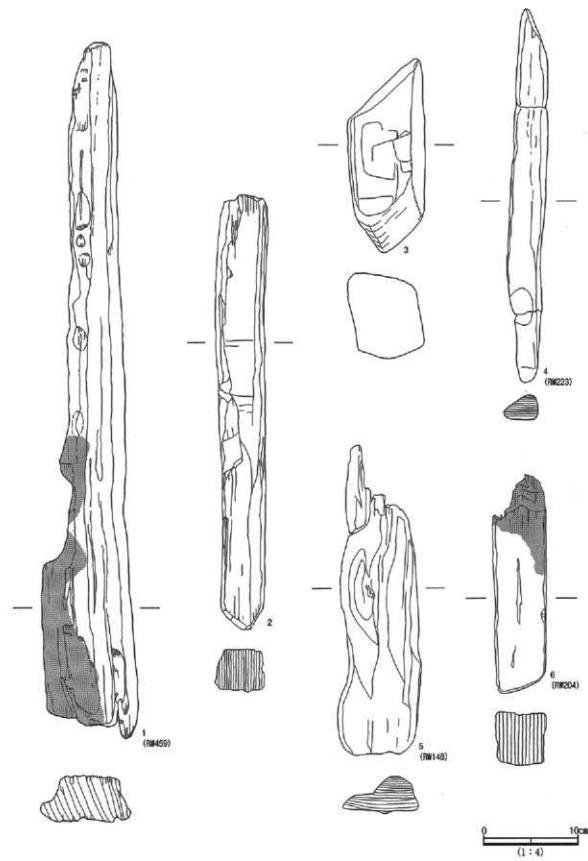
第105図 遺物実測図 S G 325 河川跡(34)



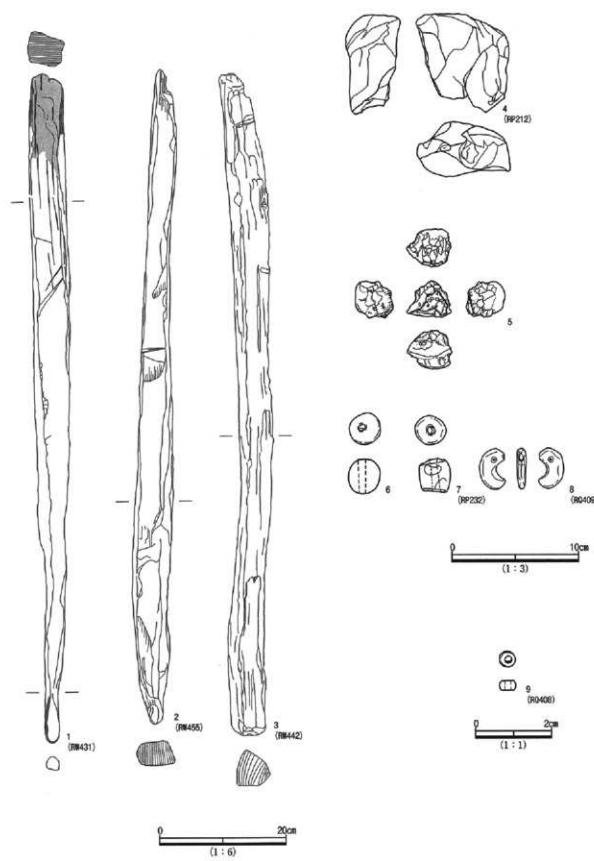
第106図 遺物実測図 SG 325 河川跡(35)



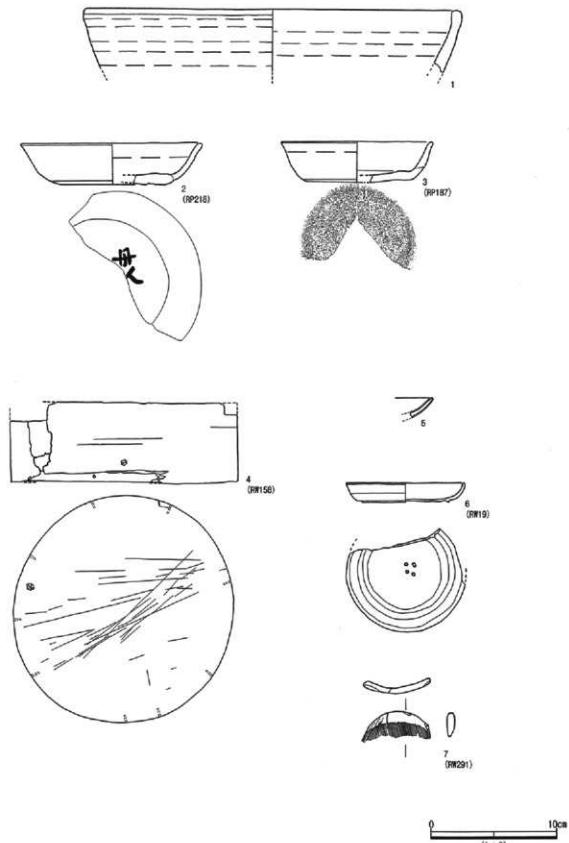
第107図 遺物実測図 SG 325 河川跡(36)



第108図 遺物実測図 S G325 河川跡(37)



第109図 遺物実測図 S G325 河川跡(38)



第110図 遺物実測図 SG325 河川跡(39)

研

第105図1~8で棒状に加工され、柄のような形のものを一括して柄として分類した。第105図1の断面はやや扁平で片側には切れ込みが観察できる。第105図2は先端が尖らせてあり、杭と思われる。第105図10は樹皮がついた木材だが、半分ほど炭化している。

土木構築材

第106図1~5、第107図2~4、第108図1~6、第109図1~3で建築材や土木材など一部と思われる。破損や磨耗が激しいものが多く、一部炭化したものも見受けられる。

土製品

第109図4~7の4点出土した。4は炉の支脚である。5はふいごの羽口片と思われ、激しく被熱し、一部ガラス化している。6、7は土錘である。

石製品

第109図8、9はどちらも滑石製である。8は勾玉、9は白玉である。8が1個と9が24個が第95図14の手づくね土器に入った状態で出土した。

平安時代の遺物（第110図1~4）

須恵器3点と曲げ物1点が出土した。1は鉢である。被片であるが、口径は30cm近くあつたと思われる。2、3は底部旋切りの須恵器環で、2の底部には「舟人」と墨書きされている。墨書き土器4は曲げ物である。底板は舞板に木釘を9箇所打ち込み、固定してある。底板には金属の刃物がつけた傷が観察できた。

中世の遺物（第110図5~7）

平安時代以降の遺物は3点である。5は漸戸の平碗である。6は漆器の皿で、底部に櫛縫の爪痕が4箇所確認できる。7は衝である。

7 その他の遺構、グリッドからの出土遺物

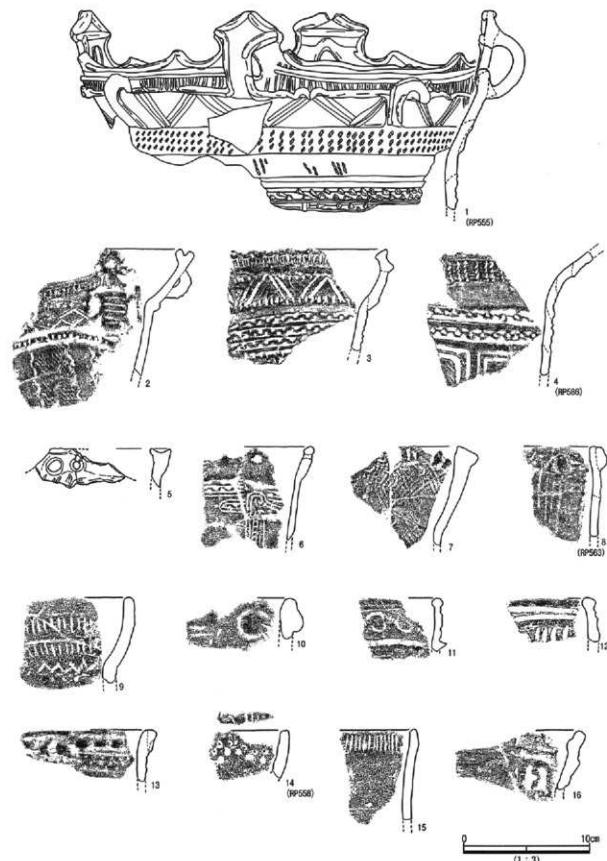
その他の遺構や遺構外のグリッドからも多数の遺物が出土した。今回はできるだけ、依存度の高い遺物や特徴のある遺物は図化して掲載した。

绳文時代の遺物（第111~118図）

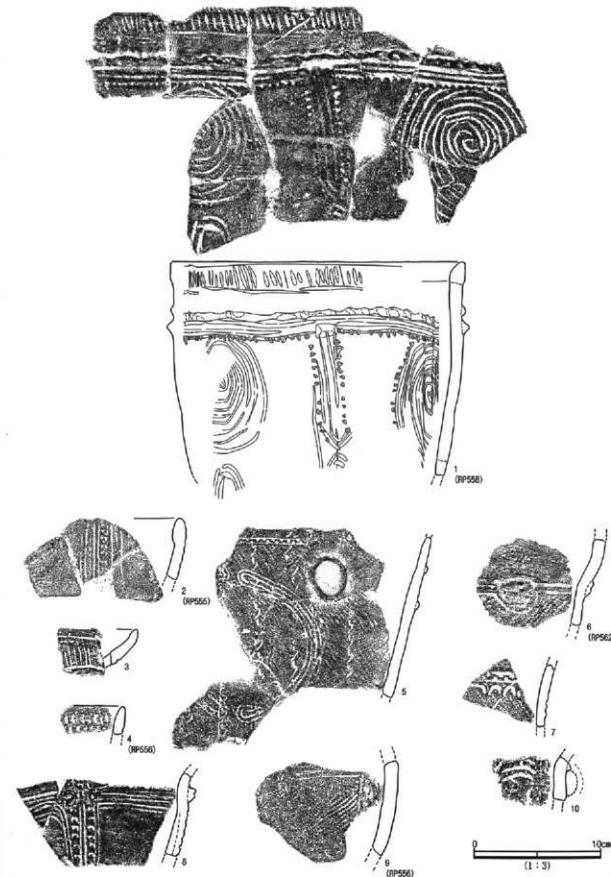
古墳時代の遺構面より下の層に绳文時代の遺物包含層を確認することができた。しかし、土層は激しくグライ化し、遺構を検出することはできなかった。遺物の出土状況や遺存状況から外部からの流れ込みとは考えにくい。第111~113図は中期の遺物である。第114、115図は後期と晩期の遺物である。第116、117図は石器である。第118図は石製品である。第118図5は磨製石斧である。穿孔があり、形もやや重になっていることから、後世に砾石として転用した可能性が非常に高い。

古墳時代の遺物（第119~122図）

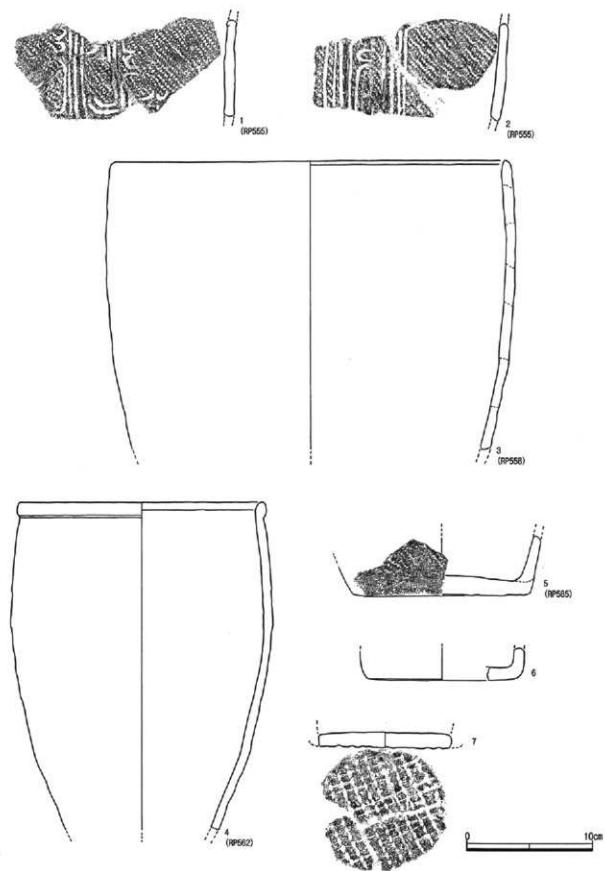
第119図1~15は高杯である。第119図16は壺である。第119図17は器台で、18は蓋である。第120図は甌である。第121図、第122図1~6は蓋である。第122図7~10は鉢である。第122図11~14は小型土器である。



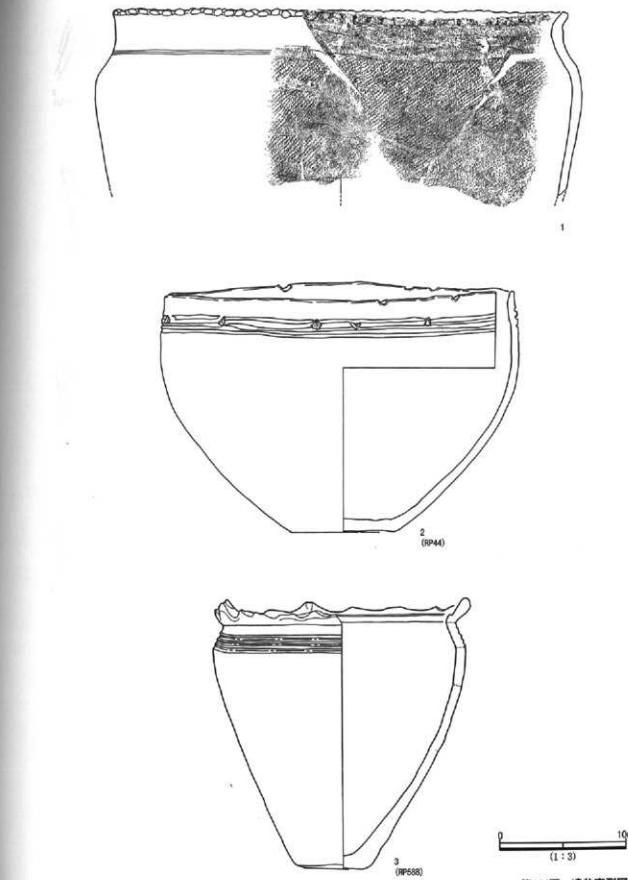
第111図 遺物実測図(1)



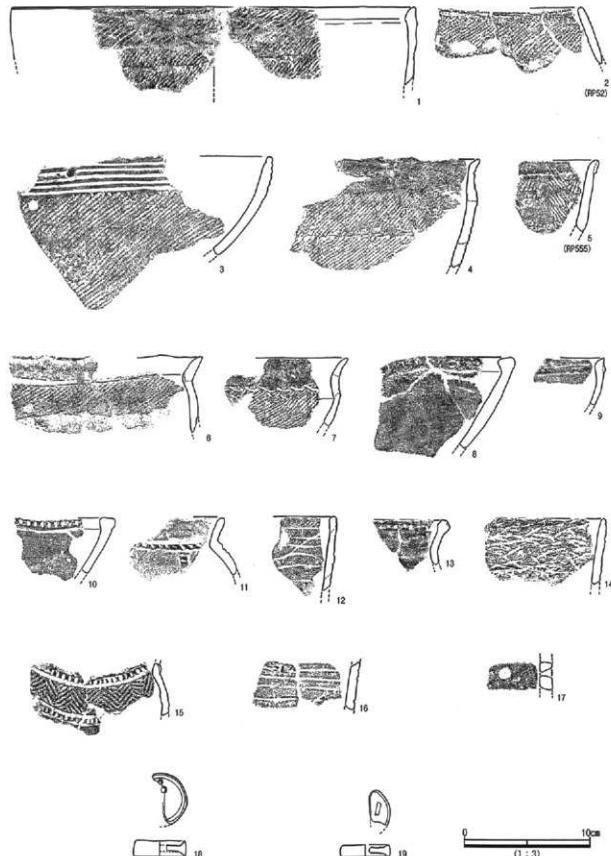
第112図 遺物実測図(2)



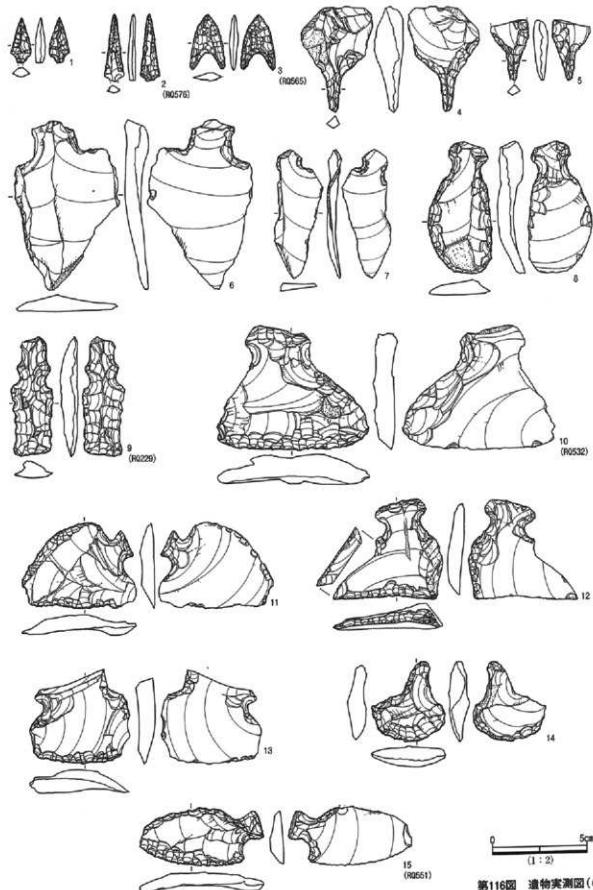
第113図 遺物実測図(3)



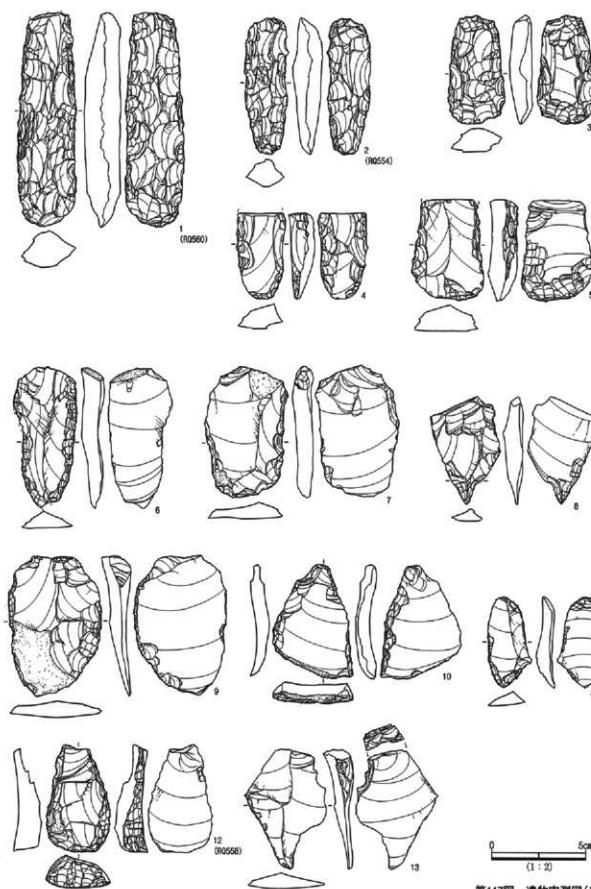
第114図 遺物実測図(4)



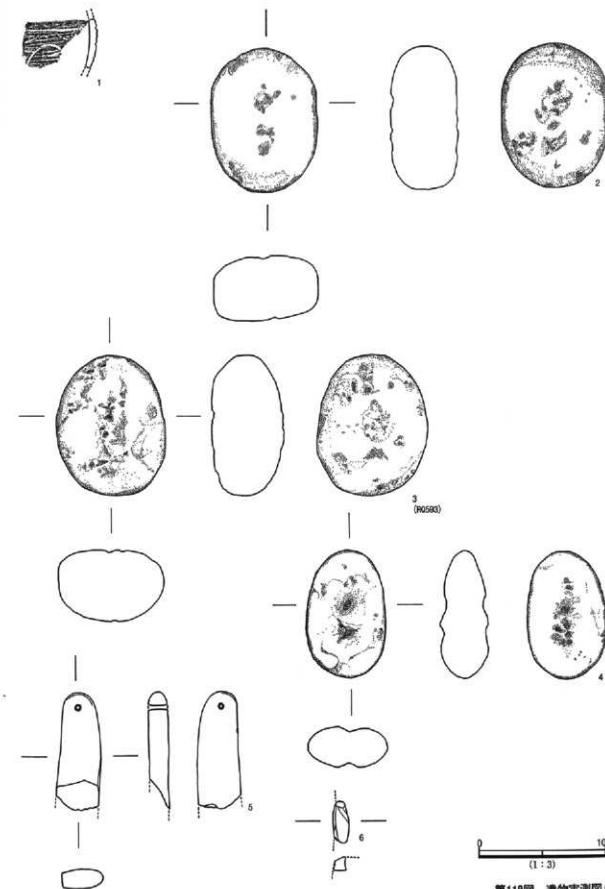
第115図 遺物実測図(5)



第116図 遺物実測図(6)

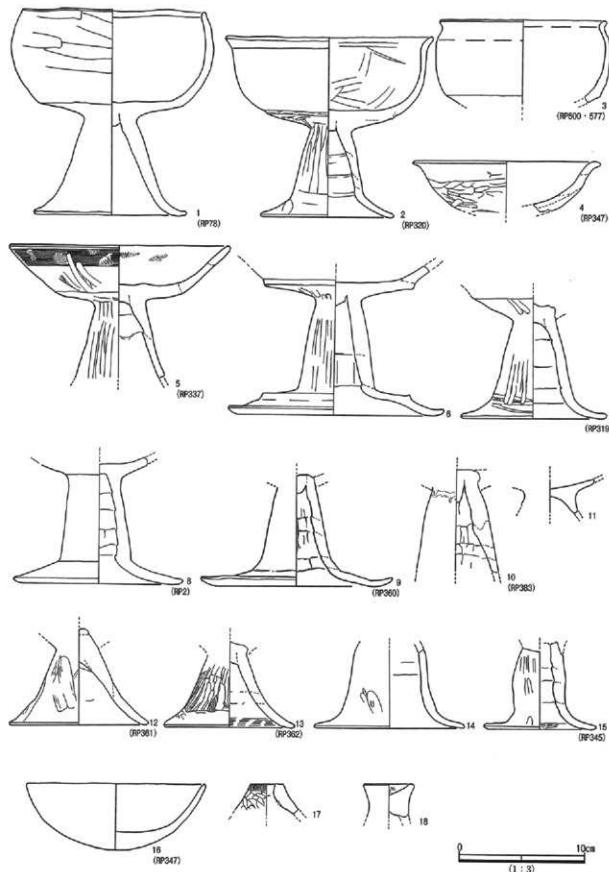


第117図 遺物実測図(7)



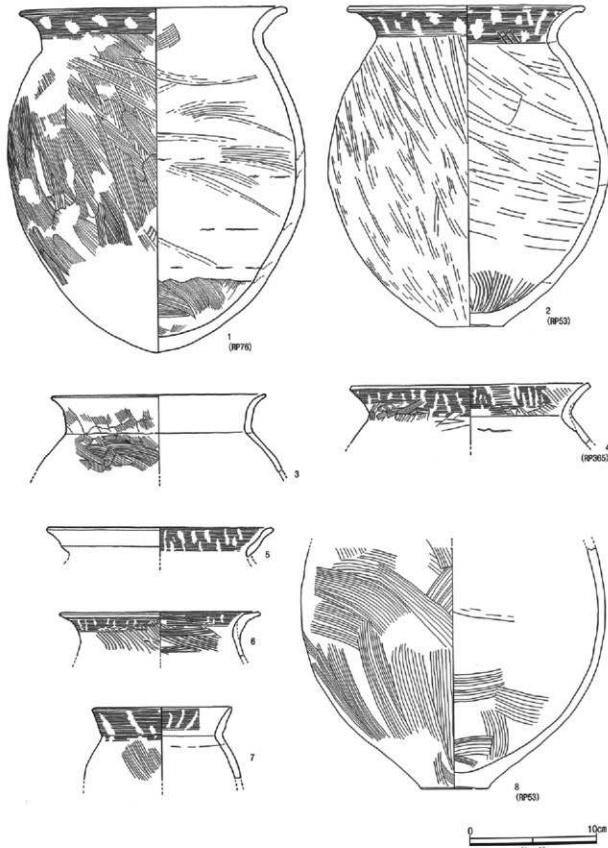
第118図 遺物実測図(8)

V 板鏡 2道跡

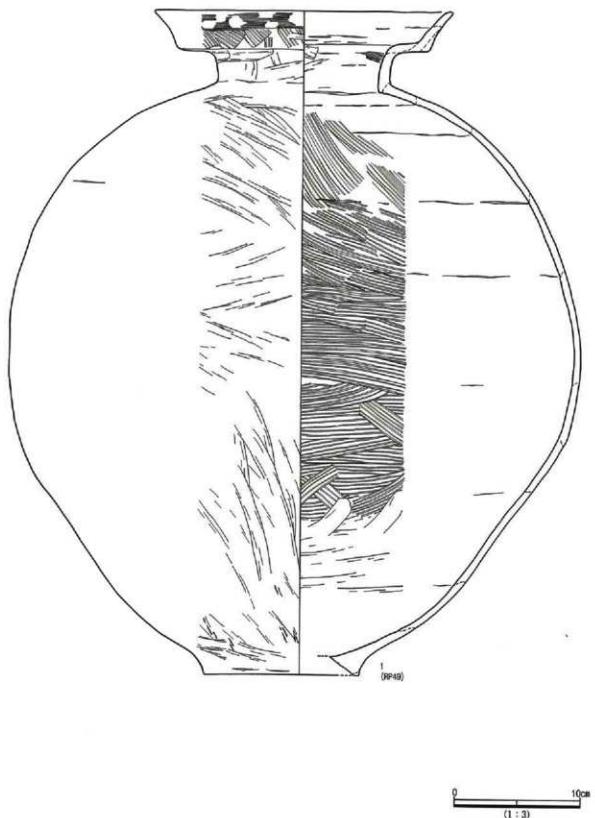


第119図 遺物実測図(9)

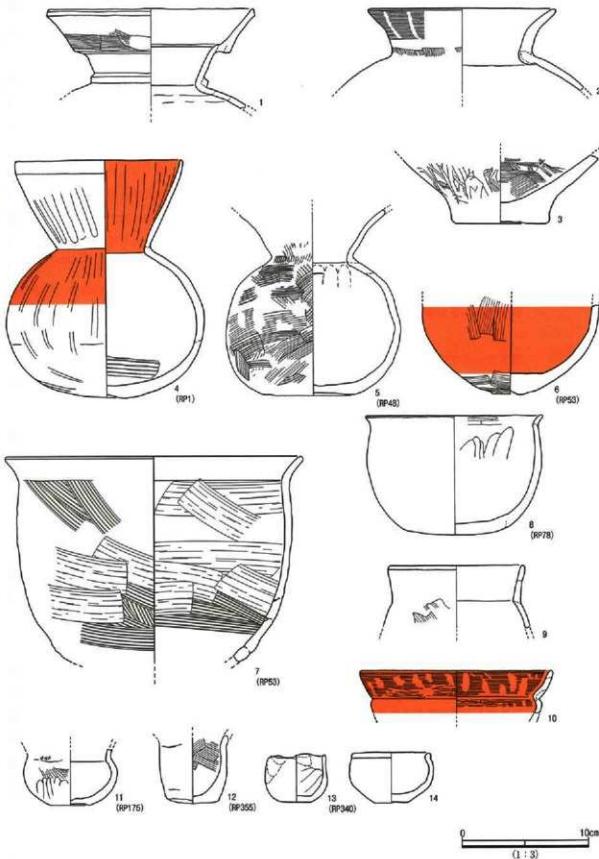
V 板鏡 2道跡



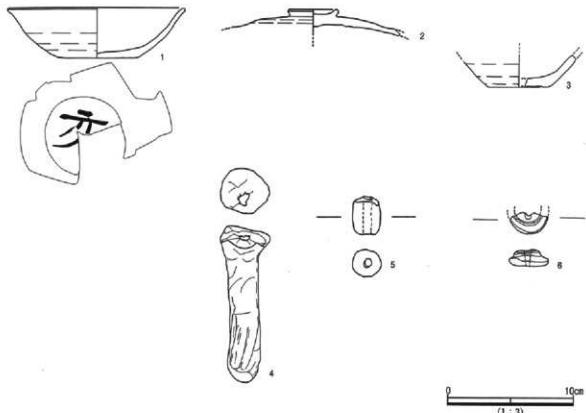
第120図 遺物実測図(10)



第121図 遺物実測図(11)



第122図 遺物実測図(12)



第123図 遺物実測図(13)

平安時代の遺物（第123図）

墨書き土器 平安時代の遺物は4点出土した。1は須恵器環で底部に「方」の墨書きがある。4は三足鉢の脚部の一本である。時代不詳が、124図5は土鍤で、第124図6は紡錘車である。

8まとめ

今回の調査では主に縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代の遺物や遺構が出土、検出された。紙幅と時間的余裕が無いため、縦年の位置付けなどは敢て除外し、以下のように時代ごとに特徴を箇条にまとめる。

縄文時代

- 中期** 縄文時代の遺物は中期、後期、晩期が出土している。中期は古墳時代の遺構検出面から數十cm下から遺物が出土している。土層は激しくグライ化し、遺構は確認できなかった。板橋1遺跡でも遺構は検出されなかったが、中期の生活面があったと考えられる。この時期から冲積地に集落が営存在していたことになる。後期は遺物の出土点数も少なく、近隣からの流れ込みと思われる。晩期は、堅穴住居跡¹¹で検出された。また、SG 325 河川跡の北岸に古墳時代の遺構検出面とほぼ同レベルから比較的まとまって土器が出土しており、縄文晩期の生活面は古墳時代とほぼ同じ標高であったと推測できる。
- 弥生時代**
- 前期** 弥生時代の遺物は後期の物ではなく全部がSG 325 河川跡から出土し、遺構は確認できなかった。また、遺物の磨耗なども見られず、周囲には地蔵池遺跡や塚野目A遺跡などの弥生時代

遺跡も散見できることから調査区から極めて近い位置に集落跡などがあると見られる。

古墳時代

古墳時代の遺構は堅穴住居跡が32棟、掘立柱建物跡が3棟、河川跡が1本、その他土坑、溝跡が多数検出された。それから出土した遺物の量も極めて多數となった。遺跡の景観は河川跡が調査区の南端を西流し、その北岸に集落が広がっていた。河川跡からは土師器や木製品が多く出土している。

遺物と遺構は、概ね前期後半と中期前半の2群に大きく分けられると思われる。前期後半の堅穴住居跡はST 5、7、20、21、51、226、339、666、755などで、土坑はSK 660、872がみられる。中期前半の堅穴住居跡はST 11、220、750で、土坑はSK 84、96、764、737で、溝跡SD 40、106、765、888がみられる。また、河川跡SG 325については、前期の遺物が少なく、中期の遺物が多い。これは前期に投棄または廃棄された遺物は流されたとも解釈可能だ。しかし、河川跡に削除されたり、岸際で壊れたりしている前期の堅穴住居跡が存在することや、中期の遺構が河川跡からある程度距離を保っている点からも、前期には河川跡は存在しなかったか極めて小規模であったと考えるほうが妥当と思われる。河川跡はその後の中間にになって出現したか川巾が大きくなったと考えられる。

また、前期には堅穴住居跡の棟数が比較的多いことから集落が広がる生活空間であったと思われる。中期になると堅穴住居跡の数が激減するが、区画溝のようなものや土坑が増える。SG 325 河川跡やST 750 堅穴住居跡からは石製模造品や祭祀用と思われる木製品が出土してお祭り、祭祀がおこなわれていたことが伺われる。さらに北側の約場跡とは一部遺構遺物の時期が重複するとの見られ、密接な関係にあったことは想像に難くない。

堅穴住居跡は概ね、地焼炉を持っているが、ST 751は壁面に焦土が広がり、カマドが存在した可能性もある。

また特筆されるのは、破片ながら、SK 872から出土した石鏡である。この種の輪形石鏡石品は東北地方では福島県郡山市の大安塙古墳出土の車輪石、宮城県名取市十三塙遺跡出土の石鏡について3点目の出土である。

ST 339、446 堅穴住居跡からは砥石が出土し、SG 325 河川跡からは鐵刃が装着されたと思われる鋏柄が出土している。ST 339、446 堅穴住居跡の年代は共に古墳時代前期と見られる。平成5年に当センターが調査した山形市今堀遺跡では、板橋2遺跡より少し古い時期の古墳時代前期の堅穴住居跡からも砥石が出土しており、すでに古墳時代前期には山形盆地でも鐵器が使用されていたことがわかる。

また、壺や鉢、壺、壺類の中には底部の輪台を削り、小型化あるいは丸底化を指向したと判断できる調整技法を観察できたものもあった。

平安時代以降

平安時代の遺物は主にSG 325 河川跡の堆積土の上部から出土している。平安時代にはSG 325 河川跡はほぼ湿地状の泥炭地となっていた可能性が非常に高い。また、古墳時代の遺構を切って水田跡と見られる小区画も検出され、時代は不明ながら、少なくとも古墳時代以降、当地は水田として利用されたものと見られる。

表5 板橋2遺跡出土土器觀察表（1）

*遺物観察表中の実測値の単位は全てmmであり、括弧内の数値は図上復元による推定値及び各損による残存値を示す。

番号	固有名	グリッド番号	種類	器種	口徑	胴径	底径	高さ	両面特徴	底面特徴	備考	選択番号
15 1	27 2	ST 5	土師器	盃	218	273	64	74	内側エヌメ	脚部骨付 外面焼内面付 直縁	脚部骨付 外面焼内面付 直縁	RP 38
15 2		ST 216	土師器	盃	(162)	(207)	(139)	(139)	内側エヌメナヘ外ハ ケメダ	外底丸 内面牽托	外底丸 内面牽托	RP 192
15 3	27 1	ST 5	土師器	盃	(160)	(162)	(160)	(160)	内側ナヘマス	脚部骨付 体部下頸後、 底部外縁付	脚部骨付 体部下頸後、 底部外縁付	
16 1	27 3	ST 7	土師器	高杯	(106)	(81)	脚部ナヘ孔4ヶ所	(81)	外底丸 外面焼直縁	外底丸 外面焼直縁	外底丸 外面焼直縁	RP 51
16 2	1 27 5	ST 11	土師器	高杯	135	138	147	147	内ナヘナヘケメ	外底丸 外面焼直縁	外底丸 外面焼直縁	RP 52
16 2	2 27 5	ST 11	土師器	高杯	(106)	(95)	(97)	(97)	内ナヘナヘケメ	外底丸 外面焼直縁	外底丸 外面焼直縁	RP 56
16 3	27 7	ST 11	土師器	高杯	(159)				内ミガキ外ナヘマス ナヘナヘガ	外底丸 外面焼直縁	外底丸 外面焼直縁	RP 72
16 4	27 8	ST 11	土師器	杯	136		57		ケズリ丸底	非赤粒 内側牽繩直 い	非赤粒 内側牽繩直 い	RP 74
18 5		ST 11	土師器	盃	(170)				ケズリ丸底	内側 外面付物	内側 外面付物	RP 71
18 6	27 4	ST 11	土師器	盃	103		(69)	(69)	内ナヘラヘ	内側丸 外面付物	内側丸 外面付物	RP 69
18 7		ST 11	土師器	盃	(285)	(65)	(65)	(65)	内ナヘナヘマス	直底 内側丸 外面付物	直底 内側丸 外面付物	RP 65
18 8	27 6	ST 11	土師器	盃	(145)	(263)	内側ナヘラヘ	(263)	ケズリ丸底	内側丸 外面付物	内側丸 外面付物	RP 70
11 2	29 3	ST 20	土師器	口引	87	104	74	74	内側ナヘラヘ	内側丸 外面付物	内側丸 外面付物	RP 24
21 2	29 4	ST 20	土師器	口引	161	49	104	89	内側ナヘマスナヘ	内側丸 外面付物	内側丸 外面付物	RP 22
21 3	29 2	ST 20	土師器	高杯	114	(115)	(115)	(115)	内側ナヘマスナヘ	外側被熱丸 壁丸4ヶ所	外側被熱丸 壁丸4ヶ所	
21 4		ST 20	土師器	高杯		(87)			内ミガキ	内側丸 外面付物	内側丸 外面付物	
21 5	29 1	ST 20	土師器	小口壺	(135)	(68)	38	78	内ナヘメタデミガ キナヘナヘナヘマ ズリ	内側丸 外面付物	内側丸 外面付物	RP 26
21 6		ST 20	土師器	小口壺	(106)				内ナヘナヘ	外側丸	外側丸	RP 34
21 7		ST 20	土師器	壺	(67)	10			内ナヘラヘナヘ	外側丸	外側丸	RP 33
21 8	28 3	ST 20	土師器	壺	(300)				内ナヘナヘナヘ	赤身 赤身	赤身 赤身	RP 32
21 9		ST 20	土師器	盃	172		(12)		内ナヘミガキ外ハ ケナヘナヘガ	外側被熱	外側被熱	RP 29
21 10		ST 20	土師器	井	(160)	(156)	(72)	(72)	内ナヘナヘマス	外側丸	外側丸	RP 34
21 11	28 4	ST 20	土師器	盃	(136)		(97)	(97)	内ナヘナヘマスナ ケメダ	内側丸 外面付物	内側丸 外面付物	RP 33
21 12		ST 20	土師器	盃	(131)	(133)	(114)	(114)	内ナヘナヘマスナ ケメダ	内側丸 外面付物	内側丸 外面付物	RP 32
22 1	28 2	ST 20	土師器	盃	197	228	52	198	内ナヘナヘマスナ ケメダ	輪台ケズリ直底小平 底	外側底 外面焼内面付物	RP 25
22 2	28 1	ST 20	土師器	盃	156	73	282	73	内ナヘナヘマスナ ケメダ	輪台ケズリ直底	外側底 外面燒丸	RP 34
22 3		ST 20	土師器	盃	(202)				内ナヘナヘマスナ ケメダ	輪台ケズリ直底	外側底 外面燒丸	RP 33
22 4	29 5	ST 20	土師器	盃	(136)				内ナヘナヘマスナ ケメダ	輪台ケズリ直底	外側底 外面燒丸	RP 32
22 5		ST 20	土師器	盃	(171)	(227)	(191)	(191)	内ナヘメタデナヘ ハケメダ	輪台ケズリ直底	外側底 外面燒丸	RP 595
22 6		ST 20	土師器	盃					内ナヘメタデナヘ ハケメダ	輪台ケズリ直底	外側底 外面燒丸	RP 15
24 1		ST 21	土師器	腰当	(100)		(62)	(62)	内ナヘナヘマスナ ケメダ	輪台ケズリ直底	外側底 外面燒丸	RP 15
24 2	30 3	ST 21	土師器	小口壺	(74)				内ナヘナヘマスナ ケメダ	輪台ケズリ直底	外側底 外面燒丸	RP 43
24 3	30 1	ST 21	土師器	手づくね	65	74	32	71	内ナヘナヘマスナ ケメダ	平底ケズリ丸底	外側底 外面燒丸	RP 13
24 4		ST 21	土師器	手づくね			26			外底丸	外底丸	RP
24 5	29 6	ST 21	土師器	井	104	75	20	58		輪台ケズリ直底	外側底 外面燒丸	RP 12
24 6	30 4	ST 21	土師器	井	(149)		(36)	(36)	内ナヘミガキナヘ ガ	内ナヘミガキナヘ ガ	内ナヘミガキナヘ ガ	RP 36
24 7	30 2	ST 21	土師器	盃	117	120	44	100	内ナヘナヘマスナ ケメダ	輪台ケズリ小平底	外側底	RP 16
25 29		ST 21	土師器	盃					ナヘ			
26 8		ST 21	土師器	盃		(52)	(43)			外底丸 内面焼化物	外底丸 内面焼化物	RP 37
24 9		ST 21	土師器	盃		(62)	(27)	(27)	内ナヘマスナヘ	輪台ケズリ直底	外側底 外面燒丸	RP 16
24 10	29 7	ST 21	土師器	井	(206)	(51)	121	121	内ナヘミガキナヘ ガ	輪台ケズリ直底	外側底 外面燒丸内面着 物	RP 16
24 11		ST 21	土師器	盃		(269)			ナヘ	外側丸	外側丸	RP 35
24 12	24 22	ST 21	土師器	盃	(225)	(53)	(204)	(204)	内ナヘナヘマスナ ケメダ	雲母 外側付物内面燒	雲母 外側付物内面燒	RP 67

表6 板橋2遺跡出土土器觀察表（2）

種別	固形	グリッド	電荷番号	規格	機種	口絞	側絞	底絞	側面	底面	周囲	周間特徴	瓶底技法	備考	遺物番号	
24	13	29	8	ST	土壤器	(206)	49	(10)	内ハメ外ハマチ	輪台ケズリ平底	外底延		RP 14			
33	3	16	23	ST	土壤器	(187)			内ハメラミキ		外底延					
2	2	2	23	ST	土壤器	変			内ハメテ		外底延					
25	3	15	23	ST	土壤器	変	(42)		内ハメテアラハマ	輪台	内地底	外底被熱				
25	4	14	18	ST	土壤器	有孔部			ケズリ		内地底					
25	5	16	21	ST	土壤器	変	(206)	(142)	ハメヘナハマ		内地底	外底被付着物	RP 584			
25	6	33	4	16	23	ST	土壤器	高杯	(182)	(11)	125	外ハメ鉛錠部穿孔	外底赤彩	RP 579		
25	7	33	5	16	23	ST	土壤器	高杯	130	(54)	内ハメ外ハマケ	内面有著物	RP 583			
25	8			ST	土壤器	杯	56	(14)	内ハメラミキ	輪台切糸	平安					
26	1	31	1	33	1	ST	土壤器	変	(190)	53	内ハメテアラハマ	輪台ケズリ平底	内地底	外底被熱	RP 17	
26	2	32	3	22	ST	土壤器	変	133	40	(108)	内ハマ	平底ケズリ凹正口	異耳内地底外底赤彩	RP 18		
26	3	31	5	22	19	ST	土壤器	高杯	175	138	156	内ナデタナミガ	み底	赤色土被布	外底延	RP 447
26	2	31	4	23	19	ST	土壤器	高杯	181	136	145	内ナデタナミガ		外底赤色土被布	外底延	RP 155
26	3	31	3	22	19	ST	土壤器	高杯	188	112	130	内ナデタナミガ		外底延	外底被熱	RP 98
24	4	31	7	22	19	ST	土壤器	高杯	194	(14)	内ナデタナミガ		内地底	内地底	RP 445	
28	5	32	6	ST	土壤器	高杯	131	(93)	内ハメテアラハマ	内ナデタナミガ	内地底	外底被熱	RP 93			
28	6			ST	土壤器	高杯	(182)	(95)	内ハメテアラハマ	内ナデタナミガ	内地底	外底被熱	RP 120			
28	7	32	5	ST	土壤器	高杯	(160)	(89)	内ナデタナミガ	内ナデタナミガ	内地底	外底被熱	RP 98			
28	8	32	4	ST	土壤器	高杯	(200)	(99)	内ハメテアラハマ	内ナデタナミガ	内地底	外底被熱	RP 92			
29	1	32	1	21	19	ST	土壤器	高杯	221	(74)	内ナデタナミガ		外底延		RP 151	
29	2	32	1	21	19	ST	土壤器	高杯	(220)	(45)	内ナデタナミガ		内地底			
29	3	32	2	22	19	ST	土壤器	高杯	(188)				内地底			
29	4	32	3	22	19	ST	土壤器	高杯	(208)	(45)	内ナデタナミガ		外底延	外底被熱	RP 446	
29	5	22	19	ST	土壤器	高杯	(166)	(44)				内地底				
29	6			ST	土壤器	高杯	(168)	(47)	内ナデタナミガ		内地底	内地底	RP 105			
29	7			ST	土壤器	高杯	(36)	(36)	内ナデタナミガ		内地底	内地底	RP 114			
29	8			ST	土壤器	高杯	(26)	(26)			内地底	内地底	RP 174			
29	9	32	8	ST	土壤器	杯	(170)	(64)	43		ケズリ丸底	内地底	RP 88			
29	10	32	7	22	19	ST	土壤器	杯	142	4	47	内ナデタナミガ	内地底	ケズリ丸底	RP 449	
29	11	22	19	ST	土壤器	杯	(124)	(27)			ケズリ丸底	内地底	ケズリ丸底	RP 448		
29	12	32	9	ST	土壤器	井	176	52	79	内ナデタナミガ	輪台	内地底延	外底被熱	RP 95		
29	13			ST	土壤器	変	(30)	内ナデタナミガ	口縁			内地底	外底被熱			
29	14			ST	土壤器	変	(31)	内ナデタナミガ	縫合目			内地底	外底被熱			
29	15	31	2	21	19	ST	土壤器	井	(72)	(154)	(128)	内ナデタナミガ	内地底	内地底	RP 153	
29	16	30	7	ST	土壤器	変	142	(45)				内地底延	内地底	RP 87		
30	1	30	6	ST	土壤器	変	(211)	(226)	(264)			内地底	内地底	RP 91		
30	2	30	6	ST	土壤器	変	(197)	(201)	(216)	内ナデタナミガ		内地底	外底被熱	RP 89		
30	3	30	5	ST	土壤器	変	(220)	(225)	(202)	内ナデタナミガ		内地底	内地底内面被熱	RP 97		
30	4	21	19	ST	土壤器	変	(210)	(240)	(33)	255	内ナデタナミガ	内ナデタナミガ	内地底延	外底被付着物	RP 151	
31	1	32	10	ST	土壤器	支撐	122						内地底	外底被熱	RP 115	
31	2	31	1	22	19	ST	土壤器	変	(235)	11 (234)	内ナデタナミガ	ケズリ小瓶底	内地底	外底被付着物	RP 446	
31	3	22	19	ST	土壤器	津洋	(140)	(23)				内地底	外底被熱	RP 173		

表7 板橋2遺跡出土土器觀察表(3)

埋蔵	回収	グリッド	遺跡番号	種別	器形	口径	脚柱	底面	調整特徴	底部技法	参考	遺物番号
31 5	22 19	ST 220	磯文 錐脚	(25)	内ナテ 口縁部 汎用					内凹面着物 周囲	RQ 445	
31 6		ST 220	磯文 直	(35)	内外脚柱 脱期							
31 7		ST 220	磯文 朴	74	海綿骨盆 内外脚柱 異端							
33 1		ST 223	磯文 御鉢	(280)	(153) LR							
33 2		ST 223	磯文 御鉢	(218)	(121) 平行沈折LR							
33 3		ST 223	磯文 御鉢	(62)	LR							
33 4		ST 223	磯文 御鉢	(84)	(163) LR							
33 5		ST 222	土師器 枝脚	106	内外脚柱 内外脚柱 異端							
35 1	41 8	19 13	ST 226	土師器 突	198 (262)	内ナテハナナメ		外画溝			RQ 292	
35 2	53 7	20 14	SK 256	土師器 両耳付	(51)	外ナラナナメ		内画溝	平安時代		RQ 124	
35 3		ST 226	土師器 手づくね	(54)	(32) 内ナテ 内外指		外脚柱					
35 4	26 14	19 13	ST 226	土師器 陶器	(21)			内底面				
35 5	20 14	SK 256	土師器 陶器	(158)	内ハナメナデ外ナメ			内底面			RQ 124	
37 1	34 3	18 16	ST 227	土師器 直	(45)	内ナテハナナメハナメ ハナナメ		内底面 外面摩耗			RQ 154	
37 2	34 2		ST 227	土師器 直	(138)	(58) 内ナテナメナデハナメ ハナメ		内底面			RQ 101	
37 3		ST 227	土師器 直	150	(21) 内ナテ外ナメイガキ ナ			内底面				
37 4		ST 227	土師器 亂	(152)	(43) 内ナハキメ			外画溝				
37 5	34 1	18 16	ST 227	土師器 亂	(170) (236)	内ナテ外ナメナ		外面被磨損 脊裏			RQ 125	
37 6	25 47	18 16	ST 227	磯文 亂				内底面			RQ 150	
37 7	25 44	18 16	ST 227	磯文 亂				内底面 脊裏	第37图8		RQ 122	
37 8		18 16	ST 227	磯文 乱	66 (12)			内底面	底角 第37图7と 同一個体		RQ 122	
37 9	25 43	18 16	ST 227	磯文 深				内底面	底角 第37图7と 同一個体		RQ 122	
37 10			ST 227	磯文 亂	(38)	内ナテ外ナラナナメ		内底面 地面	第37图11			
37 11	25 46		ST 227	磯文 亂				小起伏状	と同一個体			
39 1	17 14	SK 688	土師器 手づくね	(66)	内ナテ		外脚柱	脱期	第37图10と同一個 体		RQ 191	
39 2		ST 228	土師器 高杯	118	(35) 内ナテナメナ							
39 3	34 5	17 14	SK 688	土師器 高杯	(152)	内ナテ外ナラナナメ		内外底面	内面被熱着		RQ 191	
39 4	34 4	17 14	SK 688	土師器 朴	(150) (164) (50)	124 内ナテ外ナラナナメ		内外底面	内面被熱着		RQ 191	
39 5	17 14	SK 688	土師器 亂	(160)	(56) 内ナテ外ナラナナメ			内外脚柱			RQ 190	
39 6		ST 231	磯文 亂		RL			海綿骨盆	内外脚柱 亂			
39 7	34 6	17 14	SK 688	土師器 亂	173 40 (45)	内ナテ外ナラナナメ		内底面	外底被熱		RQ 190	
40 1		ST 232	土師器 乱	(140)	(56) 内ナテナメナ			内外脚柱	脚柱			
40 2		ST 232	土師器 亂	(152)	(22)							
40 3		ST 232	土師器 亂	(49)	内ナラナナナデ外 ハナナメ			内外脚柱				
40 4		ST 232	磯文 亂	(58)	徐留帶環			内外脚柱	大木7a			
40 5	16 13	ST 232	磯文 亂	82	LR			海綿骨盆	焼れ目に付着 物被移動か 脱期		RQ 189	
42 1	36 3	SK 654	土師器 高杯	202	(81) 内ナテミガキ外ハ ケズリナメガキ						RQ 108	
42 2		ST 339	土師器 小型壺	(120)	(37) 内ナテガキ			外底面				
42 3	36 2	14 15	ST 339	土師器 小型壺	(109) (168) (31)	66 内ナガキナナメ		平底ケツリ丸底 ガキ			RQ 122	
42 4	36 1	13 14	ST 339	土師器 亂	(86)	(83) 内ミガキ外ヘラナ ダナメ		内底面				
42 5		ST 339	土師器 小型壺	(13)				平底ケツリ丸底	内底赤			
42 6		13 14	ST 339	土師器 亂	60 (28) 内ナテ外ヘラナ ダナメ			平底ケツリ丸底 被熱	内底赤 剥れた 底に被熱			
42 7	14 15	ST 339	土師器 亂	(180)	(38) 内ナテ外ハナメナ ダナメ			内外脚柱				

表8 板橋2遺跡出土土器觀察表(4)

埋蔵	回収	グリッド	遺跡番号	種別	器形	口径	脚柱	底面	調査特徴	底部技法	機能	遺物番号
42 8	36 4		ST 339	石製品 或石	巾	70	長径			石質 磨 热 刻れ	RQ 413	
42 9			ST 339	磯文 不明						通孔		
43 1	8 4	14 13	ST 446	土師器 高杯					(81) 内ナテミガキ		RQ 156	
43 2	2		ST 446	土師器 高杯					(104) 内ナラナメ			
43 3	14	12	ST 446	土師器 手づくね	(54) (58)				(28) 内脚柱		RQ 152	
43 4			ST 446	土師器 有孔脚					(40) (18) 内ハナメ			
43 5	34 7		ST 446	土師器 亮	(160) (192)				(73) 内ハナメナデハナメ ケメ			
43 6	34 10		ST 446	石製品 砕石		巾	長径				RQ 378	
44 1	33 7	23 21	ST 666	土師器 商	106	(90)	70	内ナテナメ			RQ 580	
44 2			ST 666	土師器 曲	(80)				(50) 内ミキナメハナメ			
44 3	22 21	ST 666	土師器 亮	(80)					(27) 内ナラナメ			
44 4			ST 666	土師器 亮	(120) (118)				(91) 内ナラナメハナメ デ デ		RQ 580	
44 5	33 6	23 21	ST 666	土師器 亮	185	221	57	224	内ナラナメハナメ	輪台ケツリ平底		
45 1			ST 750	土師器 脱台						内ナラナメケツリ		
46 2	35 10	22 27	ST 750	土師器 高杯	(178)					内底面 内外脚柱	RQ 549	
46 3	23 22	ST 750	土師器 高杯							内ミキナ	RQ 514	
46 4	21 21	ST 750	土師器 高杯							内面摩	RQ 515	
46 5	21	27	ST 750	土師器 高杯						手づくね	RQ 547	
46 6	35 14		ST 750	土師器 高杯						手づくね		
46 7			ST 750	土師器 高杯						手づくね		
46 8	22 28	ST 750	土師器 高杯							外ミキナ	RQ 514	
46 9	21	27	ST 750	土師器 高杯						内ナラナメ	RQ 547	
46 10			ST 750	土師器 高杯						内ハナメナデハナメ デ		
46 11	22 27	ST 750	土師器 高杯							外ナラナメ	RQ 549	
46 12			ST 750	土師器 高杯						内ハナメナデハナメ		
46 13	13 8	26 8	ST 750	土師器 杯	(152)				(40) 内ナラナメ	ケズリ丸底		
46 14	35 7	22 27	ST 750	土師器 杯	117				(40) 内ナラナメ	ケズリ丸底	RQ 549	
46 15	22	27	ST 750	土師器 杯					(40) 内ナラナメ		RQ 549	
46 16			ST 750	土師器 跡						ナラナメ		
46 17	35 4	22 27	ST 750	土師器 手づくね	(56) (62) (40)				(43) 内ハナメ	平底	RQ 546	
46 18	35 5	22	ST 750	土師器 手づくね	(40)				(35) (29) ナラナメ	平底	RQ 545	
46 19	35 12		ST 750	土師器 脱						口縁管筋		
46 20	20	22	ST 750	土師器 亂						ナラナメ	RQ 513	
46 21			ST 750	土師器 亂						ナラナメ		
46 22			ST 750	土師器 亂						ナラナメ		
46 23	35 5	21	27	ST 750	土師器 亂	(263)	56 (20)	内ナラナメ		輪台ケツリ平底	RQ 550	
46 24			ST 750	土師器 亂	(176)					内ナラナメ		
46 25	37 35		ST 750	土師器 亂	(130) (124)					内ナラナメナデハナメ ケメ		
47 1	35 2	22 28	ST 750	土師器 亂	(187) (352) (37)					内ナラナメナデハナメ ケメナラナメ	RQ 512	
47 2			ST 750	土師器 亂						輪台ケツリ平底		
47 3			ST 750	土師器 亂						ナラナメ		
47 4	35 2		ST 750	土師器 亂						ナラナメ		
47 5	35 11		ST 750	土師器 不明						ナラナメ		
47 6	35 11		ST 750	土師器 不明						ナラナメ		
47 7	35 15		ST 750	石製品 有孔板						ナラナメ	RQ 544	
47 8			ST 750	土師器 亂						ナラナメ		
49 1			ST 751	土師器 亂	(100)					ナラナメ		
49 2	21 25	ST 751	土師器 亂							ナラナメ	RQ 542	
49 3	21 25	ST 751	土師器 亂							ナラナメ		
49 4	21 25	ST 751	土師器 亂							ナラナメ	RQ 542	
49 5	35 13		ST 751	石製品 磨玉						ナラナメ		
49 6			ST 751	土師器 亂						ナラナメ	RQ 542	
49 7	35 15		ST 751	石製品 磨玉						ナラナメ		
49 8			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 9			ST 751	土師器 亂						ナラナメ	RQ 542	
49 10			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 11			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 12			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 13			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 14			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 15			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 16			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 17			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 18			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 19			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 20			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 21			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 22			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 23			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 24			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 25			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 26			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 27			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 28			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 29			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 30			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 31			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 32			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 33			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 34			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 35			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 36			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 37			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 38			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 39			ST 751	土師器 亂						ナラナメ		
49 40			ST 751	土師器 亂		</						

表9 板橋2遺跡出土土器觀察表（5）

種別	固有名	グリッド	通称番号	範囲	目録	学名	調査特徴	採集方法	備考	植物番号		
49	草本	21	25	ST 781	越冬	沈氏油草	内面付着物	木本	木本	RP 567		
63	1	36	7	19	21	ST 755	土師	高木	内面付着物	RP 567		
63	2	36	5	19	22	ST 723	土師	垂	内面付着物	RP 570		
55	3	36	6	19	21	ST 755	土師	莎	内面付着物	RP 566		
53	4					ST 755	土師	莎	(32) 内外ナデ			
53	5					ST 755	土師	莎	外ナハメ			
53	6					ST 755	土師	莎	外ナハメ			
53	7					ST 755	土師	莎	内付ナデ			
53	8					ST 755	土師	莎	内付ナデ			
53	9	36	5	19	21	ST 755	土師	莎	(60) 内外ナデ	外側壓		
57	1	36	6	19	21	ST 755	土師	莎	(110) 外側壓	内面壓		
57	1					SK 84	土師	莎	(38) 内外ナメナデ	畫母		
57	2	37	1			SK 84	土師	莎	外ミナギ	外既耗		
57	3					SK 84	土師	莎	内付ナデ	内外ナデ		
57	4	37	3			SK 84	土師	莎	(129) ケズリ丸底	ケズリ丸底		
57	5					SK 84	土師	莎	内付ナデ	KEZURI		
57	6	37	2			SK 84	土師	莎	(133) ケズリ丸底	KEZURI		
57	7					SK 84	土師	莎	内付ナメナデ	KEZURI		
57	8					SK 84	土師	莎	内付ナデ	KEZURI		
57	9					SK 84	土師	莎	内付ナデ	KEZURI		
57	10					SK 84	土師	莎	(188) 内付ナメナデ	KEZURI		
57	11					SK 84	土師	莎	20 内付ナメナデ外輪	KEZURI		
57	12					SK 84	土師	莎	64 内付ナデ	KEZURI		
57	13					SK 84	土師	莎	内ハメ外ナハメ	KEZURI		
58	1	20	22	SK 660	土師	莎	(180) (197) (117)	内ハメナメナデ	内側底 内面既耗	RP 569		
58	2	38	2	SK 660	土師	莎	(119) (120) (60) 97	内ハメナデナデ	内側底 平底	RP 360		
58	3			SK 660	土師	莎	(140)	内付ナデ	内面既耗	RP 369		
58	4			SK 660	土師	莎	(159)	内ハメナメハメナデ	内面車軸	RP 370		
58	5	38	3	20	21	SK 660	土師	莎	(129) (78) (54) 67	内ミハメ外ハメナ	内付既耗	RP 370
58	6			SK 660	土師	莎	(190)	ミガキ	内付既耗	RP 370		
58	7	38	1	20	22	SK 660	土師	莎	124 (105)	二重口縫	内付既耗 内面既耗	RP 568
58	8			SK 660	土師	莎	(126)	内ミハメナデ	内付既耗	RP 568		
58	9	25	15	20	21	SK 660	土師	莎	(41) 勃起状冠	畫母	内付既耗 後期	RP 568
59	1	21	16	SK 764	土師	莎	(173)	(36) ナミミガキ	内付既耗	RP 500		
59	2			SK 764	土師	莎	(174)	外ミガキ	内付既耗	RP 500		
59	3	38	5	21	16	SK 764	土師	莎	(137) (131)	内付ナメナデ	内付既耗	RP 502
59	4			SK 764	土師	莎	(138) (80)	内付ナメナデ	外側色土植物	RP 502		
59	5			SK 764	土師	莎	(178)	(38) 内ハメナデ	内付既耗	RP 502		
59	6			SK 764	土師	莎	(179)	另ミガキ	内付既耗	RP 501		
59	7			SK 764	土師	莎	(82)	内付ナデ	内付既耗			
59	8			SK 764	土師	莎	(52)	内付ナデ	内付既耗			
59	9	21	26	SK 764	土師	莎	(168) (41)	内付既耗	既耗物質			
59	10			SK 764	土師	莎	(120)	30 内ハメナデ	既耗物質			
59	11	21	16	SK 764	土師	莎	(140)	(42) 内付ナデ	既耗物質			
59	12	37	4	SK 764	土師	莎	(82)	内付ナデ	既耗物質			
59	13			SK 764	土師	莎	(82)	内付ナデ	内付既耗			
59	14			SK 764	土師	莎	(74)	内アラ根外クサ	平掌	RP 503		
60	1	36	18	SK 872	土師	莎	(41)	沈氏油草	内面既耗 地周	RP 500		
60	2			SK 872	土師	莎	(22)	内付ナデ	内付既耗	RP 575		
60	3	18	22	SK 872	土師	莎	(70)	(37) 内外ナメナデ	外面煤	RP 574		
60	4			SK 872	土師	莎	(23)					

表 10 板橋 2 遺跡出土土器觀察表 (6)

番号	国別	グリッド	道番号	神別	区種	口種	脚種	底種	高さ	測量特徴	施設特徴	参考	道番号
60 3		18 22	SK 872	土脚器	壺	-	(160)		(45)	内ナメ外ハメナメダ	外施設 外面塗	RP 575	
60 4	36 9	18 22	SK 872	土脚器	壺	(160)	(234)	(110)	内ナメ外ハメナメダ	外面塗		RP 573	
60 5		18 22	SK 872	土脚器	壺			(56)	内ナメナメ	輪台		RP 574	
60 6		18 22	SK 872	土脚器	壺			(62)	(27)	内ナメナメ	輪台 内面塗	RP 574	
60 7	73 55		SK 872	石臼品	石臼	内鋸	外鋸	高さ			凝灰岩質		
61 1	37 6	SK 95	土脚器	壺	(50)	77	15				全体に黒化耐食性	RP 31	
61 2		SK 95	土脚器	壺	(106)	(66)	(93)			内ナメナメダ	外施設	RP 30	
61 3	37 7	SK 95	土脚器	壺	146	22	47			内ナメナメナメ	単色の砂粒	RP 16	
61 4	38 6	SK 218	土脚器	壺	136	55	66			内ナメナメ	輪台	RP 3	
61 5	38 4	25 22	SK 218	土脚器	壺			(75)	内ナメナメナメナメ	輪台		RP 3	
61 6	54 8	14 49	SK 211	頭脚器	壺	(116)	(58)	(29)			内面塗		
61 7	54 2	SK 211	頭脚器	壺			(70)	(16)	内ナメナメ	窓切			
61 8		SK 211	頭脚器	壺				(35)					
61 9	54 3	SK 211	頭脚器	壺						内面塗 藤器外側面			
61 10	54 8	14 49	SK 212	頭脚器	壺	(128)		(23)			内鉄灰		RP 5
61 11	54 5	15 47	SK 211	頭脚器	壺	(130)		(30)	内ナメナメ		海綿様子		
61 12	13 49	SK 212	土脚器	壺	(138)		(30)					RP 7	
61 13	54 1	13 49	SK 212	土脚器	壺	(132)	(68)	51	内ミガキ	静止承切	外面摩耗 内黒	RP 7	
61 14	13 49	SK 212	土脚器	壺	(130)			(32)	内ナメナメガキナメナ		内黒	RP 7	
62 1	41 1	21 28	SK 737	土脚器	壺	(202)	117	(120)			外施設		RP 517
62 2	41 3	21 29	SK 737	土脚器	壺	(126)		58	内ナメ外ハメナメダ	ケズリ丸底	外施設 外面非影付耐物	RP 582	
62 3	41 2	21 28	SK 737	土脚器	壺		50	(18)	外ナメ	ケズリ丸底	外施設 底部ヘラ巻き	RP 517	
62 4		21 28	SK 737	土脚器	壺	(174)		(33)	内ナメナメナメナメ		外面塗	RP 517	
62 5	40 11	21 28	SK 737	土脚器	壺	(84)	(85)	(46)	94	内ナメナメ	外面摩耗 壁内面熱	RP 517	
62 6	17 23	SD 888	土脚器	壺	(182)			(63)	内ナメナメ			RP 505	
62 7	20 8	17 23	SD 888	土脚器	壺	(183)		(44)	外ナメナメ			RP 577	
62 8		16 25	SD 888	土脚器	壺	(206)	(62)	(126)					RP 505
62 9	39 10	17 23	SD 888	土脚器	壺				内ナメ外ミガキ		蓋母 外面摩耗	RP 577	
62 10		16 25	SD 888	土脚器	壺				蓋母 目皿				RP 505
62 11		17 23	SD 888	土脚器	壺		(170)	(28)			内施設		
62 12		16 25	SD 888	土脚器	壺				蓋母 目皿		内外焼窯 内外焼窯	RP 507	
62 13		16 25	SD 888	土脚器	壺				内ナメナメ		外面塗	RP 506	
62 14		17 23	SD 888	土脚器	壺				内ナメナメ		外面焼窯型		
62 15	39 6	16 25	SD 888	土脚器	壺	(100)		(57)	内ナメ外ハメナメダ		内施設	RP 507	
62 16		16 25	SD 888	土脚器	壺				内ナメナメ		内施設 外面未塗	RP 505	
62 17	39 9	16 24	SD 888	土脚器	壺	(31)	(80)				外施設		
62 18	39 7	16 25	SD 888	土脚器	壺	(169)		(49)	内ナメナメ		内施設 内外焼窯	RP 506	
62 19		23 4	SD 888	土脚器	壺			106	(207)	LR	平底		RP 11
63 3		23 4	SD 888	土脚器	壺	(28)	次鉢	(46)	(46)	LR	内面焼窯 残周		
63 4		21 30	SD 888	土脚器	壺	(190)		(54)	外ナメナメ		外施設 内外焼窯	RP 538	
63 5		23 30	SD 888	土脚器	壺	(161)		(68)	内ナメナメナメナメ		蓋母 外面焼窯 口縁部押	RP 538	
63 6		21 30	SD 888	土脚器	壺				ナメナメナメ		のれの焼付耐		
64 1		SD 40	土脚器	壺							蓋の可動性あり	RP 538	
64 2		SD 40	土脚器	壺							内施設 外面赤絵		
64 3	39 2	21 36	SD 40	土脚器	壺	(142)		(57)	内ナメナメナメ		内面焼窯 色仕上	RP 543	
64 4		22 37	SD 40	土脚器	壺	(150)		(45)	内ナメナメ		外面焼窯		
64 5		SD 40	土脚器	壺				(32)	(32)		内面焼窯		

表 11 板橋2遺跡出土土器觀察表(7)

辨識	規格	グリッド	遺跡番号	種類	器形	口径	縫隙	底径	壁高	調査特徴	底部技法	備考	遺物番号
64 6	SD 40	土師器 瓢	(51)	(38)	内ハネナメ					外施底			
64 7	23 38	SD 40	土師器 瓢							内施底			
64 8	18 38	SD 40	土師器 瓢	(131)						内ナメハケメ外ナメ			
64 9	39 1	SD 40	土師器 瓢	(168)	(58)					内ナメハケメ外ハケメナメ			
64 10	17 36	SD 40	土師器 瓢	64						輪台ケツリ平底			
64 11	39 3	18 38	SD 40	土師器 瓢	(227)	(63)				輪台ケツリ斜ハ			
64 12	SD 40	板塗器 高合板	(144)	(93)	51					輪台ケツリ平底			
65 1	39 4	SD 106	土師器 瓢	(225)	251 (195)	(267)				内ナメナメ	張付	前面骨付	
65 2	39 5	SD 106	土師器 瓢	(240)	260					内ナメナメ		内面施底	
66 1		SD 106	土師器 瓢	(211) (244)	(225)					内ナメナメ		内面施底 外施底	
66 2		SD 106	土師器 瓢	(260) (287)	(197)					内ナメナメ		内施底	
67 1		SD 106	土師器 瓢	(173) (218)						内ナメナメ		内ナメナメ	
67 2		SD 106	土師器 瓢	(291)						内ナメナメ		外施底 内面付着物	
68 1	20 24	SD 765	土師器 高环	(167)	(52)					内ナメナメ		蓋母	RP 510
68 2	18 23	SD 765	土師器 高环							内ナメナメ			
68 3		SD 765	土師器 高环							内ナメナメ			
68 4	18 22	SD 765	土師器 高环	(142)						内ナメナメ			
68 5	18 23	SD 765	土師器 高环							内ナメナメ			
68 6	40 6	20 24	SD 765	土師器 高环	(77)					内ナメナメ		内ナメナメ	RP 572
68 7	20 24	SD 765	土師器 高环	(58)	(75)					内ナメナメ		蓋母	RP 510
68 8		SD 765	土師器 高环		(33)					内ナメナメ			
68 9		SD 765	土師器 高环	(155)	(33)					内ナメナメ			
68 10	40 7	18 23	SD 765	土師器 高环	(190)	(29)				内ナメナメ			
68 11	40 9	SD 765	土師器 高环	(150)	(53)					内ナメナメ			
68 12	19 23	SD 765	土師器 高环	(140)						内ナメナメ		内施底 外施底 蓋母	RP 75
68 13	40 10	19 23	SD 765	土師器 高环	(130)					内ナメナメ		内ナメナメ	
68 14	18 23	SD 765	土師器 高环	(140)						内ナメナメ		内面付着物	
68 15	19 23	SD 765	土師器 高环		(37)					内施底		内面施底	
68 16	21 24	SD 765	土師器 高环		(53)					内ナメナメ		内外赤色土被	
68 17	20 23	SD 765	土師器 高环							内ナメナメ			
68 18	21 24	SD 765	土師器 高环	(150)						内ナメナメ			
68 19	5	19 23	SD 765	土師器 高环	(61)	(74)				蓋母		内面施底	
68 20		SD 765	土師器 高环							内ナメナメ		内外赤色土被	
68 21	49 4	21 24	SD 765	土師器 ダブくね	89	(40)				内ナメナメ		口縫隙付底	
68 22		21 24	SD 765	土師器 ダブくね	(55) (64)	(26)				内ナメナメ		外施底	
68 23	40 5	18 23	SD 765	土師器 ダブくね	(32) (26)	(19)				内ナメナメ			
68 24		23 25	SD 765	土師器 ダブくね						外施底			
68 25	17 22	SD 765	土師器 ダブくね							内ナメナメ			
69 1		17 22	SD 765	土師器 瓢						内ナメナメ			
69 2		21 24	SD 765	土師器 瓢						内ナメナメ			
69 3		21 24	SD 765	土師器 瓢						内ナメナメ		内ナメナメ外ナメ	
69 4			SD 765	土師器 瓢						内ナメナメ		外施底	
69 5	21 24	SD 765	土師器 瓢		(133) (54) (64)					内ナメナメ		外施底	
69 6	23 24	SD 765	土師器 瓢							内ナメナメ		内面施底	
69 7	40 2	20 24	SD 765	土師器 瓢		(133)	(54) (64)			輪台ケツリ平底		内面施底	RP 526
69 8	18 23	SD 765	土師器 瓢		60 (18)					輪台ケツリ丸底		内面施底 外施底	
69 9	21 24	SD 765	土師器 瓢		(35) (35)					輪台ケツリナメ		外施底	
69 10	23 24	SD 765	土師器 瓢		(29)					輪台ケツリ平底		外施底	
69 11	23 24	SD 765	土師器 瓢		(33)					輪台ケツリナメ		内面施底	
69 12	18 23	SD 765	土師器 瓢		(140) (125)	(61)				輪台ケツリナメ外ハナメ		外施底	
69 13	21 24	SD 765	土師器 瓢							内ナメナメ			
69 14	22 24	SD 765	土師器 瓢		(78)					内ナメナメ			
69 15	40 3	18 22	SD 765	土師器 瓢	(132) (149)	26 (217)				内ナメナメ		内面施底 内面付着物	
		30 23			24								

表 12 板橋2遺跡出土土器觀察表(8)

辨識	規格	グリッド	遺跡番号	種類	器形	口径	縫隙	底径	壁高	調査特徴	底部技法	備考	遺物番号
69 16	30	24	SD 765	土師器 瓢	(202)					内外ナメ		内面付着物 外施底	RP 510
69 17			SD 765	土師器 瓢	(279)					内ナメハナメ			
69 18	20	24	SD 765	土師器 瓢						外ナメハナメナメ		外面施底	RP 510
										外ナメハナメナメ			
69 19	19 40 1	21 24	SD 765	土師器 瓢	153							外施底	RP 521
72 1	25 25	15 12	SD 325	輪台	深井					(24) 口縫隙変形		大木3a	
72 2	25 31	15 12	SG 325	輪台	深井					内ナメ口縫隙		外面施底付着物 大木2a	
72 3	25 22	15 13	SG 325	輪台	直					変形			
72 4	25 42	17 12	SG 325	輪台	直					RL 作成北端直		内面施底	
72 5	25 17	SG 325	輪台	直						外施底			
72 6	25 35	15 12	SG 325	輪台	深井					外施底熱付着物		口縫隙北端直	
72 7	25 32	15 12	SG 325	輪台	深井					外施底熱付着物		輪台2285.0と同一個体	
72 8	25 38	15 12	SG 325	輪台	深井					外施底熱付着物		輪台2285.0と同一個体	
72 9	25 36	SG 325	輪台	直						LR 体部北端直		外施底熱付着物	
72 10	25 35	14 11	SG 325	輪台	直					LR 体部北端直		外施底熱付着物	
72 11	25 39	15 12	SG 325	輪台	直					LR 体部北端直		外施底熱付着物 晚用中葉 第7285.0と同一個体	
72 12		SG 325	輪台	直						外施底		外施底 晩用中葉 第7285.0と同一個体	
72 13	25 41	15 12	SG 325	輪台	直					内ナメナメ		外施底 晩用中葉 第7285.0と同一個体	
72 14	25 16	SG 325	輪台	直						外施底		外施底熱付着物 大木 A	
72 15	25 17	SG 325	輪台	口縫隙	(71) (118)					外施底		外施底 大木A	RP 438
72 16	25 20		SG 325	輪台						外施底			
72 17	25 19	15 13	SG 325	輪台	直					外施底			RP 106
72 18	25 21	18 13	SG 325	輪台	直					外施底		外施底付着物 大木 A	
72 19		SG 325	輪台	直	(239)					内ナメナメ		輪台骨付 内面施底	
72 20	20 13	SG 325	輪台	直	136					外施底		外施底	RP 186
72 21	23 23	19 13	SG 325	輪台	(190) (201)	74	174	LR		外施底		外施底熱付着物	RP 185
72 22	19 13	SG 325	輪台	直	272					外施底		外施底熱付着物	RP 170
73 1	19 13	SG 325	輪台	直	(400)					外施底		外施底	RP 172
73 2	16 13	SG 325	輪台	直						外施底			
73 3	25 30	15 11	SG 325	輪台	直					(30) 陰嚢に交差例直		外施底	
73 4	25 40	16 12	SG 325	輪台	直					LR直			
73 5	16 13	SG 325	輪台	直						後帶 LR直			
73 6	16 13	SG 325	輪台	直	(63)					内ナメナメ		内面赤彩 第7385.0と同一個体	
73 7	16 13	SG 325	輪台	直	(39)					外施底		外施底 第7385.0と同一個体	
73 8	16 13	SG 325	輪台	直	(280)					外施底		外施底熱付着物 RL直	
												外施底熱付着物 RL直	RP 380
73 9	16 13	SG 325	輪台	直	(29)					外施底		外施底 第7385.0と同一個体	RP 384
73 10	16 13	SG 325	輪台	直	(60)					外施底			

表 13 板橋 2 遺跡出土土器觀察表（9）

序番	面番	グリッド	遺物番号	種類	器形	口径	脚形	底高	調整特徴	施塗技法	備考	遺物番号		
73 9	36	55 16	SG 328	灰生	壺	(59)	(30)		外底延 布丁脚と同一側					
73 10	26	54 17	SG 325	灰生	深鉢	(226)			沈縫斜脚 RECL底					
73 11	25	17	SG 325	灰生	深鉢				内底延 布丁脚と同一側	RP 380				
73 12	24	9 18	SG 325	不明	甕	(199)			条縫斜脚 RL底	RP 380				
73 12	24	9 18	SG 325	不明	甕	(97)			甕帶縫目	外内付垂物。	RP 304			
74 1	51	5 13	SG 325	土師器	高环	168	(92)	116	内外ナメテ	内付付垂物				
74 2	52	1 17	SG 325	土師器	高环	(169)	(117)	(124)	内ナメテナメミガキ	RP 319				
									ナメミガキ	330				
									ナメミガキ	345				
74 3	50	16	17	SG 325	土師器	高环	(162)		(139) 外ハケミガキ	内付垂物。	RP 330			
									ナメミガキ	335				
									ナメミガキ	347				
74 4	52	2	24	18	SG 325	土師器	高环	(170)	(96)	(145) 内外ナメテ	内外被熱垂物	RP 325		
									ナメミガキ	344				
74 5	15	11	SG 325	土師器	高环	(180)			外焼底 内外ナメテ	RP 374				
									ナメミガキ	344				
74 6	14	11	SG 325	土師器	高环	177			内ナメテナメミガキ ハケミ	内付垂物。				
74 7	11	14	11	SG 325	土師器	高环	(209)	(95)		内付垂物。				
74 8	52	8		SG 325	土師器	高环	(229)		(76) 内ナメミガキナメテ	内付垂物。				
74 9	16	13	SG 325	土師器	高环	221			内ナメミガキナメテ	内付垂物。	RP 359			
74 10	52	24	16	SG 325	土師器	高环	(214)		(57) 内ナメミガキナメテ	内付垂物。	RP 247			
									ナメミガキ	249				
74 11	24	18	SG 325	土師器	高环	(200)			内ナメミガキナメテ	内付垂物。				
74 12	16	12	SG 325	土師器	高环	(190)			内ナメミガキナメテ	ケズリ丸底	RP 335			
									ナメミガキ	344				
									ナメミガキ	347				
75 1	25	17	SG 325	土師器	高环	(210)	(50)		内内外ナメテ	内付垂物。				
75 2	14	10	SG 325	土師器	高环	(186)	(62)		内ナメテナメミガキ	内付垂物。	RP 434			
75 3	24	16	SG 325	土師器	高环	176			内ナメミタナメテナメテ					
75 4	24	16	SG 325	土師器	高环	(180)			内ナメミタナメテナメテ					
									ナメミガキ					
75 5	15	11	SG 325	土師器	高环	(193)	(54)		内ナメミタナメテ	内付垂物。内脚部	RP 374			
75 6	18	13	SG 325	土師器	高环	(100)	(53)		内ナメテナメミガキ	内付垂物。内脚部	RP 318			
75 7	18	13	SG 325	土師器	高环	180	(46)		内ナメテナメテ	外焼底	RP 318			
75 8	24	16	SG 325	土師器	高环	(182)	(50)		内ナメテナメテ	内付垂物。内脚部				
75 9	24	16	SG 325	土師器	高环	(142)	(53)		内ナメミタナメテナメテ	内付垂物。	RP 400			
75 10			SG 325	土師器	高环	(180)	(58)		内ナメミタナメテナメテ	内付垂物。	RP 341			
75 11	25	17	SG 325	土師器	高环	(151)			高环有孔に転用供耕物		375			
									ナメミガキ					
75 12	32	7	24	16	SG 325	土師器	高环	204	(70) 内ナメミタナメテ	内ナメミタナメテ	RP 278			
									ナメミガキ					
75 13	22	15	SG 325	土師器	高环	(142)	(99)		内ナメミガキ	内付垂物。	RP 330			
75 14	24	16	SG 325	土師器	高环	(120)			内ナメミガキ					
75 15	25	17	SG 325	土師器	高环	142	(53)		内ナメミタナメテ	内付垂物。	RP 416			
75 16	51	3	18	25	SG 325	土師器	高环	53	(53) 内ナメミタナメテ	内付垂物。				
75 17									ナメミガキ					
75 18									ナメミガキ					
75 19									ナメミガキ					
75 20									ナメミガキ					
75 21									ナメミガキ					
75 22									ナメミガキ					
75 23									ナメミガキ					
75 24									ナメミガキ					
75 25									ナメミガキ					
75 26									ナメミガキ					
75 27									ナメミガキ					
75 28									ナメミガキ					
75 29									ナメミガキ					
75 30									ナメミガキ					
75 31									ナメミガキ					
75 32									ナメミガキ					
75 33									ナメミガキ					
75 34									ナメミガキ					
75 35									ナメミガキ					
75 36									ナメミガキ					
75 37									ナメミガキ					
75 38									ナメミガキ					
75 39									ナメミガキ					
75 40									ナメミガキ					
75 41									ナメミガキ					
75 42									ナメミガキ					
75 43									ナメミガキ					
75 44									ナメミガキ					
75 45									ナメミガキ					
75 46									ナメミガキ					
75 47									ナメミガキ					
75 48									ナメミガキ					
75 49									ナメミガキ					
75 50									ナメミガキ					
75 51									ナメミガキ					
75 52									ナメミガキ					
75 53									ナメミガキ					
75 54									ナメミガキ					
75 55									ナメミガキ					
75 56									ナメミガキ					
75 57									ナメミガキ					
75 58									ナメミガキ					
75 59									ナメミガキ					
75 60									ナメミガキ					
75 61									ナメミガキ					
75 62									ナメミガキ					
75 63									ナメミガキ					
75 64									ナメミガキ					
75 65									ナメミガキ					
75 66									ナメミガキ					
75 67									ナメミガキ					
75 68									ナメミガキ					
75 69									ナメミガキ					
75 70									ナメミガキ					
75 71									ナメミガキ					
75 72									ナメミガキ					
75 73									ナメミガキ					
75 74									ナメミガキ					
75 75									ナメミガキ					
75 76									ナメミガキ					
75 77									ナメミガキ					
75 78									ナメミガキ					
75 79									ナメミガキ					
75 80									ナメミガキ					
75 81									ナメミガキ					
75 82									ナメミガキ					
75 83									ナメミガキ					
75 84									ナメミガキ					
75 85									ナメミガキ					
75 86									ナメミガキ					
75 87									ナメミガキ					
75 88									ナメミガキ					
75 89									ナメミガキ					
75 90									ナメミガキ					
75 91									ナメミガキ					
75 92									ナメミガキ					
75 93									ナメミガキ					
75 94									ナメミガキ					
75 95									ナメミガキ					
75 96									ナメミガキ					
75 97									ナメミガキ					
75 98									ナメミガキ					
75 99									ナメミガキ					
75 100									ナメミガキ					
75 101									ナメミガキ					
75 102									ナメミガキ					
75 103									ナメミガキ					
75 104									ナメミガキ					
75 105									ナメミガキ					
75 106									ナメミガキ					
75 107									ナメミガキ					
75 108									ナメミガキ					
75 109									ナメミガキ					
75 110									ナメミガキ					
75 111									ナメミガキ					
75 112									ナメミガキ					
75 113									ナメミガキ					
75 114									ナメミガキ					
75 115									ナメミガキ					
75 116									ナメミガキ					
75 117									ナメミガキ					
75 118									ナメミガキ					
75 119									ナメミガキ					
75 120									ナメミガキ					
75 121									ナメミガキ					
75 122									ナメミガキ					
75 123									ナメミガキ					
75 124									ナメミガキ					
75 125									ナメミガキ					
75 126									ナメミガキ					
75 127														

表15 板橋2遺跡出土土器觀察表(11)

番号	形態	グリッド	遺跡番号	種別	副種	口径	脚径	底径	厚さ	調査特記	施術技法	備考	遺物番号
78 13 51 7	22 14	SG 325	土師器	器台		(60)				内ナテ外ミガキ	外面部磨、半月彫竹状 工具の穿孔、穿孔3ヶ所		
78 14 50 8	14 11	SG 325	土師器	器台		(36)				内ナテメダ	内外施墨		
78 15 25 18	18 17	SG 325	土師器	器台		(35)				内ナテメダ	内外施墨		
78 16 25 17	17 16	SG 325	土師器	器台		(60)	(46)			内ナテメダ	内外施墨		
78 17 52 5	24 18	SG 325	土師器	高环		(16)	(41)			内ナテ外ミガキ	穿孔3つ以上、4つ以下 シルバーライン		
78 18 51 9	25 17	SG 325	土師器	器台		(188)	(70)			内ナテメダ外ミガキ	外面部、内面底、穿孔 8ヶ所有り、上段、下段 に分かれ	RP 392	
78 19 20 13	13 14	SG 325	土師器	器台						内面	内焼成		
78 20 24 18	18 17	SG 325	土師器	器台		(80)				内ナテ外ハケメダ	内外施墨		
78 21 25 19	18 17	SG 325	土師器	器台		(90)				内ナテメダ	内外施墨		
78 22 50 7	21 14	SG 325	土師器	器台		(83)				内ナテ外ハケメダ	内外施墨、外底部磨		
79 1 50 3	19 13	SG 325	土師器	器台		(138)				内ナテメダ	内焼成、外底部磨	RP 234	
79 2	24 16	SG 325	土師器	环		(140)				内ナテ外ハケメダ ナテメダ	ケズリ丸底 内外施墨		
79 3	16 13	SG 325	土師器	环		(135)				内ナテ外ハケメダ	外底部、内面磨、高环	RP 347	
79 4	25 18	SG 325	土师器	环		(150)				内カキ外ナテ	内外底部		
79 5	23 13	SG 325	土师器	环		(150)				内ナテ外ガタハ ケズリ丸底	聯合ケズリ丸底 内底部磨、外底部、内外 施墨		
79 6	20 13	SG 325	土师器	环		(142)	46	(48)		内ナテ外ナテメダ	聯合ケズリ丸底 内外施墨	RP 281	
79 7	25 17	SG 325	土师器	环		(138)	45	(45)		内ナテ外ハケメダ外 ナタメダ	聯合ケズリ丸底 内外施墨、外底部ラ ウダ		
79 8	21 13	SG 325	土师器	环		(140)				内ナテメダ	内外施墨、内面施墨		
79 9	24 16	SG 325	土师器	环		(189)				内ナテメダ	内外施墨、外底部 高环	RP 280	
79 10	24 16	SG 325	土师器	环		(160)				内ナテ外ハ	外底部、内面施墨		
79 11	24 16	SG 325	土师器	环		(145)				内ナテ外ハ	内焼成	RP 276	
79 12	25 17	SG 325	土师器	环		(140)				内ナテ外ハ	内底部、内面施墨		
79 13	25 17	SG 325	土师器	环		(134)				内ナテ外ハナタメダ	聯合ケズリ丸底 内焼成		
79 14	24 16	SG 325	土师器	环		(136)				内ナテ外ハ	外底部、内面施墨	RP 451	
79 15	25 17	SG 325	土师器	环		(136)				内ナテ外ハ	内底部、外底部、内 面施墨		
79 16	25 17	SG 325	土师器	环		(136)				内ナテ外ハ	聯合ケズリ丸底 内焼成	RP 399	
79 17	14 16	SG 325	土师器	环		(153)				内ナテ外ハ	内外施墨		
79 18	25 17	SG 325	土师器	环		(129)				内ナテ外ハ	内焼成	RP 209	
79 19	25 17	SG 325	土师器	环		(160)				内ナテ外ナミ	外底部	RP 427	
79 20	25 18	SG 325	土师器	环		(110) (118) (141) ?	70			内ナテ外ナメダ	内外施墨、内面磨	RP 391	
79 21	25 18	SG 325	土师器	环		(150)				内ナテメダ	ケズリ丸底 内面施墨、内面磨		
79 22	15 12	SG 325	土师器	环		(168)				内ナテメダ	ケズリ丸底 内面施墨	RP 328	
79 23	24 17	SG 325	土师器	环		(148)				内ナテ外ナメダ	内外施墨		
79 24	16 12	SG 325	土师器	环		(144)				内ナテ外ハ	内焼成	RP 334	
80 1	50 1	24 16	SG 325	土师器	环	(149)				内ナテ外ハ	ケズリ丸底		
80 2	14 11	SG 325	土师器	环		(132)	64	54		内ナテ外	内底部、外底部、内 面施墨	RP 327	
80 3	22 15	SG 325	土师器	环		(144)				内ナテ外ハ	ケズリ丸底 内焼成	RP 206	
80 4	18 13	SG 325	土师器	环		(200)				内ナテ外	ケズリ丸底		
80 5	22 13	SG 325	土师器	环		(33)				内ナテ外ミガキ	ケズリ丸底 底部、外底部、底部ラ ウダ		
80 6	22 14	SG 325	土师器	环						内ナテ外ハ	ケズリ丸底 底部ラウダ		
80 7	22 14	SG 325	土师器	环						内ナテ外ハ	ケズリ丸底 底部ラウダ		
80 8	20 12	SG 325	土师器	环						内ナテ外	内底部、底部ラウダ		

表16 板橋2遺跡出土土器觀察表(12)

番号	形態	グリッド	遺跡番号	種別	副種	口径	脚径	底径	厚さ	調査特記	施術技法	備考	遺物番号
80 9	16	16	SG 325	土師器	环	(15)					外ナテナメダ	ケズリ丸底 底部へ音	RP 334
80 10	25	17	SG 325	土師器	环	(36)					内ナテ	底部ラウダ	
80 11	11	42	1	25	17	SG 325	土師器	环	145	150	(110)	内ナテ外ナメダ	内焼成、外底部
80 12	43	1	25	18	SG 325	土師器	环	134	149	(100)	内ナテ外ナメダ	内焼成	RP 360
80 13	25	17	SG 325	土師器	环	(130) (114)				(83)	内ナテ外ナメダ	外底部	RP 397
80 14	26	17	SG 325	土師器	环	(150)				(46)	内ナテ外ハメダ	内焼成、外底部、内面施墨	RP 363
80 15	21	13	SG 325	土師器	环	(128)				(51)	内ナテ	外底部	RP 360
81 1	42	3	24	16	SG 325	土師器	环	(177) (232)	45	276	内ナテ外メダ	輪台ケズリ小平底 外底部付着物	
81 2	42	4	24	16	SG 325	土師器	环	(209) (238)	(46) (225)	内ナテ外ハメダ	ケズリ小平底 内焼成付	RP 219	
81 3	25	17	SG 325	土師器	环	(17)					内ナテ	外底部	RP 250
81 4	13	4	24	16	SG 325	土師器	环	(120) (154)	(36)	内ナテ外ハメダ	内焼成、外底部ラウダ 外ハメド	RP 181	
81 5	19	12	SG 325	土師器	环	(130) (114)				84	内ナテ外ナメダ	外底部	RP 350
81 6	15	12	SG 325	土師器	环	(212) (230)	(84)			内ナテ外メダ	外底部	RP 332	
82 1	16	13	SG 325	土師器	环	(189) (245)	(177)			内ナテ外メダ	内焼成	RP 182	
82 2	25	17	SG 325	土師器	环	(190)				(56)	内ナテ外メダ	内焼成	
82 3	21	13	SG 325	土師器	环	(178)				(70)	内ナテ外ハメダ	外底部	
82 4	14	11	SG 325	土师器	环	(164) (224)				(112)	内ナテ外ハメダ	外底部	RP 327
82 5	25	17	SG 325	土师器	环	(192)				(81)	内ナテ外ハメダ	内焼成付物	
82 6	42	5	25	17	SG 325	土师器	环	211	244	274	内ナテ外メダ	ケズリ丸底 内焼成	RP 180
82 7	25	17	SG 325	土师器	环	(179)				(54)	内ナテ外メダ	内焼成、外底部	RP 367
82 8	25	17	SG 325	土师器	环	(400)				(125)	内ナテ外メダ	外底部	RP 428
83 1	44	3	24	17	SG 325	土师器	环	251	69	(228)	内ナテ外メダ	外底部、外焼成付物	RP 126
83 2	43	3	25	17	SG 325	土师器	环	(164)		内ナテ外ハメダ	外底部	RP 211	
83 3	25	18	SG 325	土师器	环	(170)				(46)	内ナテ外メダ	内焼成	
83 4	21	13	SG 325	土师器	环	(165)				(85)	内ナテ外メダ	外底部	
83 5	25	18	SG 325	土师器	环	(142) (176)				内ナテ外メダ	内焼成		
83 6	24	16	SG 325	土师器	环	170				75	内ナテ外メダ	内焼成	RP 443
83 7	24	16	SG 325	土师器	环	(222)				(67)	内ナテ外ハメダ	内焼成	
83 8	22	14	SG 325	土师器	环	(169)				(40)	内ナテ外ハメダ	内焼成	RP 164
83 9	26	17	SG 325	土师器	环	(189)				(50)	内ナテ外ハメダ	内焼成	
83 10	18	13	SG 325	土师器	环	199	150			(120)	内ナテ外ハメダ	内焼成	RP 145
84 1	21	13	SG 325	土师器	环	(140) (172)	(131)			内ナテ外メダ	外底部	RP 261	
84 2	15	11	SG 325	土师器	环	(150)				(42)	内ナテ	指痕痕	RP 183
84 3	25	17	SG 325	土师器	环	(140)				(42)	内ナテ	外底部	RP 206
84 4	22	15	SG 325	土师器	环	(160)				内ナテ	外ハメダ	内焼成	
84 5	21	12	SG 325	土师器	环	(153)				内ナテ外ハメダ	内焼成	RP 267	
84 6	24	16	SG 325	土师器	环	(164) (173)				10	内ナテ外ハメダ	内焼成	RP 250
84 7	21	13	SG 325	土师器	环	(182) (168)	(102)			内ナテ外ハメダ	外底部	RP 269	
84 8	21	13	SG 325	土师器	环	(152)				(75)	内ナテ外ハメダ	外底部	RP 138
84 9	14	11	SG 325	土师器	环	(249)				内ナテ外ハメダ	内焼成	234	
84 10	15	12	SG 325	土师器	环	(152)				内ナテ外ハメダ	内焼成		
84 11	24	15	SG 325	土师器	环	(180)				(35)	内ナテ外ハメダ	外底部	RP 252
84 12	34	15	SG 325	土师器	环	(248)				(73)	内ナテ外ハメダ	外底部	RP 252

表 17 板橋2遺跡出土土器観察表(13)

種類	図版	グリッド	遺跡番号	鉢類	器種	口径	縦径	底径	高さ	調整特徴	底部特徴	備考	遺物番号
84 12	25	17	SG 325	土師器	甕	(158)	(55)	(55)	(55)	内ハラナメハメナメ	RP 198		
85 1	41 7	24	15 SG 325	土師器	甕	131	145	(86)	(86)	内ハラナメハメナメ	RP 251		
85 2	21	14	SG 325	土師器	甕	(160)	(170)	(84)	(84)	内ハラナメハメナメ	RP 135		
85 3	25	18	SG 325	土師器	甕	(103)	(113)	(41)	(41)	内ハラナメ外ハメナメ	外底堅	外底堅厚底内面摩耗	
85 4	24	15 SG 325	土師器	甕	(176)	(68)	(68)	(68)	内ハラナメナメナメ	内底堅	内底堅厚底内面摩耗		
85 5	24	18 SG 325	土師器	甕	(106)	(53)	(53)	(53)	内ハラナメナメ	内底堅	内底堅厚底内面摩耗		
85 6	24	18 SG 325	土師器	甕	(128)	(33)	(33)	(33)	内ハラナメハメナメ	外底堅	外底堅		
85 7	24	16 SG 325	土師器	甕	(150)	(44)	(44)	(44)	内ハラナメハメ	内底堅	内底堅		
85 8	85 7	43 7	SG 325	土師器	甕	(112)	(37)	(37)	(37)	内ハラナメナメハメ	内底堅	内底堅	
85 9	25	17 SG 325	土師器	甕	(189)	(40)	(40)	(40)	内ハラナメハメ	内底堅	RP 201		
85 10	24	18 SG 325	土師器	甕	(139)	(187)	(66)	(66)	内ハラナメナメナメ	内底堅	内底堅厚底内面付着物		
85 11	41 4	21	17 SG 325	土師器	甕	(120)	(159)	(91)	(91)	内ハラナメハメナメ	外底堅厚	外底堅厚	
85 12	21	13 SG 325	土師器	甕	(160)	(30)	(30)	(30)	内ハラナメナメハメ	外底堅厚	外底堅厚		
85 13	15 11	SG 325	土師器	甕		(40)	(40)	(40)	(40)	内ハラナメハメ	RP 375		
85 14	21	12 SG 325	土師器	甕		58	(58)	(58)	(58)	内ハラナメハメナメ	外底堅	RP 267	
85 15	16	13 SG 325	土師器	甕		(60)	(60)	(60)	(60)	内ハラナメハメ	外底堅		
85 16	41 5	25	17 SG 325	土師器	甕	(67)	(67)	(67)	(67)	内ハラナメハメ	外底堅	外底堅	
86 1	25	17 SG 325	土師器	甕	(149)	(186)	(86)	(86)	内ハラナメハメナメ	外底堅	RP 444		
86 2	25	17 SG 325	土師器	甕	(160)	(224)	(115)	(115)	内ハラナメナメナメ	内底堅	外底堅	RP 324	
86 3	44 1	18 13 SG 325	土師器	甕	(172)	(247)	(74)	(248)	内ハラナメハメナメ	輪台ケリ平底	外底堅	外底堅	RP 283
86 4	43 5	19 13 SG 325	土師器	甕	(116)	(142)	(54)	(150)	内ハラナメナメ外ハ	輪台ケリ平底	外底堅	外底堅厚底	288
86 5	24	18 SG 325	土師器	甕	(110)	(46)	(46)	(46)	内ハラナメナメハメ	内底堅			
86 6	21	13 SG 325	土師器	甕	(110)	(120)	(74)	(74)	内ハラナメナメナメ	内底堅			
86 7	24	15 SG 325	土師器	甕	(159)	(64)	(64)	(64)	内ハラナメナメハメ	内底堅			
86 8	17 12	SG 325	土師器	甕	(124)	(58)	(58)	(58)	内ハラナメハメナメ	内底堅	外底堅	RP 345	
86 9	45 6	17 12 SG 325	土師器	甕	132	134	165	165	内ハラナメナメ	ケズリ丸底	外底堅	外底堅厚底内面付着物	RP 345
86 10	42 2	21 16 SG 325	土師器	甕	116	120	35	113	内ハラナメナメナメ	ケズリ丸底	内底堅	内底堅	RP 410
86 11	16 13	SG 325	土師器	甕	(130)	(164)	(102)	(102)	内ハラナメハメナメ	ケズリ	内底堅	外底堅	RP 328
87 1	45 9	24 15 SG 325	土師器	甕	(181)	(254)	58	222	内ハラナメハメナメ	輪台ケリ平底	内外連続	内外連続	RP 346
87 2	43 8	25 17 SG 325	土師器	甕	156	200	(125)	(125)	内ハラナメナメナメ	ケズリ	内外連続	内外連続	RP 184
87 3	18 13 SG 325	土師器	甕	(153)	(110)	(154)	(154)	内ハラナメハメナメ	外ハラナメナメ	外底堅	外底堅		
87 4	21 13 SG 325	土師器	甕	(160)	(243)	(154)	(154)	内ハラナメハメナメ	ケズリ丸底	外底堅	外底堅		
87 5	18 13 SG 325	土師器	甕	(152)	(164)	(66)	(66)	内ハラナメナメ外ハ	ケズリ	内外連続	内外連続		
87 6	21 13 SG 325	土師器	甕		(30)	(30)	(30)	(30)	内ハラナメハメナメ	内底堅	内底堅厚底内面付着物	RP 260	
87 7	15 12 SG 325	土師器	甕		43	(21)	(21)	(21)	内ハラナメ	輪台ケリ丸底	内外連続	内外連続	
87 8	23 12 SG 325	土師器	甕		(160)	(33)	(33)	(33)	内ハラナメハメナメ	内底堅			
87 9	22 14 SG 325	土師器	甕		(180)	(29)	(29)	(29)	内ハラナメ	外底堅	外底堅厚底		
87 10	23 14 SG 325	土師器	甕		(160)	(21)	(21)	(21)	内ハラナメミキ	内外連続	内外連続		
88 1	45 8	21 14 SG 325	土師器	甕	185	(83)	(83)	(83)	内ハラナメナメナメ	内底堅	内底堅	RP 237	
88 2	45 4	22 12 SG 325	土師器	甕	202	(92)	(92)	(92)	内ハラナメ外ナメ	内底堅	内底堅厚底内面付着物	RP 385	
88 3	22 14 SG 325	土師器	甕	(160)	(85)	(85)	(85)	内ハラナメハメナメ	内底堅	内底堅厚底内面付着物	RP 161		

表 18 板橋2遺跡出土土器観察表(14)

種類	図版	グリッド	遺跡番号	鉢類	器種	口径	縦径	底径	高さ	調整特徴	底部特徴	備考	遺物番号
88 4	21	13 SG 325	土師器	甕	(158)	(55)	(55)	(55)	内ハラナメハメナメ	外ハケメ		内外底堅	内面周辺削
88 5	19	13 SG 325	土師器	甕	(158)	(55)	(55)	(55)	内ハラナメハメナメ	外ハケメ		RP 289	
88 6	22	13 SG 325	土師器	甕	(176)	(69)	(69)	(69)	内ハラナメハメナメ	内底堅	内底堅	内外底堅	
88 7	22	14 SG 325	土師器	甕	(163)	(236)	(236)	(236)	内ハラナメハメナメ	内底堅	内底堅	内外底堅	
88 8	22	14 SG 325	土師器	甕	134	(269)	(269)	(269)	内ハラナメハメナメ	内底堅	内底堅	内外底堅	RP 206
88 9	45 3	19 13 SG 325	土師器	甕	(182)	(224)	(224)	(224)	内ハラナメハメナメ	内底堅	内底堅	内外底堅	RP 290
88 10	15	12 SG 325	土師器	甕	(176)	(79)	(79)	(79)	内ハラナメハメナメ	内底堅	内底堅	内外底堅	RP 327
89 1	44 2	15 12 SG 325	土師器	甕	(190)	70	(340)	(340)	内ハラナメ外ハケメ	輪台	内外底堅		
89 2	21	13 SG 325	土師器	甕	163				内ハラナメ			RP 161	
89 3	21	13 SG 325	土師器	甕		(47)	(47)	(47)	内ハラナメナメ	外底堅	外底堅	RP 263	
89 4	24	15 SG 325	土師器	甕	(151)	(254)	(254)	(254)	内ハラナメナメナメ	外ハケメナメナメ	外ハケメナメ	RP 276	
89 5	44 5	21 13 SG 325	土師器	甕	(138)	(209)	(209)	(209)	内ハラナメハメナメ	外底堅	外底堅	RP 267	
89 6	19	13 SG 325	土師器	甕	(181)	(61)	(61)	(61)	内ハラナメナメハメ	内底堅	内底堅		
89 7	24	16 SG 325	土師器	甕	(184)	(26)	(26)	(26)	内ハラナメナメナメ	外底堅	外底堅	RP 268	
90 1	45 7	18 13 SG 325	土師器	甕	169	(61)	(61)	(61)	内ハラナメナメハメ	外ハケメナメ	外ハケメ	RP 261	
90 2	24	15 SG 325	土師器	甕	(184)				内ハラナメ			266	
90 3	45 6	25 17 SG 325	土師器	甕	160	(78)	(78)	(78)	内ハラナメナメナメ	内底堅	内底堅	RP 363	
90 4	24	18 SG 325	土師器	甕	(184)	(37)	(37)	(37)	内ハラナメ	外底堅	外底堅	RP 363	
90 5	24	18 SG 325	土師器	甕	(180)	(26)	(26)	(26)	内ハラナメナメナメ	ミキ	ミキ		
90 6	24	15 SG 325	土師器	甕	(169)	(54)	(54)	(54)	内ハラナメハメナメ	内底堅	内底堅	RP 252	
90 7	25	17 SG 325	土師器	甕	(166)	(66)	(66)	(66)	内ハラナメナメ	内底堅	内底堅	RP 183	
90 8	24	15 SG 325	土師器	甕	(162)	(59)	(59)	(59)	内ハラナメハメナメ	外ハケメナメ	外ハケメ	RP 269	
90 9	24	18 SG 325	土師器	甕	(191)				内ハラナメナメ				
90 10	24	16 SG 325	土師器	甕	(170)	(265)	(265)	(265)	内ハラナメハメナメ	外ハケメナメ	外ハケメ		
90 11	25	18 SG 325	土師器	甕	(158)	(44)	(44)	(44)	内ハラナメハメナメ	ナメ	ナメ		
90 12	45 10	21 15 SG 325	土師器	甕	157	(55)	(55)	(55)	内ハラナメナメミガ	外底堅	内底堅		
90 13	31 14 SG 325	土師器	甕	(143)	(38)	(38)	(38)	内ハラナメナメ	内底堅	内底堅	RP 232		
90 14	44 6	25 17 SG 325	土師器	甕	(183)	(70)	(70)	(70)	内ハラナメハメナメ	外ハケメナメ	外ハケメ	RP 434	
90 15	25	17 SG 325	土師器	甕	(175)	60	(106)	(106)	内ハラナメハメナメ	輪台ケリ平底	外底薄	内面付着物	
91 1	66 2	18 13 SG 325	土師器	甕	(177)	(86)	(86)	(86)	内ハラナメナメナメ	ハラナメ			
91 2	46 1	21 14 SG 325	土師器	甕	132	(88)	(88)	(88)	内ハラナメナメ	内底堅	内底堅	RP 137	
91 3	20	13 SG 325	土師器	甕	(240)	(51)	(51)	(51)	内ハラナメナメ	内底堅	内底堅		
91 4	14	12 SG 325	土師器	甕	(249)	(69)	(69)	(69)	内ハラナメナメ	内底堅	内底堅		
91 5	25	17 SG 325	土師器	甕	(139)	(34)	(34)	(34)	内ハラナメナメ	外ハケメ	外ハケメ		
91 6	25	17 SG 325	土師器	甕	(188)	(81)	(81)	(81)	内ハラナメナメ	内底堅	内底堅		
91 7	46 4	25 17 SG 325	土師器	甕	(112)	(91)	(91)	(91)	内ハラナメナメ	内底堅	内底堅	内外底堅	
91 8	46 6	25 17 SG 325	土師器	甕	112	(30)	(77)	(77)	内ハラナメナメ	外ハケメ	外ハケメ	RP 411	
91 9	16 12 SG 325	土師器	甕	(158)	(242)	(242)	(242)	内ハラナメナメ	ナメ	ナメ	内底堅		

表 19 板橋 2 遺跡出土土器觀察表 (15)

機種	規格	グリッド	通路番号	相隔	器具	口径	測定	底板	脚高	調整特徴	底部技術	参考	選品番号	
91_10	46_3	17_12	SG_32S	土留板_底	106	155				ケズリ丸底	内外底板 外面牽引	RP 315		
				13								335		
												345		
91_11	46_5	25_17	SG_32S	土留板_底	78	92	20	101	内ナダ外ハメナダ テラコッタ底	ケズリ丸底	外面被熱牽引	内面牽引	RP 422	
91_12	48_2	28_13	SG_32S	土留板_底	(82)	(101)	(73)	(93)	内ナダヘタナダナ ハメナダ		輪台ケズリ底板		RP 313	
92_1	47_2	27_17	SG_32S	土留板_底	104	122	56	136	内ナダラジナダヘタ ナダラギナダハメナ ダ	輪台ケズリ底板	内外底板 外面牽引	内面牽引	RP 315	
92_2	18_11	SG_32S	土留板_底	106	32	55	内ナダ			輪台ケズリ底板	内外底板 外面牽引 体部 削除を接続部で修補	RP 313		
92_3	46_8	24_16	SG_32S	土留板_底	97	140	47	147	内ナダミガニ	輪台ケズリ平板			RP 270	
92_4	25_17	SG_32S	土留板_底	(103)		(103)	内ナダミガニ				外面牽引		RP 184	
92_5	21_14	SG_32S	土留板_底	(108)		(94)	内ナダミガニナダ				外面牽引		RP 138	
92_6	20_13	SG_32S	土留板_底	(109)		(83)	内ナダヘタナダ				外面非燃焼 内面非燃		RP 267	
92_7	24_15	SG_32S	土留板_底	(110)		(98)	内ナダオキナ外ハ ミガニ				外面牽引		RP 273	
92_8	24_18	SG_32S	土留板_底	(110)		(103)	内ナダラジナダヘタ ナダミガニ				内外底板			
92_9	24_15	SG_32S	土留板_底	110		(75)	内ナダ				外底板 内外牽引		RP 251	
92_10	14_11	SG_32S	土留板_底	(76)		(23)					内外底板			
91_11	47_15	25_17	SG_32S	土留板_底	35	(95)	内ナダヘタナダ外ハ メナダヘタナダ 輪台	ケズリ底板	内面牽引	内外底板 外面被熱牽引	内面牽引	RP 425		
92_12	25_17	SG_32S	土留板_底	(139)							外底板		RP 199	
92_13	24_17	SG_32S	土留板_底	132		(98)	内ナダラジナダハ メナダミガニナダ				内外底板 外面牽引		RP 224	
92_14	46_7	16_13	SG_32S	土留板_底	90	(64)	内ナダ				内外底板		RP 310	
92_15	20_14	SG_32S	土留板_底	26	(45)	内ナダ				輪台ケズリ小平面	内外底板			
92_16	21_14	SG_32S	土留板_底	29	(86)	内ミガニ				内外底板		RP 134		
92_17	15_10	SG_32S	土留板_底	(89)		(46)	内ナダラジナダ ケズリハメナダ				内外底板 外面牽引			
93_1	49_13	25_18	SG_32S	土留板_有孔底	165	45	80	86	内ナダヘタナダス タ		内外底板 内面付着物			
93_2	49_14	25_17	SG_32S	土留板_有孔底	(174)	38	95	内ナダヘタナダハ メ			内外底板		RP 193	
93_3	18_13	SG_32S	土留板_底	(180)		(74)	(95)	内ナダラジナダハ メヘタナダ			内外付着物		RP 145	
93_4	24_18	SG_32S	土留板_底	(159)		(76)	内ナダラジナダハ メヘタナダ				内外付着物			
93_5	15_12	SG_32S	土留板_底	(180)		(61)	内ナダ				ケズリ丸底			
93_6	24_15	SG_32S	土留板_底	(180)		(61)	内ナダ				内外牽引		RP 274	
93_7	25_17	SG_32S	土留板_底	(160)		(45)	内ナダラジナダハ メ				内外牽引		RP 211	
93_8	24_15	SG_32S	土留板_有孔底	(42)	(71)	内ナダ					脚底		RP 274	
93_9	49_15	15_12	SG_32S	土留板_有孔底	23	(82)	内ナダラジナダハ メヘタナダ				内外底板		RP 375	377
93_10	18_13	SG_32S	土留板_底	(130)	(80)	(56)					内外底板 外面牽引			
93_11	25_17	SG_32S	土留板_底	(110)	(60)	(46)	内ナダミガニ				内外底板 色面化			
93_12	14_10	SG_32S	土留板_底	(100)		(58)	内ナダヘタナダハ メ				内外底板 内面色彩			
93_13	14_10	24_17	SG_32S	土留板_底	(102)	(85)	(35)	78	内ナダラジナダハ メナダ	ケズリ丸底	内外底板		RP 214	
93_14	14_11	21_13	SG_32S	土留板_底	(100)	(60)	(50)	内ナダ			内外底板		RP 309	
93_15	45_1	25_18	SG_32S	土留板_底	(98)		(50)	内ナダヘタナダハ メ			内外底板			
93_16	45_16	18_13	SG_32S	土留板_底	92	96	70	内ナダラジナダハ メナダ	ケズリ丸底	内外底板	内面材	RP 143		
93_17	22_15	SG_32S	土留板_底	(110)		(37)	内ナダラジナダハ メナダ				内外底板		RP 222	
93_18	48_3	21_14	SG_32S	土留板_底	(100)	(60)	(24)	内ナダ			内外底板		RP 136	

表 20 板橋 2 號墓出土土器調查表 (16)

第2回 佐賀県農業生産者年報(第10回)														
番号	規則	規格	グリッド	通帳番号	種別	耕種	耕作	施用	高さ	調整特徴	底面仕様	備考	選択番号	
93	19	17	12	SG 325	土壌耕 井	内	内外ナメ				外側底 内外赤茶			
			13											
93	20	24	16	SG 325	土壌耕 井	内	内外ナメ				外表面 内外耐摩 内外赤茶			
94	1	21	13	SG 325	土壌耕 売	(112) (115)	34 (160)	内ナメ外ハケメナ	輪台ケツリ皿底み底		内底底	RP 162		
94	2	13	SG 325	土壌耕 里		(129) (30)	(75) (100)	内ナメ外ハケメナ	輪台ケツリ皿底み底		外側底 外側厚壁	RP 162		
93	3	47	4	24	18	SG 325	土壌耕 里	(129)	(67)	内ナメ外ハラナ	輪台ケツリ皿底み底		内底底	RP 303
94	4	48	8	16	12	SG 325	土壌耕 井	219 196 42	121	内ナメ外ハケメナ	輪台ケツリ皿底み底		内外底面 内外耐熱壁	RP 333
			13											
94	5	24	17	SG 325	土壌耕 井	(236)	(102)	内ナメ外ラッダ				RP 183		
94	6	21	14	SG 325	土壌耕 井	(330) (289)	内ナメ外ハケメナ	外ナメ外ハケメナ				RP 239		
94	7	19	12	SG 325	土壌耕 井	(126)	(56)	内ナメナメ			外表面底 内外耐摩			
94	8	24	16	SG 325	土壌耕 井	(100) (101)	(39)	内ナメナメ			内外耐摩			
94	9	17	12	SG 325	土壌耕 井	(160) (148)	(53)	外ナメナメ			外側底 内外耐摩	RP 357		
94	10	23	17	SG 325	土壌耕 井	(149) (121)	(47)	内ナメ外ハラナ			内底底 内面底	RP 367		
94	11	41	9	25	17	SG 325	土壌耕 井	(138) (154)	(81)	内ナメ外ハラナ外	輪台ケツリ皿底み底		外表面	RP 367
94	12	24	18	SG 325	土壌耕 井	(97) (109)	(94)	内ナメラッタナ外			外表面			
94	13	48	7	15	12	SG 325	土壌耕 井	140	61	内ナメ外ハラナ外	輪台ケツリ皿底み底		外側底	RP 333
			25											
94	14	25	17	SG 325	土壌耕 井	(139) (115)	(38)	内ナメハラメハメ			内外底面 内外耐摩	RP 302		
94	15	28	17	SG 325	土壌耕 井	(122)	(82)	(59)	内ナメ外ハラナ		内底底			
95	1	48	5	21	12	SG 325	土壌耕 井	144 109	67	内ナメ外ハラナ	ケズリ丸底		内外耐摩	RP 361
			13											
95	2	48	12	25	18	SG 325	土壌耕 井	(130)	(33)	内ハケメナメハメ	輪台ケズリ丸底		内外底面 外側耐熱 内面	RP 361
95	3	21	14	SG 325	土壌耕 井	(154)	(67)	内ナメ外ハラナ			内底底			
95	4	48	4	25	17	SG 325	土壌耕 井	(156)	(52)	外ハケメナメ			外側底 拘束厚壁 内面	RP 154
95	5	48	6	24	17	SG 325	土壌耕 井	(130) (112)	(18)	内ナメハラメハメ	平底ケズリ耐摩性		内外耐摩	RP 214
95	6	28	17	SG 325	土壌耕 井	(136) (121)	(47)	内ナメ外ハラメハ			外側底 内面耐摩			
95	7	24	15	SG 325	土壌耕 井	(228) (206)	(50)	内ナメナメナメ			内底底 内外厚壁			
95	8	21	13	SG 325	土壌耕 井	130 101	(43)	内ナメナメナメ						
95	9	21	14	SG 325	土壌耕 井	(129)	(23)	外ナメナメ						
95	10	48	9	25	17	SG 325	土壌耕 井	(169)	(48)	内ナメラッタナ外	ケズリ平底		内外底面 外側耐熱	RP 393
95	11	49	12	21	14	SG 325	土壌耕 井	88 79	27	52	内ナメハラメ			
95	12	47	6	15	11	SG 325	土壌耕 井	68 62	68	32	内ナメハラメ			
95	13	24	17	SG 325	土壌耕 井	手づくね (70)	(72)	(35)	内底底ナメ		外側底	RP 220		
95	14	49	2	24	17	SG 325	土壌耕 井	手づくね (60)	(68)	55	内ナメナメ			RP 176
95	15	21	13	SG 325	土壌耕 井	手づくね (65)	(63)	(37)	内ナメナメ		外側底	RP 169		
95	16	47	25	17	SG 325	土壌耕 井	手づくね (61)	60	41	内ナメハラメナメ			内底底	RP 179
95	17	24	16	SG 325	土壌耕 井	手づくね	(45)	内ナメナメナメ	輪台ケズリ平底		外側底			
95	18	18	13	SG 325	土壌耕 井	手づくね (68)	30	50	内ナメナメナメ		外側底	RP 144		
95	19	25	18	SG 325	土壌耕 井	手づくね (64)	(56)	(37)	内ナメナメナメ		外側底			
95	20	49	5	24	16	SG 325	土壌耕 井	手づくね (60)	62	26	(29) 内ナメナメ			
95	21	24	16	SG 325	土壌耕 井	手づくね (68)	38	(25)	内ナメナメ		内底底			
95	22	14	16	SG 325	土壌耕 井	手づくね (63)	(40)	(44)	内ナメハラメナメ	輪台ケズリ小平底		内外底面	RP 239	

表21 板橋2遺跡出土土器觀察表(17)

埋回	埋深	グリッド	遺構番号	種別	器形	口径	脚径	底径	壁高	器高	調整特徴		底部接法	機能	遺物番号	
											内側	外側				
95 23	25	17	SG 325	土器類	手づくね	56	20		内・外斜外ハメケメリ				ケズリ平小底	外底直		
95 24	49	10	18 13	SG 325	土器類	手づくね	52	29	41	内・外ナダ				内底直	RP 530	
95 25	18	13	SG 325	土器類	手づくね	(33)	(20)		内ナダ・外ナダケズリ				内底強け仕組	RP 149		
95 26	18	13	SC 325	土器類	手づくね	(53)	(27)	(45)	内ナダ				内底直	外底直		
95 27	18	13	SG 325	土器類	手づくね	55	57	27	(51)	内・外ナダ			内底直	外底直	RP 323	
95 28	18	13	SG 325	土器類	手づくね	54	26	(63)	内ナダ・外ナダ				内底直	外底直	RP 242	
95 29	49	9	18 13	SG 325	土器類	手づくね	53			内・外斜外ハメケメリ				内底直	外底直	RP 142
95 30	18	13	SG 325	土器類	手づくね	(36)	(32)									
95 31	25	17	SG 325	土器類	手づくね	(35)	(25)	(25)	内・外ナダ							
95 32	49	11	18 13	SG 325	土器類	手づくね	(50)	(35)	(42)	内・外ナダ						
95 33	49	6	18 13	SG 325	土器類	手づくね	44									
95 34	18	13	SG 325	土器類	手づくね	(50)	(31)	(31)	内・外ナダ							
95 35	24	17	SG 325	土器類	手づくね	46	40	21	内・外ナダ							
109 4	25	17	SG 325	土器類	器身								外底直	RP 300		
109 5	53	6	14 11	SG 325	土器類	不明	28	35	30						RP 212	
109 6	53	1		SG 325	土器類	土器	25									
109 7	53	2	21	14	SG 325	土器類	土器	24							RP 232	
109 8	49	3	24	17	SG 325	石製品	勾玉	32							RQ408と上	
109 9	49	1	24	17	SG 325	石製品	臼玉	4	3						石製品 RQ175、RQ409と上	
109 10	33	3													24個 RQ408と上	
110 1	20	12	SG 325	陶器類	鉢	(300)	(49)		内・外ナダ							
110 2	54	6	24	17	SG 325	陶器類	环	(142)	(92)	33	内・外ナダ					
110 3	54	4	24	17	SG 325	陶器類	环	119	84	32	内・外ナダ				浅切	
110 4	X-O	陶器類	平わん												口部内側に底付着物	
111 1	24	1	20	20	陶器類	深鉢									RP 555	
111 2	25	8	21	19	陶器類	深鉢									大木8a	
111 3	25	29	20	20	陶器類	深鉢									大木8a	
111 4	17	26	陶器類	深鉢											大木8a	
111 5	25	24	20	20	陶器類	深鉢									大木8a	
111 6	25	48	22	20	陶器類	深鉢									大木8a	
111 7	26	8	22	19	陶器類	深鉢									大木8a	
111 8	25	9	21	19	陶器類	深鉢									大木8a	
111 9	25	4	19	21	陶器類	深鉢									大木8a	
111 10	25	12	21	19	陶器類	深鉢									大木8a	
111 11	25	2	19	20	陶器類	深鉢									大木8a	
111 12	25	14	21	19	陶器類	深鉢									大木8a	
111 13	25	52	22	19	陶器類	深鉢									大木8a	
111 14	25	49	23	19	陶器類	深鉢									大木8a	
111 15	25	51	22	19	陶器類	深鉢									大木8a	
111 16	25	13	21	20	陶器類	深鉢									大木8a	
112 1	24	4	23	19	陶器類	深鉢									大木8a	
112 2	25	27	A区	陶器類	深鉢										大木8a	
112 3	25	11	21	20	陶器類	深鉢									大木8a	
112 4	26	10	22	19	陶器類	深鉢									大木8a	
112 5	24	5	23	20	陶器類	深鉢									大木8a	

表22 板橋2遺跡出土土器觀察表(18)

埋回	埋深	グリッド	遺構番号	種別	器形	口径	脚径	底径	壁高	器高	調整特徴		底部接法	機能	遺物番号
											内側	外側			
112 6	25	53	22	20	陶器類	深鉢							帆船形竹管平行	外側直	RP 562
112 7	26	16	19	20	陶器類	深鉢					(49)		交瓦形舟形	外側直	
112 8	24	3	A区	陶器類	深鉢								交瓦形舟形	外側直	
112 9	26	13	22	19	陶器類	深鉢							内・外斜直	大木7b	RP 556
112 10	25	25	22	19	陶器類	深鉢							内・外斜直	大木7b	RP 556
113 1	25	18	20		陶器類	深鉢							内・外斜直	大木7b	RP 555
113 2	25	17	20		陶器類	深鉢							内・外斜直	大木7b	RP 555
113 3	24	6	23	19	陶器類	深鉢					312		帆船形	外ナダ	RP 558
113 4	23	1	22	20	陶器類	深鉢					(194) (304)		帆船形	内・外斜直	RP 552
113 5					陶器類	深鉢					142 (44)		帆船形	中	RP 585
113 6					陶器類	深鉢					(120)		帆船形	中	
113 7	24	7	22	18	陶器類	深鉢					56 (13)		帆船形	内・外斜直	
114 1	23	6	20		陶器類	深鉢					(145)		帆船形	底付直	
114 2	23	5	14	13	陶器類	鉢					279		口縁斜直	帆船形	RP 44
114 3	23	3	22	22	SK	深鉢					205 303	60	220	L型	RP 888
115 1	24	2	21	20	陶器類	鉢					(322)		内・外底直	外側被熱付着物	
115 2					陶器類	鉢					(16)		内・外底直	帆船形	RP 52
115 3	24	5	13	14	陶器類	深鉢					(L)		内・外斜直	底付直	
115 4	25	60	22	19	陶器類	鉢					(85)		内・外斜直	帆船形	
115 5	25	28	20	20	陶器類	鉢					L		内・外底直	帆船形	RP 555
115 6	25	56	14	16	陶器類	鉢					(60)		底付直	帆船形	
115 7	14	16			陶器類	鉢					(80)		底付直	帆船形	
115 8	17	21			陶器類	鉢					(15)		底付直	帆船形	
115 9	25	6	19	19	陶器類	鉢					(60)		底付直	帆船形	
115 10	17	21			陶器類	鉢					(1)		底付直	帆船形	
115 11	25	5	19	20	陶器類	深鉢					(46)		内・外斜直	帆船形	
115 12	25	26	20	20	陶器類	深鉢					(56)		内・外斜直	帆船形	
115 13	25	13	19	20	陶器類	深鉢					(56)		内・外斜直	帆船形	
115 14	26	16	21	21	陶器類	深鉢					(57)		内・外斜直	帆船形	
115 15	25	58	14	15	陶器類	深鉢					(41)		内・外斜直	帆船形	
115 16	25	16	20	20	陶器類	深鉢					(38)		内・外斜直	帆船形	
115 17	25	25	22	19	陶器類	深鉢					(22)		内・外斜直	帆船形	
115 18	26	17	19	19	陶器類	底付直					(42)		内・外斜直	帆船形	
115 19	26	16	19	19	陶器類	底付直					(40)		内・外斜直	帆船形	
118 1	17	14			陶器類	鉢					(30)		内・外斜直	帆船形	
118 2	26	52	20		陶器類	四石					(4)		内・外斜直	帆船形	
118 3	26	53	23	20	陶器類	四石					111		内・外斜直	帆船形	RP 593
118 4	26	51			陶器類	四石					111		内・外斜直	帆船形	
118 5	26	49			陶器類	四石					101		内・外斜直	帆船形	
118 6	26	48	20	20	陶器類	四石					93		内・外斜直	帆船形	
118 7	26	51	14	18	陶器類	四石					32		内・外斜直	帆船形	
119 1	51	8	14	18	土器類	高环					110		内・外斜直	帆船形	RP 78

表 23 板橋 2 遺跡出土土器觀察表 (19)

表 24 板櫈 2 遺跡出土土器觀察表 (20)

表 25 板橋 2 遺跡出土木製品觀察表 (1)

¹⁰ 本稿では、この「生物学的性別」を「生物学的性別」として記す。生物学的性別は、生物学的な性別（性染色体や性ホルモン）によって決まる性別である。

牌種	回数	回路	グリッド	位置	大項目	中項目	小項目	長名	略名	高さ	備考	
6	18	4	S6S25	12	15	RW 136 兵員	一木敵	三叉曲	(69.0)	163.0	33.0	前側上木脚組
3	18	4	S6S25	25	17	RW 420 兵員	一木敵	三叉曲	(47.0)	160.0	30.0	前側下木脚組
3	17	3	S6S25	25	18	RW 421 兵員	直角	直角	(60.0)	160.0	30.0	前側下木脚組
6	18	4	S6S25	25	18	RW 432 兵員	直角	直角	(16.0)	23.0	26.0	刀脚付け用兵脚孔有り
7	18	6	S6S25	24	19	RW 226 兵員	複合曲	平頭	(26.0)	162.0	30.0	刀脚付け用兵脚孔有り
7	2	16	S6S25	18	12	RW 294 兵員	曲柄脚	平頭	(80.0)	160.0	30.0	刀脚付け用兵脚孔有り。一部折損。
3	18	1	S6S25	25	17	RW 386 兵員	柄穴脚	広底	(246.0)	(230.0)	41.0	側面用兵脚用兵脚孔有り。新木取。
19	3	18	S6S25	18	11	RW 296 兵員	田下駄	55.0	170.0	20.0	穿孔	
3	2	19	S6S25	18	11	RW 61 兵員	田下駄	(62.0)	184.0	30.0	穿孔。肘肘脚用。前面に24.5cmの縦の溝を有り。	
9	1	19	S6S25	25	17	RW 217 兵員	田下駄	(414.0)	253.5	165.0	前側上木脚組	
2	19	4	S6S25	19	12	RW 282 兵員	田下駄	(423.0)	(108.0)	9.0	手足ラバフ	
2	3	18	S6S25	16	11	兵員	田下駄?	(287.5)	(47.0)	13.0	兵員。手足有り	
18	3	18	S6S25	16	11	兵員	田下駄?	(373.0)	(46.0)	17.0	前側脚。穿孔2つ。	
6	2	18	S6S25	16	11	兵員	田下駄?	(479.5)	(83.0)	160.0	兵員。穿孔2つ。	
0	1	18	S6S25	18	11	RW 297 兵員	大足?	(34.0)	160.0	30.0	前側上木脚組。テナリ有り	
0	2	18	S6S25	18	11	RW 296 兵員	大足?	(345.0)	65.0	16.0	前側上木脚組。テナリ有り	
0	3	19	S6S25	18	11	RW 294 兵員	田下駄	(370.0)	(80.0)	78.0	手足2つ。	

表26 板橋2遺跡出土木製品観察表(2)

測面	国版	遺物	グリッド	遺物番号	大項目	中項目	小項目	長さ	幅	高さ	備考		
											形状	特徴	
100 4	19 2	SG255	25 17	RW 432	鳥糞	大尻	(737.0) 37.0 25.0	7.0	25.0	1.5	丸孔5つ		
100 5	22 8	SG255	16 13	RW 457	鳥糞	柄	(566.0) 33.0 34.0	7.0	25.0	1.5	丸孔にケズリ有。		
100 6	22 8	SG255	23 15	RW 452	鳥糞	柄	(761.0) 37.0 38.0	7.0	25.0	1.5	丸孔有り。先折れ		
101 1		SG255	22 13		鐵	鉗具	(506.0) 25.5 22.5	7.0	25.0	1.5	丸孔無し。		
101 2	20 3	SG255	22 13	RW 159	円形骨物	骨物底	(450.0) 45.0 40.0	10.0	40.0	33.0	横刃部に穿孔33個		
101 3	20 2	SG255	25 18	RW 357	骨器	骨	(537.0) 32.0 25.0	7.0	25.0	1.5	丸孔2つ。取っ手用か		
101 4	20 3	SG255	24 17	RW 363	骨器	骨	(528.0) 62.0 20.0	7.0	25.0	1.5			
102 1	21 1	SG255	18 13		用具不品		176.0	(159.0)	9.0	6.0	6つの穴と中央に大穴穿孔		
102 2	22 2	SG255	25 18		骨物底状木製品		176.0	(159.0)	9.0	6.0	6つの穴と中央に大穴穿孔		
102 3	22 2	SG255	25 18	RW 38	武具	刀身	(360.0) 14.0 14.0	14.0	14.0	14.0	倒伏		
102 4		SG255	25 18		柄	矢先	352.0	18.0	15.0	15.0			
102 5		SG255	25 17	RW 421	用具不品	板状加工品	(150.0) 25.0 25.0	1.5	25.0	1.5	斜削		
102 6	21 5	SG255	16 13	RW 355	工具	鋸	(500.0) 12.5 12.5	7.0	12.5	7.0			
102 7		SG255	19 13		工具	鋸	(165.0) 34.0 8.5	7.0	34.0	8.5			
102 8		SG255	24 16		用具不品	乳狀木製品	166.0	34.0	35.0	7.0	丸孔有り		
103 1	21 5	SG255	16 12		建築材	板材	226.0	117.0	41.5	15.0	両端手握り倒伏有		
103 2	21 7	SG255	25 17		建築材	板材	(156.0) 73.0	10.0	10.0	10.0	くり抜き穴有り		
103 3	21 2	SG255	22 2T		建築材	板材	(182.0)	(62.0)	15.5	15.5	斜削		
103 4	21 3	SG255	24 16		建築材	板材	228.0	116.0	15.0	15.0	両端手握り倒伏有		
103 5	21 3	SG255	25 13		建築材	板材	228.0	116.0	15.0	15.0	両端手握り倒伏有		
104 1		SG255	24 16	RW 256	建築材	板材	311.0	99.0	15.0	15.0	手握りスクリ		
104 2	21 4	SG255	24 17	RW 369	建築材	板材	(166.0) 130.0	10.0	10.0	10.0	斜削		
104 3		SG255	20 12		建築材	板材	(140.0) (61.0)	12.0	12.0	12.0	切り抜き穴有り		
104 4	21 21	SG255	25 17		建築材	板材	(141.0) 73.0	17.0	17.0	17.0	手握り切削		
104 5	22 4	SG255	25 18		用具不品	建状木製品	135.0	140.0	120.0	120.0	全削り倒伏有り		
105 1		SG255	15 12	RW 149	鳥糞	柄	894.0	25.0	14.0	14.0	切り抜き穴所有有り		
105 2		SG255	19 12	RW 149	鳥糞	柄	(500.0)	170.0	19.0	19.0	先折れ片方倒伏		
105 3		SG255	19 12	RW 149	鳥糞	柄	(500.0)	170.0	19.0	19.0	先折れ片方倒伏		
105 4		SG255	19 13		鳥糞	柄	(500.0)	170.0	19.0	19.0	先折れ片方倒伏		
105 5		SG255	19 13		鳥糞	柄	(500.0)	170.0	19.0	19.0	先折れ片方倒伏		
105 6		SG255	19 13		鳥糞	柄	(500.0)	170.0	19.0	19.0	先折れ片方倒伏		
105 7		SG255	19 13		鳥糞	柄	(500.0)	170.0	19.0	19.0	先折れ片方倒伏		
105 8		SG255	19 13		鳥糞	柄	(500.0)	170.0	19.0	19.0	先折れ片方倒伏		
105 9		SG255	25 17		建築材	木材	369.0	16.0	12.0	12.0	角削り		
105 10		SG255	16 11	RW 352	土木材	板材	(262.0)	30.0	35.0	20.0	表面粗化。		
105 11		SG255	16 11	RW 352	土木材	板材	287.0	29.0	20.0	20.0	表面粗化。		
105 12	22 9	SG255	25 17		用具不品	建状木製品	969.0	34.0	32.0	15.0	中挖り。裏削。片端を尖らす。		
106 3	22 7	SG255	19 13	RW 384	土木材	板材	(771.0)	51.0	41.0	41.0	反り有り		
106 4		SG255	24 16	RW 455	土木材	板材	(771.0)	51.0	41.0	41.0	反り有り		
106 5		SG255	24 16	RW 453	建築材	角材	716.0	38.0	30.0	40.0	反り有り		
107 1		SG255	16 11	RW 455	建築材	板材	(614.0)	(152.0)	17.0	17.0	手握り倒伏有り		
107 2		SG255	19 13	RW 455	建築材	板材	(667.0)	(89.0)	29.0	29.0	ハンドル。ケズリ倒伏。		
107 3		SG255	24 16		建築材	板材	(356.0)	43.0	20.0	20.0	芳化變形し		
107 4		SG255	24 16		建築材	板材	(176.0)	43.0	20.0	20.0	芳化變形し		
108 1		SG255	24 16	RW 459	建築材	板材	(150.0)	(160.0)	7.0	7.0	一括削		
108 2		SG255	25 17		建築材	角材	(405.0)	32.0	47.0	47.0			
108 3	22 5	SG255	25 17		建築材	角材	(203.0)	81.0	88.0	88.0	ケズリ有り。剥り引き。		
108 4		SG255	24 17	RW 223	建築材	角材	(389.0)	37.0	(25.0)	25.0	磨耗。折損。		
108 5		SG255	18 13	RW 148	建築材	板材	(324.0)	84.0	(38.0)	38.0	磨耗。		
108 6	22 6	SG255	24 17	RW 204	建築材	角材	(226.0)	56.0	57.0	57.0	夷化		
109 1		SG255	25 17	RW 431	土木材	板材	(156.0)	64.0	41.0	41.0	先削り化		
109 2		SG255	24 16	RW 455	土木材	板材	(143.0)	60.0	50.0	50.0	先削り化		
109 3		SG255	19 13	RW 453	土木材	板材	(143.0)	62.0	55.0	55.0	両端にケズリ有り。		
110 4		SG255	22 12	RW 158	骨器	円形骨物	骨物	181.0	180.0	63.0	63.0	ロクナ。底部にロクロの系統有り。	
110 6	20 1	SD28	RW 19	容器	漆器	漆	93.0	67.0	15.0	15.0	漆器。底部にロクロの系統有り。黒漆。		
110 7	22 3	SG255	19 13	RW 291	漆身具	漆	(52.0)	22.0	50.0	50.0			

表27 板橋2遺跡出土石器観察表(2)

測面	国版	遺物	グリッド	遺物番号	大項目	中項目	小項目	長さ	幅	高さ	備考		
											道幅	梯幅	
31 8	26 28	SG255		ST220	凹墨	遺物貯留	SP	SP	洞片	不明	加工	19.8	11.8
31 9	29 29	SG255		ST219	凸墨	遺物貯留	SP	SP	洞片	不明	加工	27.0	13.0
40 6	26 35			ST233	石器未成形	遺物貯留	H	H	洞片	HD	加工	88.4	13.2
110 1	26 27			A区	有刃石器	橢圓	SP	SP	洞片	不明	加工	34.5	11.1
110 2	26 25	SG255	21 24	A区	有刃石器	橢圓	SP	cSP	洞片	不明	加工	34.5	11.5
110 3	26 25	SG255	23 23	A区	有刃石器	橢圓	SP	cSP	洞片	不明	加工	28.6	18.5
110 4	26 23			A区	石器	橢圓	SP	SP	洞片	HD	加工	56.1	16.0
110 5	26 24			A区	石器	橢圓	SP	SP	洞片	不明	加工	32.5	20.5
110 6	26 40			A区	石器	橢圓	H	H	洞片	HD	平削	90.0	56.2
110 7	26 44			A区	礫形石器	橢圓	SP	SP	洞片	不明	加工	68.3	12.6
110 8	26 40			A区	礫形石器	橢圓	SP	SP	洞片	不明	加工	68.3	7.9
110 9	26 29	SG255	22 19	A区	礫形石器	橢圓	SP	cSP	洞片	HD	加工	68.9	34.0
110 10	26 36	SG255	22 19	A区	礫形石器	橢圓	SP	SP	洞片	HD	加工	69.6	19.0
110 11	26 39			A区	礫形石器	橢圓	SP	SP	洞片	不明	加工	49.8	13.5
110 12	26 50			A区	礫形石器	橢圓	SP	SP	洞片	不明	加工	42.7	11.1
110 13	26 37	SG255	20 19	A区	礫形石器	橢圓	SP	cSP	洞片	HD	加工	65.7	31.3
110 14	26 36	SG255	21 19	A区	礫形石器	橢圓	SP	SP	洞片	不明	加工	113.7	19.0
110 15	26 19	SG255	21 19	A区	石器	橢圓	SP	SP	洞片	HD	加工	72.4	25.5
110 16	26 20	SG255	22 18	A区	石器	橢圓	SP	SP	洞片	不明	加工	37.1	12.5
110 17	26 22	SG255	22 17	A区	石器	橢圓	SP	SP	洞片	不明	加工	45.9	14.3
110 18	26 21	SG255	21 19	A区	石器	橢圓	SP	SP	洞片	HD	加工	54.0	16.0
110 19	26 33	SG255	19 20	A区	礫器	橢圓	SP	cSP	洞片	HD	加工	72.3	34.3
110 20	26 34	SG255	20 19	A区	礫器	橢圓	SP	SP	洞片	HD	切子打削	69.5	11.3
110 21	26 35	SG255	19 20	A区	礫器	橢圓	SP	SP	洞片	HD	切子打削	57.1	11.1
110 22	26 35	SG255	21 19	A区	礫器	橢圓	SP	SP	洞片	HD	平削	68.7	11.4
110 23	26 36	SG255	21 19	A区	礫器	橢圓	SP	SP	洞片	HD	加工	68.7	11.4
110 24	26 47	SG255	21 19	A区	尖頭鬚器	橢圓	SP	SP	洞片	HD	加工	48.2	22.8</td